

## 第 5 節 堅穴建物跡・堅穴状遺構 (図 93～112、表 43～51)

焼山地区の全域から堅穴建物跡・堅穴状遺構が 57 軒検出されている。小さいものは堅穴状遺構と分類されているものもあるが、構造的に変わりがないため、堅穴建物跡と同列に扱った。地区区分を問わずに遺構番号順に堅穴建物跡の平面図と出土遺物を掲載した。堅穴建物跡は、配置・方位・形状等から、A～H 類の 8 種 (細分で 10 種) に分類することが可能である。A 類は中央部、B～G 類は南西部、H 類は北西部に配置されるものである。

A 類：焼山地区中央部に配置される堅穴建物群。方位によりさらに細分できる。

A-1 類：方位がおおよそ真北 (北で 5° 西～9° 東) の一群。SI003 (4 次)、SI303・306 (21 次)、SI307 (21 次)、SI1210 (59 次)、SI1456・1457 (66 次)、SI1626～1628 (73 次)、SI1937 (89 次)、SI2526～2529 (111 次) が該当する。

A-2 類：方位が西 (北で 10～24° 西) に振れる一群。SI309・311・312 (21 次)、SI1516・1517 (70 次)、SI1629 (73 次) が該当する。

A-3 類：方位が東 (北で 10～23° 東) に振れる一群。SI304・305・308・310 (21 次) が該当する。

B 類：南西部の城内区画施設内に配置され、方位が東 (北で 9～14° 東) に振れる一群。SI2072 (96 次)、SI2157 (99 次)、SI2463 (108 次) が該当する。

C 類：南西部の城内区画施設内に配置され、方位が西 (北で 5～30° 西) に振れる一群。SI2547～2549 (112 次) が該当する。

D 類：南西部の城内区画施設内に配置され、方位が真北の一群。SI2459～2462 (108 次)、SI2537 (112 次) が該当する。

E 類：南西部の区画施設外に配置され、方位が東 (北で 12～19° 東) に振れる一群。SI1806・1807 (85 次)、SI1824～1827 (86 次)、SI2073 (96 次) が該当する。

F 類：南西部の城内区画施設外に配置され、方位がおおよそ真北 (真北～北で 10° 東) に振れる一群。SI2070・2071 (96 次)、SI2586～2589 (116 次) が該当する。

G 類：南西部の区画施設外に配置され、方位が東 (北で 7～15° 東) に振れ、平面形が小型・不整形の一群。SI2550 (112 次)、SI2585 (116 次)、SX2598 (116 次) が該当する。

H 群：上記以外の北西部に配置される一群。SI2343 (106 次 B)、SI2578・2579 (115 次)、SI2623・2625 (117 次 C-2) が該当する。

検出層位・出土遺物の年代等から各類型の年代をみると、A 類は 8 世紀後半～9 世紀前半、特に 8 世紀第 4 四半期～9 世紀第 1 四半期のものが多い。B 類は 9 世紀第 2～4 四半期、C 類は 8 世紀第 4 四半期～9 世紀第 2 四半期 (9 世紀第 2 四半期が中心)、D 類は 9 世紀第 4 四半期～10 世紀第 2 四半期、E 類は 8 世紀第 4 四半期～9 世紀第 4 四半期、F 類は 9 世紀第 4 四半期～10 世紀第 2 四半期、G 類は 8 世紀後半、H 類は 8 世紀代と推定される。特に H 類の SI2625 は SF2624 築地堀跡の直下から検出されている。

A 類は中央部掘立柱建物群と配置が重複し、SI303 (A-1 類) → SB313 (C-1 類)、SB314A・B (B-1 類) → SI307 (A-1 類) という新旧関係がある。また、B・C 類は床面に炉跡があり、鉄滓が出土する。また、D 類からは鉄製品や鉄滓が出土する。SI2528 (111 次) 床面から、漆蓋紙 (39 号漆紙文書、別編 4 第 2 節参照) を伴う須恵器杯を転用した漆容器が出土している。

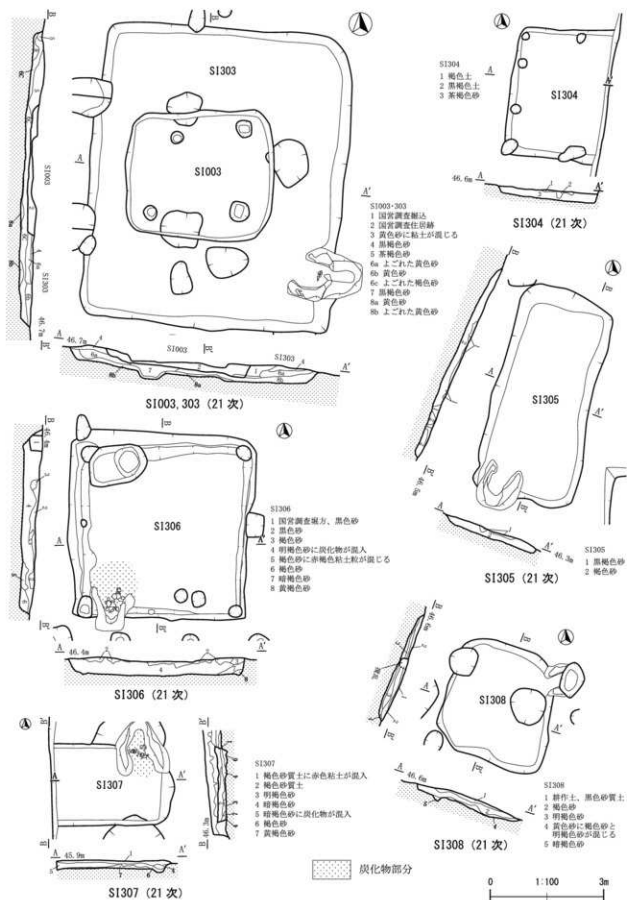


図 93 竪穴建物跡①(S1003, 303 ~ 308 竪穴建物跡)

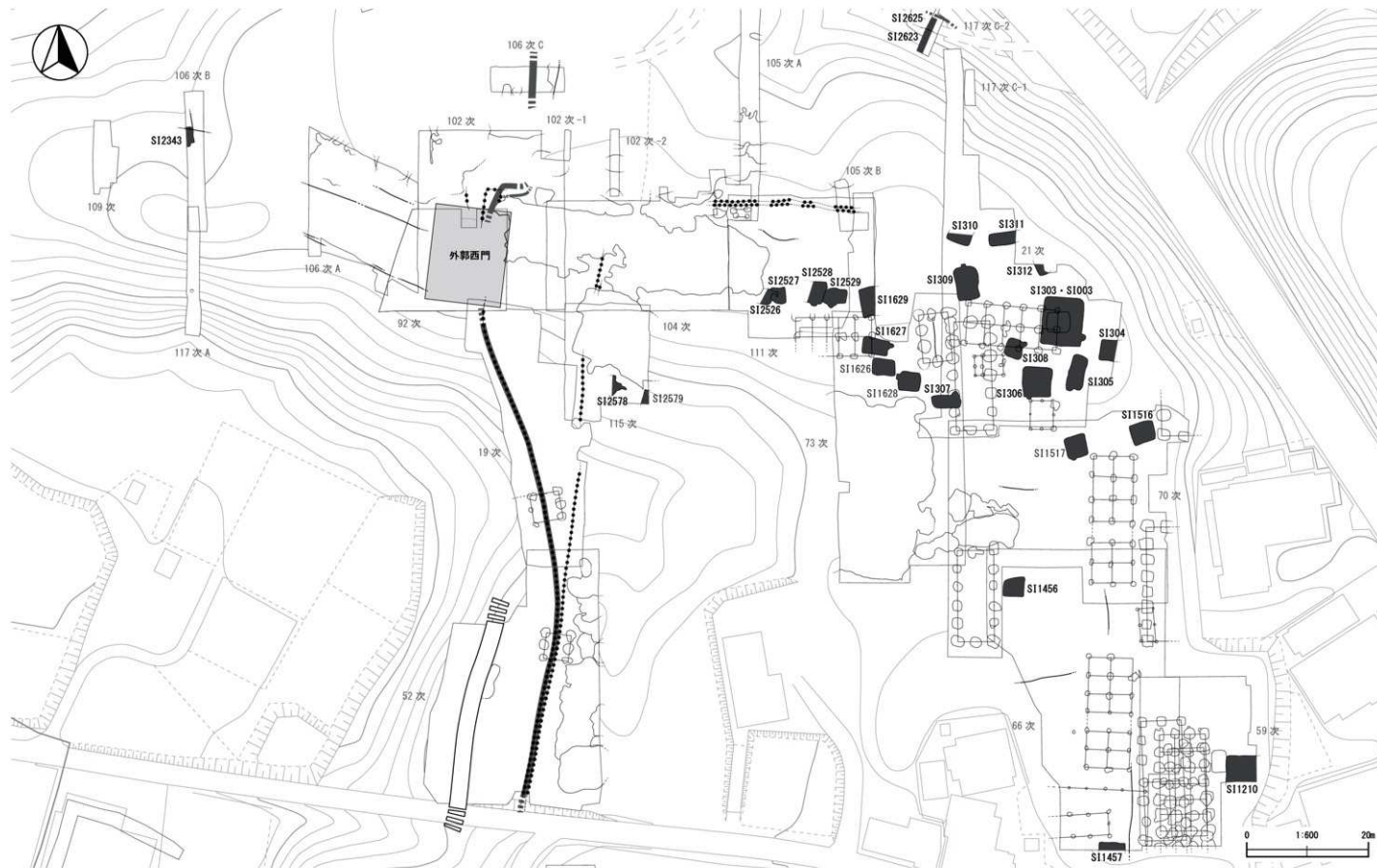


图 94 堅穴建物跡北半部概略図



図 95 堅穴建物跡南半部概略図

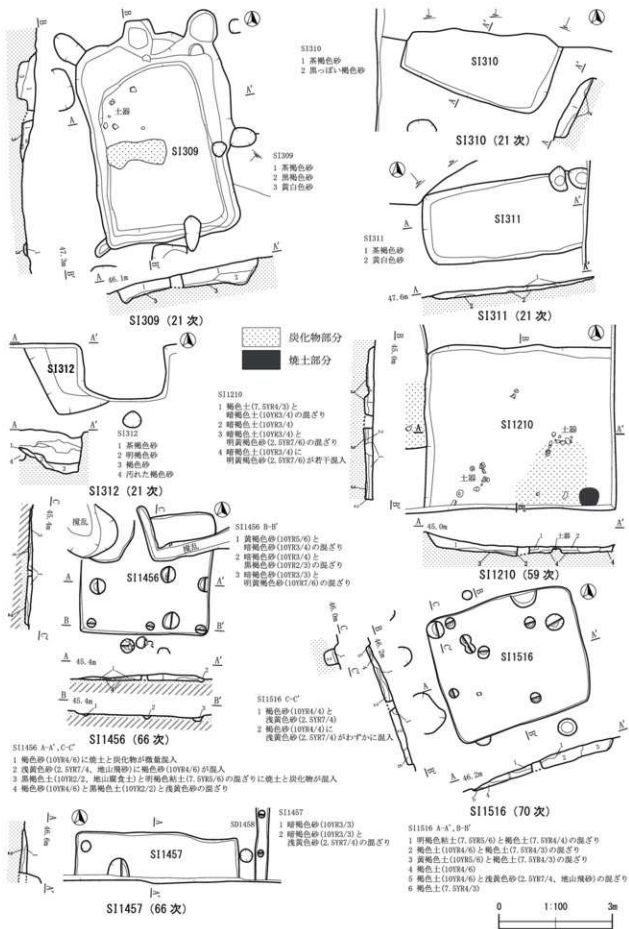


図96 堅穴建物跡②(SI309～312, 1210, 1456, 1457, 1516 堅穴建物跡)

V 古代の竪穴遺構と出土遺物 (5型穴建物跡)

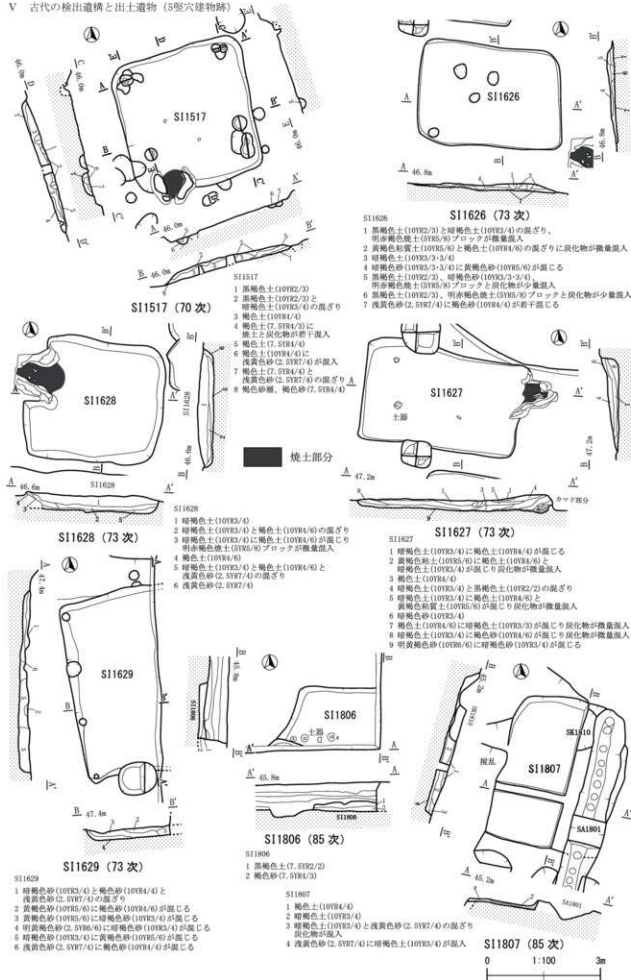


図97 竪穴建物跡③(SI1517, 1626~1629, 1806, 1807 竪穴建物跡)

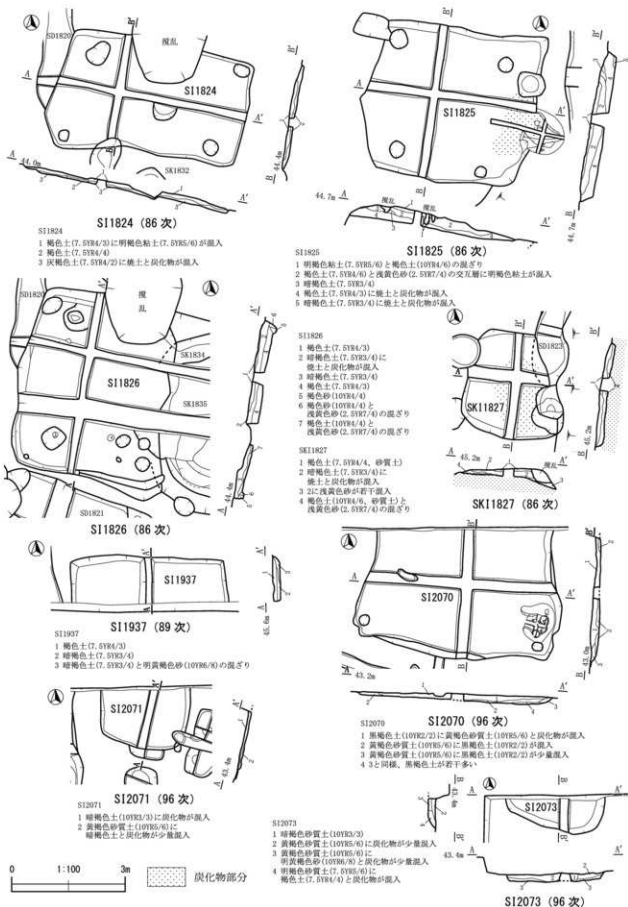


図 98 堅穴建物跡④(SI1824 ~ 1826, SKI1827, SI1937, 2070, 2071, 2073 堅穴建物跡)

V 古代の検出遺構と出土遺物 (5型穴建物跡)

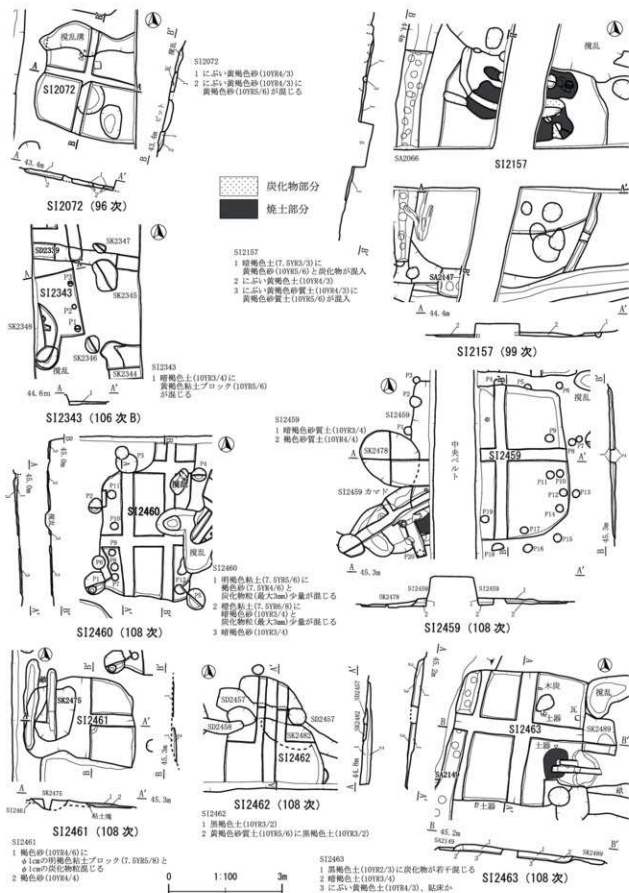


図99 竪穴建物跡⑤(S12072, 2157, 2343, 2459 ~ 2463 竪穴建物跡)



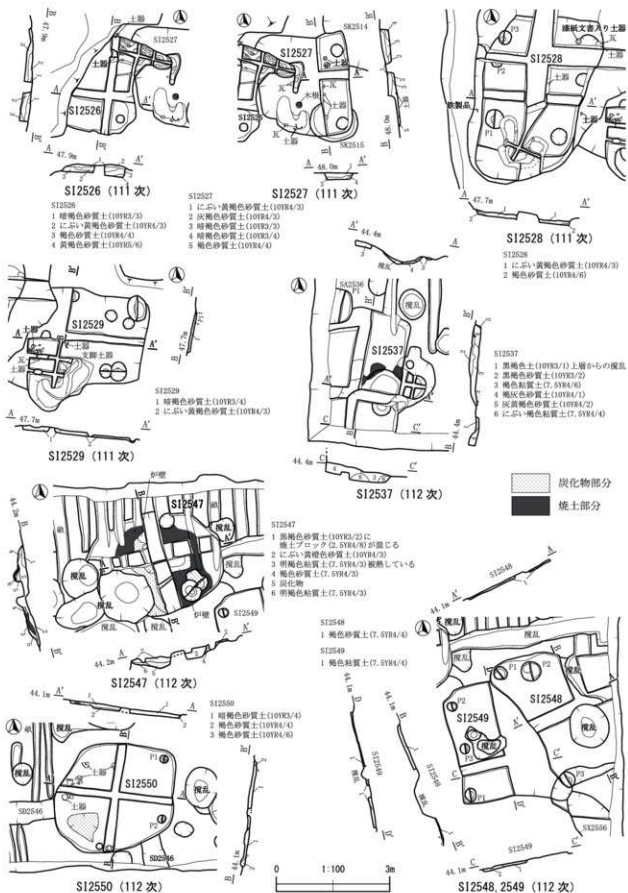


図100 堅穴建物跡⑥(S12526～2529, 2537, 2547～2550 堅穴建物跡)

V 古代の検出遺構と出土遺物 (5型穴建物跡)

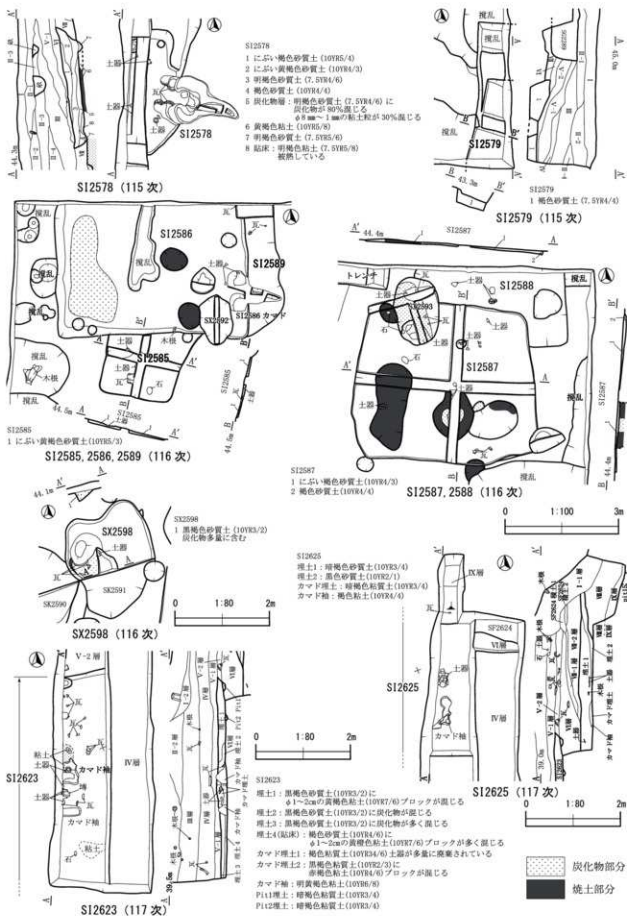


図 101 竪穴建物跡⑦ (S12578, 2579, 2585 ~ 2589, 2623, 2625, SX2598 竪穴建物跡)

表43 聖穴建物・聖穴状遺構属性一覧(1)

図No.	調査 次数	遺構 番号	種別	位置・ 層位	規模	方位	カマド・周溝・ ピット等	重複関係	備考	検出層位 の年代	出土遺物 の年代	遺構分類 時期
図93	4	SI003	聖穴建 物跡		東西4m,南北 3.4m,隅丸方 形	真北	西隣に柱穴	SI303→	21次で再検出	8C②以前		A-1期
図93	21	SI303	聖穴建 物跡	3層	東西6.9m×南 北3.2m×壁高 30cm,隅丸方 形	N6° E	カマド東壁,部 分的に周溝あ り	→SB313	188層(66次)で切り合い 関係再検討,SI313→ SI303をSD03→SB313とし た.新巾金,鉄線出土	8C②以前	8C後半	A-1期 8C③~④
図93	21	SI304	聖穴建 物跡	3層	東西2.3m以上 ×南北3.5m× 壁高30cm,隅 丸方形	N10° E	カマド不明		刀子出土	8C②以前	8C③	A-3期 8C③
図93	21	SI305	聖穴建 物跡	3層	東西2.6m×南 北5.7m×壁高 20cm,隅丸長 方形	N15° E	カマド南壁			8C②以前	8C①~ 9C①	A-3期 8C④~ 9C①
図93	21	SI306	聖穴建 物跡	3層	東西4.8m×南 北5.0m×壁高 40cm,方形	N3° E	西隣に柱穴		刀子出土	8C②以前	床面9C ①,埋土 8C①~ 9C①	A-1期 9C①構 築,9C① 礎礎
図93	21	SI307	聖穴建 物跡	3層	東西4.5m×南 北2.1m×壁高 15cm,隅丸長 方形	真北	カマド北壁,東 壁直下に柱 穴	SB314→	73次で再検出,規模確定	8C②以前	8C①~ 9C①	A-1期 8C①~ 9C①
図93	21	SI308	聖穴建 物跡	3層	東西2.9m×南 北3.1m×壁高 12cm,隅丸方 形	N10° E	カマド北東角	→SB313	切り合い関係再検討, SB313→SI308をSI308→ SB313とした	8C②以前	8C後半	A-3期 8C後半
図96	21	SI309	聖穴建 物跡	3層	東西3.8m×南 北5.5m×壁高 30cm,隅丸長 方形	N12° W	カマドなし,周 溝あり			8C②以前	8C①~ 9C①	A-2期 8C①~ 9C①
図96	21	SI310	聖穴建 物跡	3層	東西4.0m×南 北2.0m×壁高 30cm	N23° E	カマド不明			8C②以前	8C後半	A-3期 8C後半
図96	21	SI311	聖穴建 物跡	3層	東西3.0m以上 ×南北2.2m, 隅丸長方形	N10° W	カマド不明			8C②以前		A-2期
図96	21	SI312	聖穴建 物跡	3層	壁高40cm	N24° W	カマド不明			8C②以前		A-2期
図96	59	SI1210	聖穴建 物跡	2層	東西5.0m×南 北4.2m以上× 壁高35cm,方 形	真北		→SX1211	炭化米出土	8C②以前	9C①	A-1期 9C①
図96	66	SI1456	聖穴建 物跡	5層	東西3.4m×南 北3.2m×壁高 15cm,方形	N5° E	なし			8C②以前	9C前半	A-1期 9C前半
図96	66	SI1457	聖穴建 物跡	4層	東西4.3m×南 北1.2m×壁高 15cm	真北	不明			8C②以前		A-1期
図96	70	SI1516	聖穴建 物跡	3層	東西4.0m×南 北3.4m×壁高 30cm,方形	N18° W	北西隣に柱 穴,カマドなし			8C②以前		A-2期
図97	70	SI1517	聖穴建 物跡	3層	東西3.5m×南 北3.7m×壁高 25cm,方形	N12° W	北壁・東壁に 柱穴,カマド南 壁	→SA1515	9C①のSA1515小ピットよ り古い	8C②以前	9C前半	A-2期 9C前半
図97	73	SI1626	聖穴建 物跡	4層	東西3.8m×南 北2.6m,壁高8 cm,長方形	W9° N (N9° E)	カマドなし,南 西隣に柱穴	→SI2628		8C②以前	8C①~ 9C①	A-1期 8C④~ 9C①
図97	73	SI1627	聖穴建 物跡	4層	東西4.4m×南 北2.5m,壁高 15cm,長方形	W8° N (N8° E)	カマド東壁	→SB1625		8C②以前	8C後半~ 9C①	A-1期 8C後半~ 9C①
図97	73	SI1628	聖穴建 物跡	4層	東西3.7m×南 北3.1m,壁高 42cm,長方形	W9° N (N9° E)	カマド西壁	SI2626→		8C②以前	9C前半	A-1期 9C前半
図97	73	SI1629	聖穴建 物跡	4層	東西2.4m以上 ×南北4.6m, 壁高28cm,全 体形状不明	N10° W	カマドなし(調 査区外小)	→SB1625		8C②以前	9C①	A-2期 9C①
図97	85	SI1806	聖穴建 物跡	B区,8層	東西2.3m以上 ×南北1.7m以 上,壁高20cm, 方形	N15° E				8C②以前	床面9C③ ~④	E期 9C後半 構築
図97	85	SI1807	聖穴建 物跡	B区,6層	東西約3.2m× 南北4.0m,壁 高30cm	E15° S (N15° E)		→SA1801・ SK1810		8C④~ 9C①	9C①	E期 9C①

V 古代の検出遺構と出土遺物（5型穴建物跡）

表44 竪穴建物・竪穴状遺構属性一覧(2)

図No.	調査 次数	遺構 番号	種別	位置・ 方位	規模	方位	カマド・周溝・ ピット等	重複関係	備考	検出層位 の年代	出土遺物 の年代	遺構分類 時期
図98	86	SI1824	竪穴建 物跡	7層	東西5.0m×南 北2.9m,壁高20 cm,長方形	N12° E	カマドなし,西 隅に小柱掘り 方柱う。	SD1820・ SK1834・ SK1835→		8C末以降	9C②	FⅢ 9C②
図98	86	SI1825	竪穴建 物跡	7層	東西4.5m以上 ×南北4.0m, 壁高40cm,長 方形	N14° E	カマド東壁,西 隅に小柱掘り 方柱う。	→SA1819・ SK1828・ SK1831		8C末以降	カマド高 面9C① 埋土9C 前半	FⅢ 9C①構築 9C前半 廃絶
図98	86	SI1826	竪穴建 物跡	7層	東西4.0m以上 ×南北4.7m, 壁高30cm,長 方形	N12° E	カマド不明,周 溝を伴う,西 隅に小柱掘り 方柱う。	SK1835→ →SK1832・ SK1834		8C末以降	床面ピット 8C①～ 9C①, 埋土8C① ～9C①	FⅢ 8C①～ 9C①構築, 廃絶
図98	86	SK1827	竪穴状 遺構	7層	東西2.7m以上 ×南北2.7m, 壁高20cm,隅 丸方形	N15° E	カマド不明	→SD1823		8C末以降		FⅢ 8C末以降
図98	89	SI1937	竪穴建 物跡	C区,7層	東西4.1m×南 北1.3m以上, 壁高20cm,方 形	N3° W	カマド不明			8C①～ 9C①		A-1Ⅲ 8C①以降
図98	96	SI2070	竪穴建 物跡	6層	東西3.5m×南 北3.6m以上, 壁高10～22 cm,方形	N2° E	カマド南東部, 南東・南西隅 に小柱穴			9C①以降	10C②～ ②	FⅢ 10C②～ ①
図98	96	SI2071	竪穴建 物跡	6層	東西2.2m×南 北1.6m以上, 壁高8～10cm	N10° E	カマド不明	SI2064→		9C①以降	9C①	FⅢ 9C①以降
図99	96	SI2072	竪穴建 物跡	10層	東西2.7m以上 ×南北2.0m以 上,方形	N14° E	カマド不明			8C②以前	床面9C前 半,埋土 9C②	FⅢ 9C前半構 築,9C② 廃絶
図98	96	SI2073	竪穴建 物跡	6層	東西2.6m×南 北1.0m以上, 壁高20cm,方 形	W19° N (N19° E)	カマド不明	SK2082→		9C①以降	9C①	FⅢ 9C①以降
図99	99	SI2157	竪穴建 物跡	5層	東西4.3m×南 北4.5m以上, 壁面13cm	N9° E	床面に6跡, 北西隅・南東 部に小柱穴	→SK2161	床面に6跡,埋土や周 溝から鉄滓出土	9C②	床面9C① 埋土9C 後半	BⅢ 9C①構築, 9C② 廃絶
図99	106B	SI2343	竪穴建 物跡	IV-1層	一辺4.5m,壁 高5～10cm,方 形	N10° W	カマド不明,西 壁際ピット3 基柱う。	SK2348・ SX2349→		8C②?		FⅢ 8C②以降
図99	108	SI2459	竪穴建 物跡	A区,IV層	東西4.0×南 北4.1m,壁高 は115cm,方形	真北	カマド南西隅 で住居から突 出,カマドの構 築材に瓦を使 用,床面上壁 際に小ピット	SK2484→ →SK2478	武蔵型甕出土	8C①～ 9C①	カマド構 築土9C① 以降, 埋土 10C②	DⅢ 9C①以降 構築, 10C② 廃絶
図99	108	SI2460	竪穴建 物跡	A区,IV層	幅2.3m×長さ 3.3m,北側に 0.9m以上の突 出部あり,壁高 6cm	真北	カマド不明,壁 際および竪穴 外周辺に小 ピットを伴う		鉄滓,鉄滓出土	8C①～ 9C①	埋土10C 前半	DⅢ 10C前半
図99	108	SI2461	竪穴状 遺構	A区,IV層	東西3.0m×南 北2.2m,壁高 12cm,隅丸方 形。	真北	カマド不明	→SK2475	鉄滓出土	8C①～ 9C①	埋土9C①	DⅢ 9C①
図99	108	SI2462	竪穴建 物跡	A区,IV層	東西2.6m×南 北2.8m以上, 壁高22cm,隅 丸方形	真北	カマド不明	→SD2457・ SD2458・ SK2482	鉄滓出土	8C①～ 9C①	埋土9C 後半	DⅢ 9C後半
図99	108	SI2463	竪穴建 物跡	A区,V層	東西3.5m×南 北3.5m,壁高 22cm,方形	N10° E	カマド東壁で, 住居壁際から やや突出	SK2489→ →SA2149	鉄滓出土	8C①～ 9C①	床面9C ①,埋土 9C①～ 10C①	BⅢ 9C①構築, 9C① ～10C① 廃絶
図100	111	SI2526	竪穴建 物跡	V-1層	東西1.8m以上 ×南北2.6m, 壁高25cm	N5° E	カマド東側,南 東部に小ピッ トあり	SI2527→	カマドが住居範囲から飛 び出す	8C①～ 9C①	9C前半	A-1Ⅲ 9C前半
図100	111	SI2527	竪穴建 物跡	V-1層	東西2.4m×南 北2.5m,壁高 20cm	N5° W	カマド南側,東 側に小ピット	→SI2526		8C①～ 9C①	カマド構 築土9C ①,埋土 8C末～ 9C前半	A-1Ⅲ 9C①構築, 9C前半 廃絶

表45 堅穴建物・堅穴状遺構属性一覧(3)

図No.	調査 次数	遺構 番号	種別	位置・ 層位	規模	方位	カマド・周溝・ ピット等	重複関係	備考	検出層位 の年代	出土遺物 の年代	遺構分類 時期
図100	111	SI2528	堅穴建 物跡	V-1層	東西3.0m×南 北4.3m, 壁高 10cm	N6° E	カマド南側, 壁 間に小ピット・ 周溝	SI2529→ →SK2512	39号漆灰文を伴う須恵 器坪(漆容器), 土器, 鎌出 土	8C④~ 9C①	床面 8C④, 埋土 9C①	A-1垣 8C④構 築, 9C① 廢絶
図100	111	SI2529	堅穴建 物跡	V-2層		N8° E		→SI2528・ SK2512	鉄鎌出土	8C③?	床面8C ④, 埋土 8C②~ 8C④	A-1垣 8C④構 築, 8C④ 廢絶
図100	112	SI2537	堅穴建 物跡	IV層	東西2m以上× 南北3m以上, 壁高15cm	N3° E	カマド東側	→SA2536		9C④	10C①	D層 10C①
図100	112	SI2547	堅穴状 遺構	V層	東西3.5m×南 北2.5m, 深さ20 ~30cm, 円形	N5° W			床や壁に粘度が貼られて いる, 壁の立ち上がり付近 部にが遺っている, 埋土 に焼土・炭化物を含む, 床 面に9階, 鉄鎌, 鉄洋出土	8C④	9C②	C層 9C②
図100	112	SI2548	堅穴建 物跡	V層	東西3.0m以上 ×南北3.5m, 壁高4cm, 方形	N30° W	カマド不明, 北 ・南壁間に 小ピットを伴う	SI2549→ →SK2556		8C④		C層 8C④以降
図100	112	SI2549	堅穴建 物跡	V層	東西2.2m以上 ×南北3.1m, 壁高4cm, 方形	N10° W	カマド不明, 西 壁間に小ピッ トを伴う	→SI2548		8C④		C層 8C④以降
図100	112	SI2550	堅穴建 物跡	V層	東西3.0m×南 北3.0m, 壁高 10cm, 不整形	N7° E	住居内南西 部に炭化物 集中部あり, 南 壁・東壁に小 ピットを伴う	→SI2546	床面に炭化物	8C④	8C後半	G層 8C後半
図101	115	SI2578	堅穴建 物跡	Ⅷ層	南北3.2m以上 ×東西1.0m以 上, 壁高10cm, 方形	N15° E	カマド東壁, 北 東壁間に小ピ ットを伴う		カマドが住居周回から残 び出す構造, カマドの構築 材として瓦を使用	8C②以降	8C後半	H層 8C後半
図101	115	SI2579	堅穴建 物跡	Ⅷ層	南北2.4m以上 ×東西0.9m以 上, 壁高48cm, 方形	N11° E	カマド不明			8C②以降	8C後半	H層 8C後半
図101	116	SI2585	堅穴建 物跡	V層	東西2.2m×南 北1.8m以上, 壁高3cm, 方形	N15° E	カマド不明, 北 東壁間に小ピ ット	→SI2586		8C②?	8C後半	G層 8C後半
図101	116	SI2586	堅穴建 物跡	V層	東西5.0m×南 北3.5m以上, 壁高20cm, 方 形	真北	カマド東壁	SI2585・ SI2589→ →SK2592	カマドが住居壁から少し 突出	8C②?	9C後半	F層 9C後半
図101	116	SI2587	堅穴建 物跡	V層	東西4.7m×南 北4.3m, 壁高2 ~3cm, 方形	真北	住居中央に 炭化物と焼土 部分が集中	SI2588→ →SK2593	住居西側に焼土と比較し た細かい土器片の集中地 点あり, 鉄鎌, フイゴ羽口出 土	8C②?	9C①~ 10C①	F層 9C①~ 10C①
図101	116	SI2588	堅穴建 物跡	V層	東西4.0m×南 北1.8m以上, 方形	真北		→SI2587	フイゴ羽口出土	8C②?	9C④	F層 9C④
図101	116	SI2589	堅穴建 物跡	V層	東西4.0m×南 北2.2m以上, 壁高10cm, 方 形	真北		→SI2586		8C②?		F層 9C後半以 前9C後 半以降の SI2586より 古い
図101	116	SX2598	カマド 状遺構 (堅穴建 物跡)	V層	直径1.0m, 深さ 20cm	不明		→SK2591	段凡と上層遺構により大 きく遺されカマド部分のみ 残存, 多量の炭化物を伴う	8C②?	8C④	G層 8C④
図101	117 C-2	SI2623	堅穴建 物跡	V-2層	南北4.5m以上, 壁高20cm	W10° N (N10° E)	カマド西壁			8C③	埋土8C③	H層 8C③廢絶
図101	117 C-2	SI2625	堅穴建 物跡	Ⅷ層	南北2.7m以上, 壁高30cm	不明	カマド南壁			8C②?	床面8C ②, 埋土 8C②	H層 8C②構 築・廢絶

V 古代の検出遺構と出土遺物 (5竪穴建物跡)

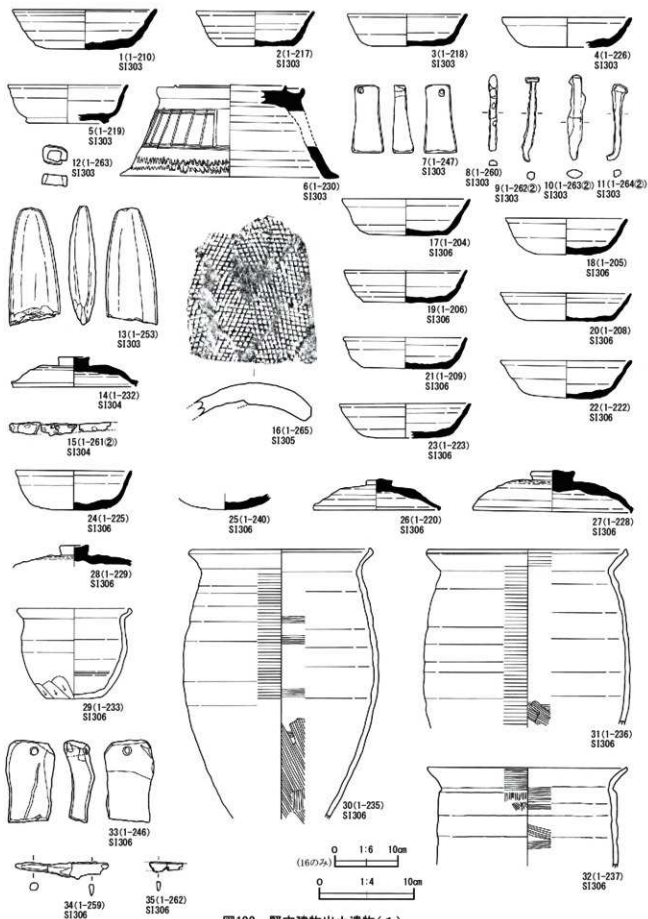


図102 竪穴建物出土遺物(1)

V 古代の検出遺構と出土遺物 (5 堅穴建物跡)

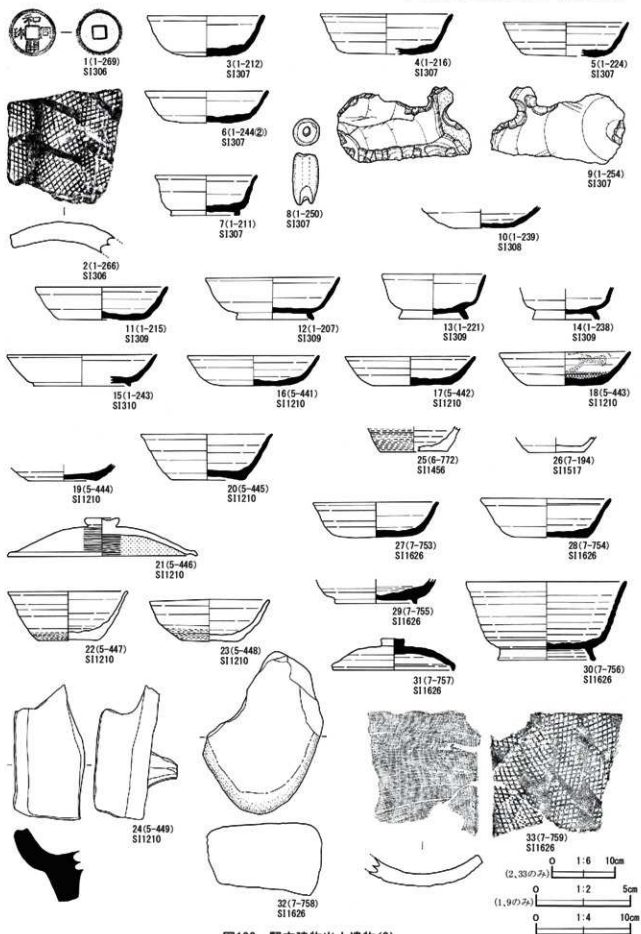


図103 堅穴建物出土遺物(2)

V 古代の検出遺構と出土遺物 (5竪穴建物跡)

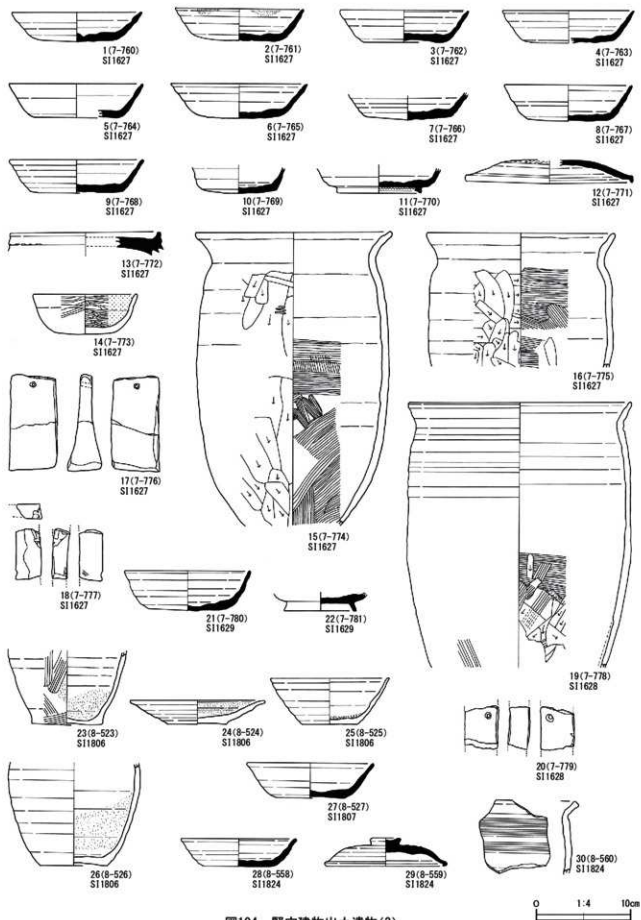


図104 竪穴建物出土遺物(3)



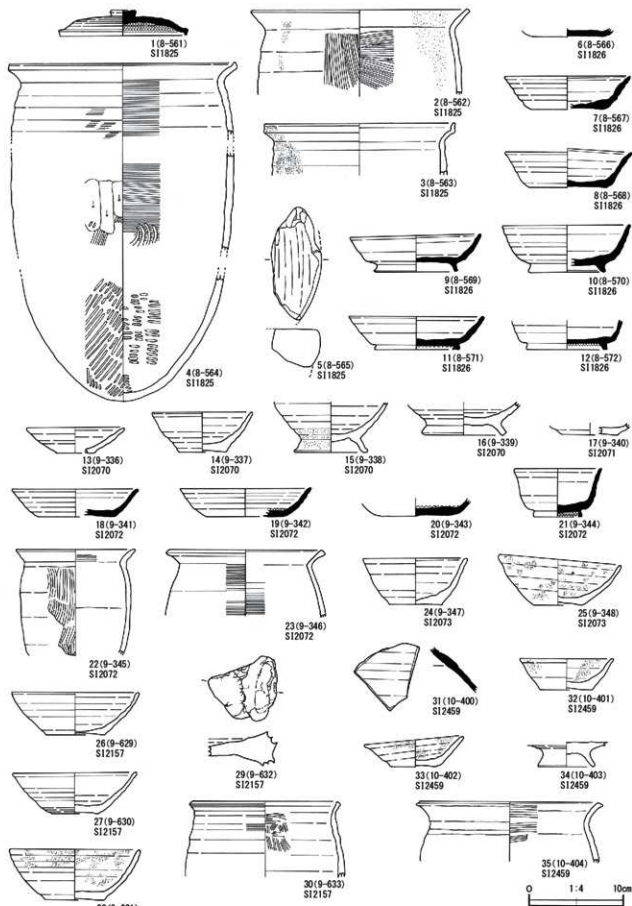


図105 堅穴建物出土遺物(4)

V 古代の検出遺構と出土遺物 (5型穴建物跡)

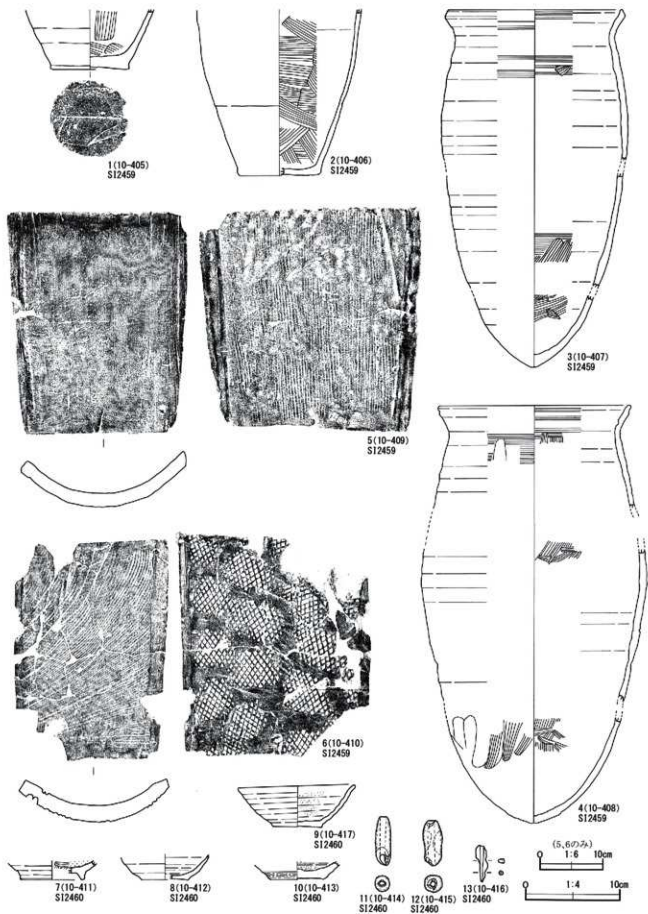


図106 5型穴建物出土遺物(5)

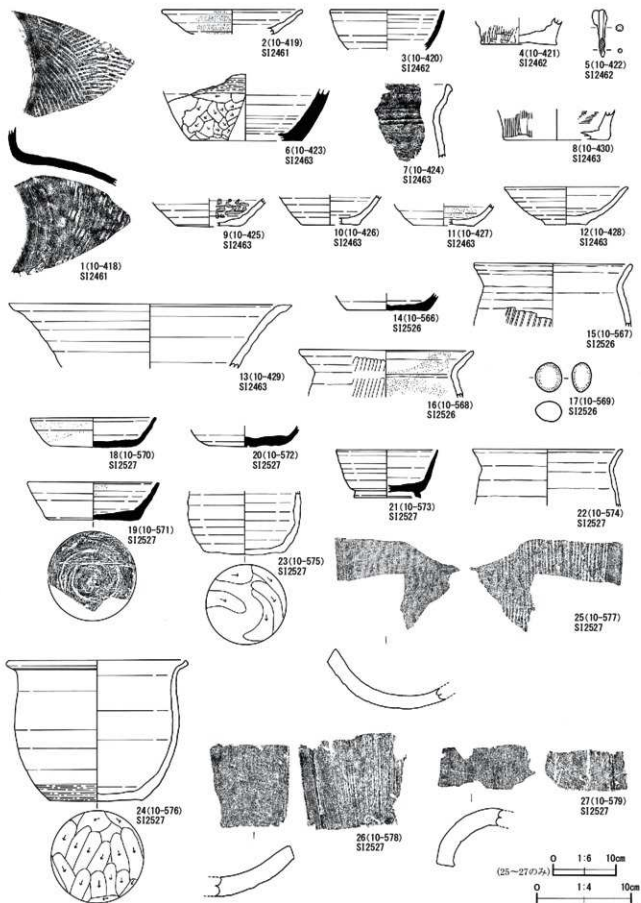


図107 竪穴建物出土遺物(6)

V 古代の検出遺構と出土遺物 (5 竪穴建物跡)

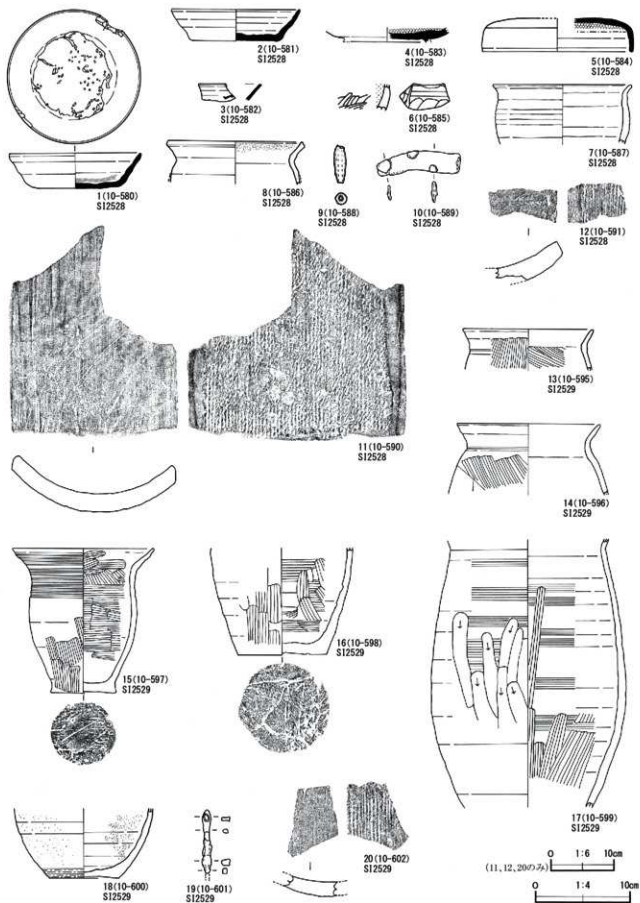


図108 竪穴建物出土遺物(7)

V 古代の検出遺構と出土遺物 (5堅穴建物跡)

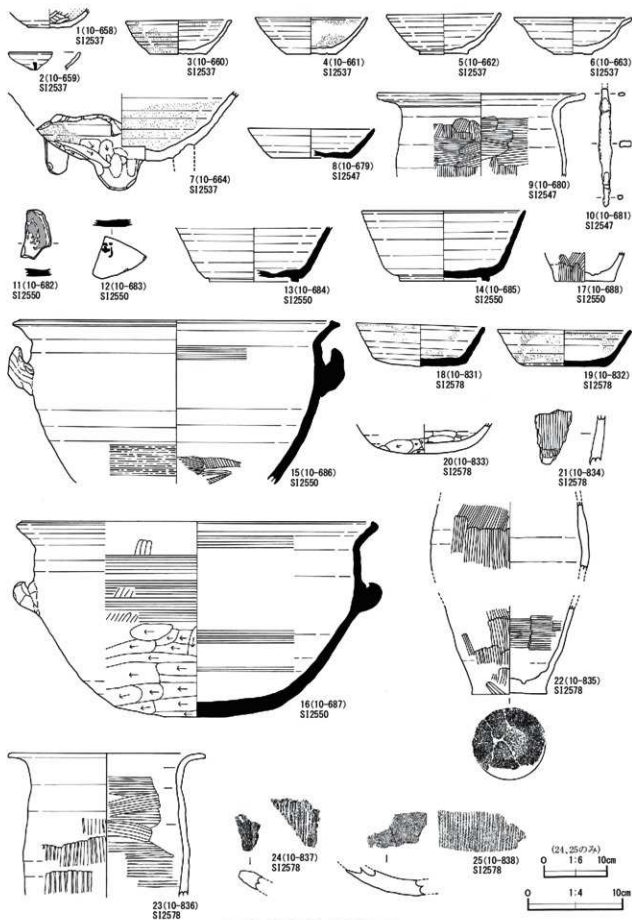


図109 堅穴建物出土遺物(8)

V 古代の検出遺構と出土遺物 (5竪穴建物跡)

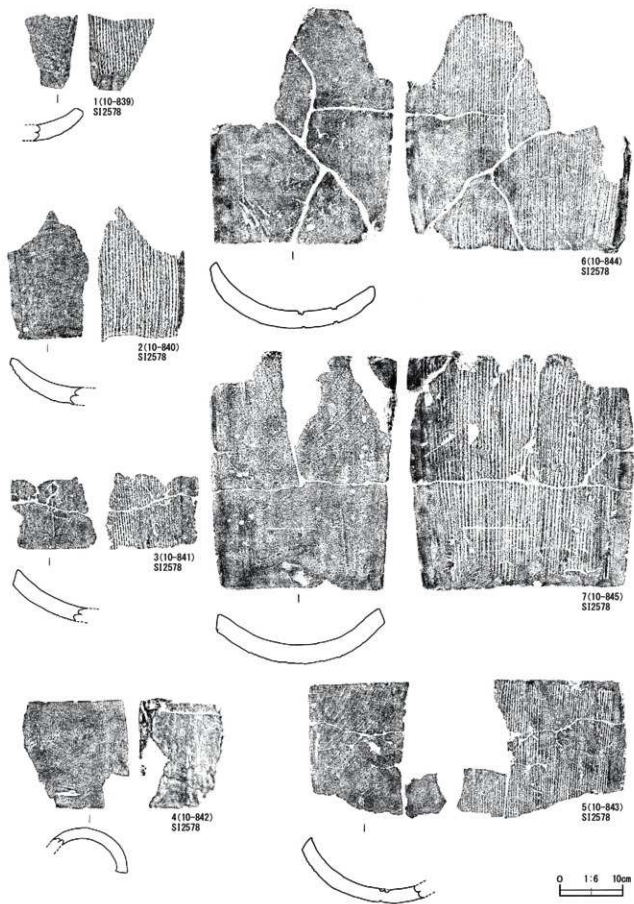


図110 竪穴建物出土遺物(9)

V 古代の検出遺構と出土遺物 (5堅穴建物跡)

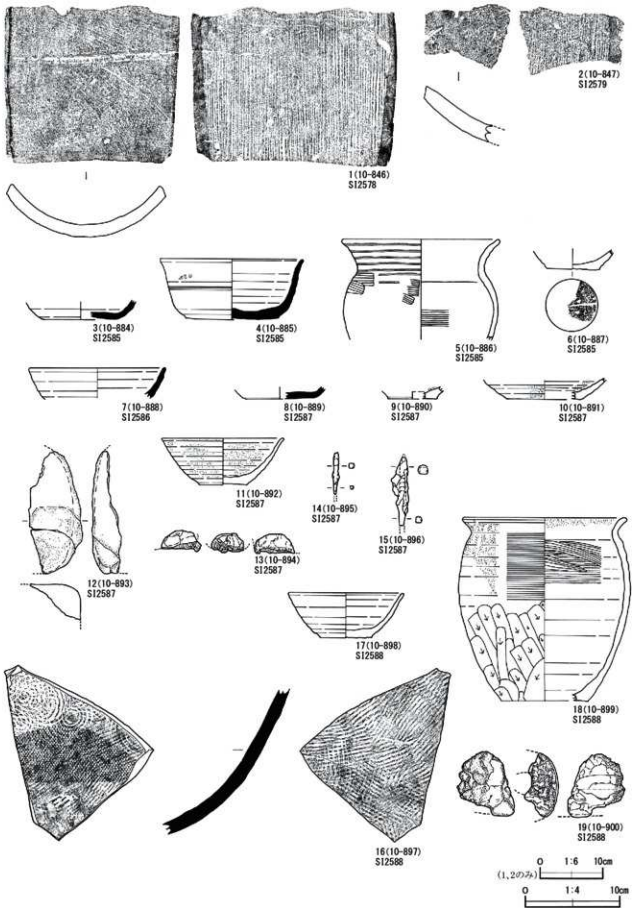


図111 堅穴建物出土遺物(10)

V 古代の検出遺構と出土遺物 (5竪穴建物跡)

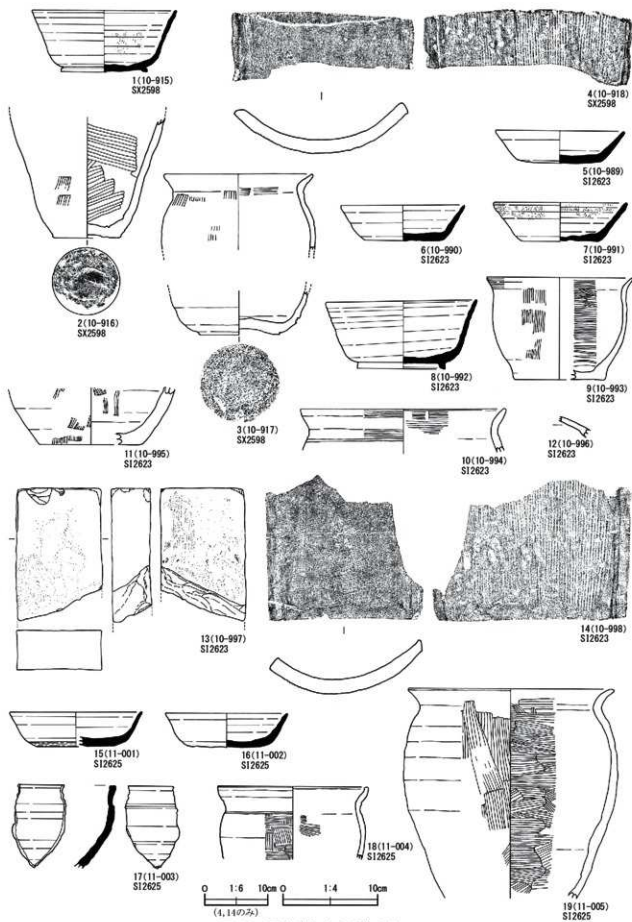


図112 竪穴建物出土遺物(11)



表46 堅穴建物出土遺物一覽(1)

図版番号	次数	遺物番号	種類	器種	出土地点・層位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	調整技法等	時期
図102-1	21	1-210	須恵器	杯	SI303埋土	14.8	4.2	9.8	丸底風, 底部へラ切り後, 軽いナデ調整	8C③
図102-2	21	1-217	須恵器	杯	SI303埋土	12.4	3.7	8.0	底部へラ切り後, 周縁部へラケズリ調整, 口縁部に重むれぎの痕跡	8C④
図102-3	21	1-218	須恵器	杯	SI303カマド付近	12.6	3.4	7.6	丸底風, 底部へラ切り後, ナデ調整	8C④
図102-4	21	1-226	須恵器	杯	SI303埋土	13.6	3.2	9.0	丸底風, 底部へラ切り後, ナデ調整, 底部外面に「小」の刻書	8C④
図102-5	21	1-219	須恵器	台付杯	SI303	12.6	4.1	8.0	底部へラ切り, 高台取り付け後, 高台周辺ナデ調整, 胎土に小石粒含む	8C③
図102-6	21	1-230	甕	円面甕	SI303カマド付近	15.8	9.8	23.2	陸部へラケズリ調整, 内側に縁が回る, 長方形の透しむす, 脚部下方にへラ状工具による段状文	
図102-7	21	1-247	石製品	砥石	SI303	長さ7.4	-	-	上部に穿孔, 表面2面を使用	
図102-8	21	1-260	鉄製品	鉄鏝	SI303埋土	長さ8.0	-	-	先端部打撃により扁平し, わずかに幅広い, 茎部の断面台形	
図102-9	21	1-262②	鉄製品	鉄鏝	SI303床面	-	-	-	断面方形	
図102-10	21	1-263②	鉄製品	鉄鏝	SI303床面	-	-	-	断面楕円形	
図102-11	21	1-264②	鉄製品	鉄鏝	SI303床面	-	-	-	断面方形	
図102-12	21	1-263	鉄製品	鉸巾金	SI303床面	長さ3.0	-	厚さ0.4	月子の楕状金具, 表面に柄木が付着	
図102-13	21	1-253	石器	磨製石斧	SI303埋土	全長12.6	-	-	軸刀形, 刀部欠損, 全体を研磨している	
図102-14	21	1-232	須恵器	蓋	SI304埋土	13.0	3.1	-	天井部へラ切り, つまみは扁平だが, 中心部がわずかに隆起, 底面を覗いて転用	8C③
図102-15	21	1-261②	鉄製品	刀子	SI304埋土	-	-	-	破損品	
図102-16	21	1-265	瓦	平瓦	SI305カマド付近	-	-	-	格子目瓦, 一枚作り, 凸面端目引き痕, 凹面布目圧痕, 焼成やや不良, 敷瓦, 灰白色, カマドの補修材か	8C④~9C①
図102-17	21	1-204	須恵器	杯	SI306埋土	13.4	3.9	8.7	底部へラ切り後, ナデ調整	9C①
図102-18	21	1-205	須恵器	杯	SI306埋土	12.9	3.8	7.4	底部へラ切り後, ナデ調整, 底部外面に「日」の墨書	8C④
図102-19	21	1-206	須恵器	杯	SI306床面	12.8	3.4	9.0	底部へラ切り後, ナデ調整, 底部外面に「日」の墨書	8C④
図102-20	21	1-208	須恵器	杯	SI306埋土	13.8	2.9	8.9	底部へラ切り後, ナデ調整	9C①
図102-21	21	1-209	須恵器	杯	SI306床面	12.8	3.3	8.8	底部へラ切り後, ナデ調整, 胎土に砂粒大量を含む, 底部外面にへラ記号	9C①
図102-22	21	1-222	須恵器	杯	SI306床面	13.8	4.0	8.6	底部へラ切り後, 軽いナデ調整, 二次的被熱痕, 底部外面に不明墨書	8C④
図102-23	21	1-223	須恵器	杯	SI306埋土	13.8	4.1	8.8	丸底風, 底部へラ切り後, ナデ調整	8C④
図102-24	21	1-225	須恵器	杯	SI306埋土	12.2	4.1	8.0	丸底風, 底部へラ切り後, ナデ調整, 胎土に砂粒大量を含む	8C④
図102-25	21	1-240	須恵器	杯	SI306埋土	-	-	7.0	底部へラ切り後, ナデ調整, 底部外面に「日」の墨書	8C後半
図102-26	21	1-220	須恵器	蓋	SI306	13.2	3.3	-	天井部へラ切り, 隆起状つまみ, 天井部外面に「王」の墨書	8C③
図102-27	21	1-228	須恵器	蓋	SI306	16.9	4.3	-	天井部へラ切り後, 周縁部へラケズリ調整, 隆起状つまみ, 二次的被熱痕	8C後半
図102-28	21	1-229	須恵器	蓋	SI306	-	-	-	天井部へラケズリ調整のため, 切り離し不明, 扁平なつまみ, 二次的被熱痕	8C後半
図102-29	21	1-233	赤褐色土器	甕	SI306	11.6	9.6	5.9	平底小頸, 頸部「く」の字状, 口縁部端を上方につまみ出す, 体部下端と底部に手持ちへラケズリ調整	8C④~9C①
図102-30	21	1-235	赤褐色土器	甕	SI306カマド内	18.8	-	-	隆起部, 頸部「く」の字状, 口縁部端を上方につまみ出す, 外面は横方向のカキ目調整と体部下方向ケツ調整, 内面は横方向のカキ目調整と体部下方向のカキ目調整	8C④~9C①
図102-31	21	1-236	赤褐色土器	甕	SI306埋土	20.9	-	-	隆起部, 頸部「く」の字状, 口縁部端を上方につまみ出す, 胴部若干張り出す, 口唇部に強いカキ目調整, 体部下内面斜方向のカキ目調整, 口縁部内面と頸部下方外面横方向のカキ目調整	8C④~9C①
図102-32	21	1-237	土師器	甕	SI306カマド内	20.9	-	-	長胴形, 頸部ゆるやかに外反, 頸部に段, 外面は口縁部横方向・体部縦方向の細カキ目調整, 内面横・斜方向のカキ目調整	8C後半
図102-33	21	1-246	石製品	砥石	SI306	-	-	-	稜丸, 緑色凝灰岩製, 上部に穿孔, 表面と片面の3面使用	
図102-34	21	1-259	鉄製品	刀子	SI306床面	-	-	-	茎部の断面円形, 柄木の痕跡付着, 区不明	
図102-35	21	1-262	鉄製品	刀子	SI306カマド内	-	-	-	月子の一部	
図103-1	21	1-269	銭貨	和同開珎	SI306床面直上	外径25.1 mm	内径6.3 mm	厚さ1.5 mm	銅銭, 和同開珎, 重量1.7g, 銭文明確	
図103-2	21	1-266	瓦	平瓦	SI306	-	-	-	格子目瓦, 一枚作り, 凸面端目引き痕, 凹面布目圧痕, 焼成良好, 敷瓦, 灰白色	8C④~9C①
図103-3	21	1-212	須恵器	杯	SI307埋土	12.2	4.4	8.4	底部へラ切り後, ナデ調整, 底部外面に「中口(七木)」の墨書	8C④
図103-4	21	1-216	須恵器	杯	SI307埋土	13.9	4.3	10.0	底部へラ切り後, ナデ調整, 二次的被熱痕	8C④
図103-5	21	1-224	須恵器	杯	SI307埋土	13.2	3.5	9.2	底部へラ切り後, ナデ調整, 重むれぎの痕跡	9C①
図103-6	21	1-244②	須恵器	杯	SI307埋土	13.0	3.4	9.0	底部へラ切り後, ナデ調整	9C①
図103-7	21	1-211	須恵器	台付杯	SI307カマド内	10.6	4.2	7.0	口縁部外反, 底部へラ切り, 高台取り付け後, 高台周辺ナデ調整	9C①

V 古代の検出遺構と出土遺物 (5型穴建物跡)

表47 竪穴建物出土遺物一覽(2)

図版番号	次数	遺物番号	種別	器種	出土地点・層位	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	調整技法等	時期
図103-8	21	1-250	土製品	土鐘	S307埋土	長さ5.0	-	-	断面円形	
図103-9	21	1-254	石器	石匙	S307埋土上部	-	-	-	横形	
図103-10	21	1-239	須恵器	坏	S308 カマド付近	-	-	7.0	底部へつ切り後、ナデ調整。底部からゆるく湾曲して立ち上がる。底部外面に不明書	8C後半
図103-11	21	1-215	須恵器	坏	S309	13.8	3.5	9.4	底部へつ切り後、ナデ調整。二次的被焼痕。底部外面に「一」の墨書	9C①
図103-12	21	1-207	須恵器	台付坏	S309埋土	14.0	4.5	7.0	底部へつ切り、高台取り付け後、高台周辺ナデ調整	9C①
図103-13	21	1-221	須恵器	台付坏	S309埋土	11.0	4.7	7.2	底部へつ切り、高台取り付け後、高台周辺ナデ調整	9C①
図103-14	21	1-238	須恵器	台付坏	S309埋土	-	-	7.0	底部へつ切り、高台取り付け後、高台周辺ナデ調整。底部外面に「花」の墨書	8C①~9C①
図103-15	21	1-243	須恵器	台付坏	S310埋土	15.9	3.3	10.2	底部へつ切り、高台取り付け後、高台周辺ナデ調整とヘラケズリ調整。胎土に小石粒を含む	8C①~④
図103-16	59	5-441	須恵器	坏	S1120埋土	13.8	3.2	8.6	底部へつ切り後、ナデ調整。大沢築路目差	9C①
図103-17	59	5-442	須恵器	坏	S1120埋土	13.6	3.1	7.7	底部へつ切り後、ナデ調整。底部外面に「樹」の墨書。大沢築路目差	9C①
図103-18	59	5-443	須恵器	坏	S1120埋土	13.8	3.5	8.4	底部へつ切り後、ナデ調整。底部内面を縦に転用	9C①
図103-19	59	5-444	須恵器	坏	S1120埋土	-	-	7.0	底部糸切り。底部外面に「上」の墨書	9C①
図103-20	59	5-445	須恵器	坏	S1120埋土	13.7	4.8	7.1	底部糸切り	9C①
図103-21	59	5-446	土製品	蓋	S1120埋土	20.1	4.0	-	内面黒色処理。内外面にガク調整。ロクロ使用	9C①
図103-22	59	5-447	赤褐色土器	坏	S1120埋土	12.5	5.2	6.2	底部糸切り後、体部下端ケズリ調整	9C①
図103-23	59	5-448	赤褐色土器	坏	S1120埋土	12.4	4.3	5.8	底部糸切り後、体部下端ケズリ調整	9C①
図103-24	59	5-449	硯	籠子硯	S1120埋土	-	-	-	除部破片	9C①
図103-25	66	6-772	赤褐色土器	甕	S1456埋土	-	-	7.0	平底小甕。底部糸切り後、底部立ち上がり部ケズリ調整	9C前半
図103-26	70	7-194	赤褐色土器	坏A	S1517埋土	-	-	5.9	底部糸切り	9C前半
図103-27	73	7-753	須恵器	坏	S1626埋土	13.2	3.7	8.7	底部へつ切り後、ナデ調整	8C④
図103-28	73	7-754	須恵器	坏	S1626埋土	13.6	4.1	8.4	底部へつ切り後、ナデ調整	8C④
図103-29	73	7-755	須恵器	台付坏	S1626埋土	-	-	8.6	底部へつ切り、高台取り付け後、高台周辺ナデ調整。底部外面に「樹」の墨書	8C④
図103-30	73	7-756	須恵器	台付坏	S1626埋土	17.1	8.3	10.3	底部へつ切り、高台取り付け以前に、体部下端から底部ケズリ調整。底部外面に「罍」の墨書	8C④
図103-31	73	7-757	須恵器	蓋	S1626埋土	12.7	3.4	-	天井部へつ切り後、ナデ調整	8C④
図103-32	73	7-758	石製品	磨石	S1626埋土	-	-	-	花崗岩製。片面使用	8C④
図103-33	73	7-759	瓦	平瓦	S1626埋土	-	-	-	格子目瓦。一枚作り、片面格子目の明焼痕。両面布目。正焼。焼成やや不軟。灰質。灰白色	8C①~9C①
図104-1	73	7-760	須恵器	坏	S1627埋土	13.7	3.2	8.6	底部へつ切り後、ナデ調整	9C①
図104-2	73	7-761	須恵器	坏	S1627埋土	13.4	3.4	10.0	底部へつ切り後、ナデ調整。底部に炭化物付着	9C①
図104-3	73	7-762	須恵器	坏	S1627埋土	13.5	3.4	8.8	底部へつ切り後、斜めナデ調整	9C①
図104-4	73	7-763	須恵器	坏	S1627埋土	13.8	3.5	9.4	底部へつ切り後、斜めナデ調整	9C①
図104-5	73	7-764	須恵器	坏	S1627埋土	14.2	3.6	8.8	底部へつ切り後、ナデ調整	9C①
図104-6	73	7-765	須恵器	坏	S1627埋土	14.3	3.7	8.8	底部へつ切り後、ナデ調整	8C④
図104-7	73	7-766	須恵器	坏	S1627埋土	-	-	9.0	底部へつ切り後、斜めナデ調整	8C①~9C①
図104-8	73	7-767	須恵器	坏	S1627埋土	13.4	3.8	8.8	底部糸切り後、ケズリ調整。体部外面ナデ調整。内面は体部から底部ケズリ調整。底部を縦に転用	9C①
図104-9	73	7-768	須恵器	坏	S1627埋土	14.2	3.5	9.8	底部へつ切り後、ナデ調整。底部外面に「罍」の墨書	8C④
図104-10	73	7-769	須恵器	坏	S1627埋土	-	-	8.5	底部へつ切り後、丁寧ナデ調整	8C④
図104-11	73	7-770	須恵器	台付坏	S1627埋土	-	-	8.8	底部へつ切り、高台取り付け後、高台周辺ナデ調整。底部外面を縦に転用	9C①
図104-12	73	7-771	須恵器	蓋	S1627埋土	17.6	-	-	天井部ケズリ調整。切離し不明	9C①
図104-13	73	7-772	硯	内面硯	S1627埋土	15.6	-	-	除部に墨付着	9C①
図104-14	73	7-773	土師器	埴	S1627埋土	10.9	4.2	6.1	小型。有段(内外面にやや不明瞭)	8C後半
図104-15	73	7-774	土師器	甕	S1627カマド内	20.4	-	-	長胴形。外面縦方向のケズリ調整。内面は体部中央から下半にハケ目調整後、中央部縦方向のハケ目調整	
図104-16	73	7-775	土師器	甕	S1627埋土	19.7	-	-	長胴形。外面縦方向のケズリ調整後、縦方向のケズリ調整。内面は体部縦方向・斜方向のハケ目調整。口縁部ナデ調整	
図104-17	73	7-776	石製品	砥石	S1627埋土	-	-	-	磨碗。泥岩製。上部に穿孔。4面使用。側面上半と下半に炭化物付着	
図104-18	73	7-777	石製品	砥石	S1627埋土	-	-	-	磨碗。泥岩製。上部から側面に穿孔。4面使用。上面と側面に炭化物付着	
図104-19	73	7-778	赤褐色土器	甕	S1628 カマド燃焼部	23.4	-	-	磨弾形。外面ナデ調整とわずかな凹み痕。内面は口縁部ロクロ使用のホケ目調整。体部下半横方向のホケ目調整と斜方向のハケ目調整後、一部ナデ調整	9C前半
図104-20	73	7-779	石製品	砥石	S1628埋土	-	-	-	磨碗。凝灰岩製。上部に穿孔。4面使用	
図104-21	73	7-780	須恵器	坏	S1629埋土	13.3	4.2	8.0	底部へつ切り後、ナデ調整。底部外面に「罍」の墨書	9C①
図104-22	73	7-781	須恵器	台付坏	S1629埋土	-	-	7.6	底部へつ切り、高台取り付け後、高台周辺ナデ調整。底部外面に「茂」の墨書	9C①
図104-23	85	8-523	土師器	甕	S1806床面	-	-	7.5	平底小甕。外面は体部縦方向・体部下端縦方向のハケ目調整	
図104-24	85	8-524	赤褐色土器	坏	S1806床面	14.5	2.5	6.3	底部糸切り。二次的被焼痕	9C①
図104-25	85	8-525	赤褐色土器	坏A	S1806床面	12.4	4.9	5.6	底部糸切り。底部内面を縦に転用	9C①
図104-26	85	8-526	赤褐色土器	甕	S1806埋土	-	-	7.1	平底小甕。底部糸切り	9C①
図104-27	85	8-527	須恵器	坏	S1807埋土	13.5	3.7	7.2	底部へつ切り後、丁寧ナデ調整	9C①
図104-28	86	8-558	須恵器	坏	S1824埋土	12.4	2.9	7.4	底部へつ切り後、斜めナデ調整	9C②

表48 型穴建物出土遺物一覧(3)

図版番号	回数	遺物番号	種別	器種	出土地点・層位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	調整技法等	時期
図101-29	86	8-559	須恵器	蓋	SI1824埋土	13.0	3.0	-	天井部へ切り切り後、ナダ調整、天井部外面に「个」(「箇」の異体字)の墨書	9C前半
図101-30	86	8-560	赤褐色土器	甕	SI1824埋土	-	-	-	丸底碗形、頸部「く」の字状、体部外面上半部ナダ調整	9C前半
図101-1	86	8-561	須恵器	蓋	SI1825埋土	13.8	2.7	-	天井部へ切り切り後、ナダ調整、天井部内面を縦に転用	9C前半
図101-2	86	8-562	土師器	甕	SI1825カマド竈部	23.1	-	-	長胴形、頸部「く」の字状、口縁部内外面ナダ調整、体部外面縦方向・内面横方向のハケ目調整	9C①
図101-3	86	8-563	赤褐色土器	甕	SI1825カマド覆土	20.2	-	-	碗形、頸部「く」の字状、口縁部端を上方につまみ出す	9C①
図101-4	86	8-564	赤褐色土器	甕	SI1825カマド底面	24.0	-	-	碗形、頸部「く」の字状、口縁部端を上方につまみ出す、口縁部内外面ナダ調整、外面は体部上半横目のカキ目、中程ナダ調整、下半平行引き、内面は体部上半から中程に横位のカキ目調整、中程から下半に同心円状や平行の当て目痕	9C①
図101-5	86	8-565	石製品	砥石	SI1825底面	-	-	-	碓形、表面若干くぼむ	
図101-6	86	8-566	須恵器	坪	SI1826埋土	-	-	7.5	底部へ切り切り後、丁寧なナダ調整、底部外面に不明墨書	9C①
図101-7	86	8-567	須恵器	坪	SI1826埋土	13.5	3.5	8.2	底部へ切り切り後、軽いナダ調整	9C①
図101-8	86	8-568	須恵器	坪	SI1826埋土	13.6	3.7	8.2	底部赤切り	9C①
図101-9	86	8-569	須恵器	台付坪	SI1826床面ピット	14.0	3.9	9.0	底部赤切り、高台取り付け後、高台周辺にナダ調整	9C①～9C①
図101-10	86	8-570	須恵器	台付坪	SI1826床面	13.7	4.9	8.3	底部へ切り切り後、高台取り付け後、高台周辺にナダ調整	9C①～9C①
図101-11	86	8-571	須恵器	台付坪	SI1826床面	14.1	3.5	9.1	底部へ切り切り後、高台取り付け後、高台周辺にナダ調整、底部外面を縦に転用	9C①～9C①
図101-12	86	8-572	須恵器	台付坪	SI1826埋土	-	-	8.8	底部へ切り切り後、高台取り付け後、高台周辺にナダ調整、底部外面を縦に転用	9C①
図101-13	96	9-336	赤褐色土器	坪	S2070埋土	10.4	2.7	-	小型坪、底面欠損のため、切り離し不明、二次的被焼痕	10C②
図101-14	96	9-337	赤褐色土器	坪	S2070埋土下層	10.8	4.2	5.0	底部赤切り	10C③
図101-15	96	9-338	赤褐色土器	台付坪	S2070埋土	-	-	5.3	底部赤切り、高台取り付け後、高台周辺に棒状工具で強いナダ調整、二次的被焼痕	10C③
図101-16	96	9-339	赤褐色土器	台付坪	S2070埋土下層	-	-	8.2	底部赤切り、高台取り付け後、高台周辺に棒状工具で強いナダ調整、二次的被焼痕	10C②～③
図101-17	96	9-340	赤褐色土器	皿	S2071埋土	-	-	6.0	底部赤切り	9C①
図101-18	96	9-341	須恵器	坪	S2072埋土	13.6	2.9	8.0	底部へ切り切り後、ナダ調整	9C②
図101-19	96	9-342	須恵器	坪	S2072埋土	13.9	3.0	8.4	底部へ切り切り後、丁寧なナダ調整、底部内面を縦に転用	9C②
図101-20	96	9-343	須恵器	坪	S2072床面	-	-	8.8	底部へ切り切り後、ナダ調整、底部内面を縦に転用	9C前半
図101-21	96	9-344	須恵器	台付坪	S2072埋土	9.4	5.1	5.1	底部へ切り切り後、ナダ調整、高台取り付け後、高台周辺にナダ調整、底部外面を縦に転用	9C前半
図101-22	96	9-345	土師器	甕	S2072埋土	12.8	-	-	小型、外面体部縦位のハケ目調整後、口縁部ナダ調整、内面は口縁部から頸部に横位のハケ目調整後、丁寧なナダ調整	9C①
図101-23	96	9-346	赤褐色土器	甕	S2072埋土	16.0	-	-	碗形、頸部「く」の字状、口縁部端を外面につまみ出す、内外面の頸部から体部上半にカキ目調整後、口縁部の頸部にナダ調整	9C②
図101-24	96	9-347	赤褐色土器	坪	S2073埋土	11.2	4.9	5.6	底部赤切り	9C④
図101-25	96	9-348	赤褐色土器	坪	S2073埋土	13.0	4.8	5.2	底部赤切り	9C④
図101-26	99	9-629	赤褐色土器	坪	SI2157床面	13.6	4.5	6.2	底部赤切り、内外面に二次的被焼痕	9C④
図101-27	99	9-630	赤褐色土器	坪	SI2157床面	13.4	4.3	4.9	底部赤切り、内外面に二次的被焼痕	9C④
図101-28	99	9-631	赤褐色土器	坪	SI2157埋土	13.9	5.4	6.2	底部赤切り、二次的被焼痕	9C④
図101-29	99	9-632	赤褐色土器	脚付鉢	SI2157埋土	-	-	-	底部摩擦しており、切り離し不明	9C④
図101-30	99	9-633	赤褐色土器	甕	SI2157埋土	16.0	-	-	小型、体部外面カキ目調整、体部内面カキ目調整後、口縁部内外面ナダ調整	9C後半
図101-31	108	10-400	須恵器	蓋	SI2459埋土	-	-	-	頸部破片	
図101-32	108	10-401	赤褐色土器	坪	SI2459埋土	10.1	3.3	5.6	小型坪、底部赤切り	10C②
図101-33	108	10-402	赤褐色土器	坪	SI2459埋土	10.7	2.7	5.2	底部赤切り、紅明蓋カ	10C②
図101-34	108	10-403	赤褐色土器	台付皿	SI2459埋土	-	-	高台6.0	足高台皿	10C②
図101-35	108	10-404	土師器	甕	SI2459カマド構築土	19.0	-	-	武藏型甕、頸部に2本の段状沈線、内面カキ目調整	
図101-1	108	10-405	土師器	甕	SI2459カマド構築土	-	-	8.4	平底、底部木葉痕、内面ハケ目調整	
図101-2	108	10-406	土師器	甕	SI2459カマド構築土	-	-	8.5	平底長胴形、体部内外面ハケ目調整	
図101-3	108	10-407	赤褐色土器	甕	SI2459カマド埋土	17.8	38.0	-	丸底碗形、体部外面は口縁部利用のカキ目調整、体部下半はカキ目調整後、ケツリ調整、内面カキ目調整	9C③以降
図101-4	108	10-408	赤褐色土器	甕	SI2459カマド構築土	20.3	44.0	-	丸底碗形、体部外面は口縁部利用のカキ目調整、内面カキ目調整	9C③以降
図101-5	108	10-409	瓦	平瓦	SI2459カマド構築土	-	-	-	一枚作り、凸面縄目の印き痕、凹面布目圧痕、焼成後、黄灰、黄灰色	3-1群
図101-6	108	10-410	瓦	平瓦	SI2459カマド構築土	-	-	-	格子目瓦、凸面格子目の印き痕、凹面布目圧痕、焼成後、黄灰、黄灰色	9C①～9C①

V 古代の検出遺構と出土遺物（5型穴建物跡）

表49 竪穴建物出土遺物一覧(4)

図版番号	次数	遺物番号	種類	器種	出土地点・層位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	調整技法等	時期
図106-7	108	10-111	土師器	台付杯	S2460埋土	6.8	-	-	内面黒色処理,底部に菊花状工具痕,内面ミガキ調整	10C②
図106-8	108	10-112	赤褐色土器	杯A	S2460埋土	-	-	-	底部糸切り	10C①
図106-9	108	10-117	赤褐色土器	杯A	S2460,埋土	11.6	4.3	5.1	底部糸切り,二次的被熱痕	10C①
図106-10	108	10-113	赤褐色土器	甕	S2460埋土	-	-	5.6	平底小型,底部糸切り,底部外面立ち上がり部分にカキ目調整	
図106-11	108	10-114	土製品	土埴	S2460埋土	-	-	-	残存長5.3cm,幅1.1cm	
図106-12	108	10-115	土製品	土埴	S2460埋土	-	-	-	長さ4.8cm,幅2.0cm	
図106-13	108	10-116	鉄製品	鉄鏝	S2460床面直上	-	-	-	基部分,残存長37.1mm	
図107-1	108	10-118	須恵器	甕	S2461埋土	-	-	-	内面平行当て具痕,外面平行印き痕	
図107-2	108	10-119	赤褐色土器	皿	S2461埋土	15.0	-	-	-	9C④
図107-3	108	10-120	須恵器	杯	S2462埋土	12.0	-	-	口縁部破片	9C後半
図107-4	108	10-121	土師器	甕	S2462埋土	-	-	8.0	平底小型,底部外面立ち上がり部分にハケ目調整	
図107-5	108	10-122	鉄製品	鉄鏝	S2462埋土	-	-	-	基部分,残存長48.6mm	
図107-6	108	10-123	須恵器	蓋	S2463埋土	-	-	12.0	体部下平手持ちクズリ後,体部中央回転ヘラケズリ,回転ヘラケズリ	
図107-7	108	10-124	土師器	甕	S2463埋土	-	-	-	口縁部端部外へややみ出す	9C後半
図107-8	108	10-130	土師器	甕	S2463カマド構築土	-	-	11.0	平底小型,内外面ハケ目調整	
図107-9	108	10-125	赤褐色土器	杯A	S2463埋土	-	-	6.6	底部糸切り,内面に漆付着	9C③
図107-10	108	10-126	赤褐色土器	杯A	S2463床面	-	-	6.4	底部糸切り	9C③
図107-11	108	10-127	赤褐色土器	杯A	S2463床面	-	-	6.4	底部糸切り	9C③
図107-12	108	10-128	赤褐色土器	杯A	S2463埋土	13.2	4.0	4.5	底部糸切り	10C①
図107-13	108	10-129	赤褐色土器	瓶	S2463埋土	30.0	-	-	口縁部部を上方につまみ出す	9C④~10C①
図107-14	111	10-566	須恵器	甕	S2526埋土	-	-	8.4	底部ヘラ切後,軽いつデ調整	9C前半
図107-15	111	10-567	土師器	甕	S2526埋土	16.8	-	-	外面上半分に平行印き後,口縁部内外面にナゲ調整	
図107-16	111	10-568	土師器	甕	S2526埋土	18.4	-	-	外面上半分から口縁部にかけて平行印き後,口縁部内外面にナゲ調整	
図107-17	111	10-569	石製品	磨石	S2526埋土	-	-	-	小型の磨石	
図107-18	111	10-570	須恵器	杯	S2527埋土	13.4	3.1	9.0	底部ヘラ切後,ナゲ調整,底部外面に「X」の痕跡,二次的被熱痕	9C①
図107-19	111	10-571	須恵器	杯	S2527埋土	14.0	4.0	9.4	底部ヘラ切後,軽いつデ調整,底部外面にスグレ状圧痕,二次的被熱痕	9C①
図107-20	111	10-572	須恵器	杯	S2527床面	-	-	7.5	底部ヘラ切後,軽いつデ調整	
図107-21	111	10-573	須恵器	台付杯	S2527埋土	10.8	5.0	高台7.0	底部ヘラ切後,台取り付け後ナゲ調整	9C①
図107-22	111	10-574	土師器	甕	S2527埋土	16.0	-	-	内外面にナゲ調整,二次的被熱痕	
図107-23	111	10-575	赤褐色土器	甕	S2527埋土	-	8.5	-	平底小型,底部糸切り後,手持ちクズリ調整,摩滅している	9C前半
図107-24	111	10-576	赤褐色土器	甕	S2527カマド構築土	18.8	15.0	9.8	平底小型,体部下端にクズリ調整,底部外面に手持ちクズリ調整,二次的被熱痕	9C①
図107-25	111	10-577	瓦	平瓦	S2527埋土	-	-	-	一枚作り,凸面鑄目の印き痕,凹面布目印痕,焼成やや不良,やや軟質,褐色,凸面に磨滅多い	2群
図107-26	111	10-578	瓦	平瓦	S2527埋土	-	-	-	凸面鑄目の印き痕,凹面布目印痕と糸切り痕,焼成やや不良,やや軟質,にがい褐色	4-1群
図107-27	111	10-579	瓦	丸瓦	S2527埋土	-	-	-	凸面ナゲ調整,凹面布目印痕,焼成不良,軟質,褐色,やや磨滅している	4-1群
図108-1	111	10-580	須恵器	杯	S2528床面	14.0	3.7	9.0	底部ヘラ切後ナゲ調整,底部外面に「官」の痕跡,内面を漆「ノット」に転用,漆痕蓋痕(第39号漆痕文書)	8C④
図108-2	111	10-581	須恵器	杯	S2528埋土	13.6	3.3	8.8	底部ヘラ切後,ナゲ調整,底部外面に「二」の痕跡,体部外面に剥離不明の墨書	
図108-3	111	10-582	須恵器	杯	S2528埋土	-	-	-	体部外面に剥離不明の墨書	
図108-4	111	10-583	須恵器	台付杯	S2528埋土	-	-	高台9.0	底部ヘラ切後,台取り付け後ナゲ調整,底部内面を靨に転用	
図108-5	111	10-584	須恵器	蓋	S2528埋土	16.0	3.5	-	短頸蓋の蓋,天井部クズリ調整によりやや不明,天井部内面を靨に転用	8C③
図108-6	111	10-585	土師器	杯	S2528埋土	-	-	-	内面黒色処理,体部外面下半手持ちクズリ調整,内面ミガキ調整	8C後半
図108-7	111	10-587	土師器	甕	S2528カマド構築土	14.8	-	-	小型,二次的被熱痕	
図108-8	111	10-586	赤褐色土器	甕	S2528カマド構築土	14.2	-	-	小型	8C①~9C①
図108-9	111	10-588	土製品	土埴	S2528埋土	-	-	-	口縁が外反	
図108-10	111	10-589	鉄製品	鏝	S2528壁付近埋土	-	-	-	定形	
図108-11	111	10-590	瓦	平瓦	S2528カマド構築土	-	-	-	一枚作り,凸面鑄目の印き痕,凹面布目印痕,焼成やや不良,やや軟質,褐色,被熱している	4-1群
図108-12	111	10-591	瓦	平瓦	S2528カマド構築土	-	-	-	一枚作り,凸面鑄目の印き痕,凹面布目印痕,焼成良好,硬質,灰黄色	3-2群
図108-13	111	10-595	土師器	甕	S2529埋土	14.0	-	-	小型,頸部に段状の注線1条,外面は体部上半分へハケ目調整後,口縁部ナゲ調整,内面は頸部根ハケ目調整	8C後半
図108-14	111	10-596	土師器	甕	S2529カマド構築土	15.2	-	-	小型,頸部に段状の注線1条,体部外面ハケ目調整	8C後半

表50 型穴建物出土遺物一覽(5)

図版番号	回数	遺物番号	種別	器種	出土地点・層位	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	調整技法等	時期
図08-15	111	10-597	土師器	甕	S2529カマド磚土	15.0	15.3	7.0	多重沈積,口縁部から頸部に多量の段状横走跡あり,体部内外面にハケ目調整,底部外面に塗薬あり	8C②~③
図08-16	111	10-598	土師器	甕	S2529埋土	-	-	9.4	平底,底部塗薬,体部外面縦方向・内面横方向主体のハケ目調整	8C後半
図08-17	111	10-599	赤褐色土器	甕	S2529埋土	-	-	-	胎体弱,外面上半にカキ目調整後,下半にかけて手持ちケツ調整,体部内面に上半縦方向・体部下に縦方向のハケ目調整	8C④
図08-18	111	10-600	赤褐色土器	甕	S2529床面	-	-	7.4	平底小型,底部静止糸切り,体部下端にケツ調整	8C④
図08-19	111	10-601	鉄製品	鉄鏝	S2529埋土	-	-	-	基部欠損	
図08-20	111	10-602	瓦	平瓦	S2529埋土下層	-	-	-	一枚作り,凸面鑿目の印き痕,両面布目圧痕,燒成良好,硬質,青灰~灰色,砂粒多い	2群
図100-1	112	10-658	土師器	埴	S2537埋土	-	-	4.7	内面黒色処理,底部糸切り,内面横・斜方向のミガキ調整	
図100-2	112	10-659	赤褐色土器	坏A	S2537埋土	-	-	-	外面に判読不明の墨書あり	
図100-3	112	10-660	赤褐色土器	坏A	S2537埋土	11.2	3.5	6.2	底部糸切り,二次的被熱痕	10C①
図100-4	112	10-661	赤褐色土器	坏A	S2537埋土	12.0	3.9	5.2	底部糸切り,二次的被熱痕	10C①
図100-5	112	10-662	赤褐色土器	坏A	S2537埋土	12.2	4.2	5.2	底部糸切り	10C①
図100-6	112	10-663	赤褐色土器	坏A	S2537埋土	12.6	3.9	4.2	底部糸切り,二次的被熱痕	10C①
図100-7	112	10-664	赤褐色土器	脚付埴	S2537埋土	-	-	-	三趾土器,体部内外面下端に手持ちケツ調整,脚部付柱に指形瓦紐ケツ調整	9C②
図100-8	112	10-679	須恵器	坏	S2547埋土	13.4	3.2	8.4	底部~ケツ切後,縦ケツ調整	9C②
図100-9	112	10-680	土師器	甕	S2547埋土	21.8	-	-	長胴,口縁部にナデ調整,体部内外面にカキ目調整	9C前半
図100-10	112	10-681	鉄製品	鉄鏝	S2547埋土	-	-	-	先端部欠損	
図100-11	112	10-682	須恵器	坏	S2550埋土	-	-	-	底部~ケツ切後,縦ケツ調整,内面に漆喰付着	
図100-12	112	10-683	須恵器	坏	S2550埋土	-	-	-	底部~ケツ切後,ナデ調整,底部外面に墨書(田)	
図100-13	112	10-684	須恵器	台付埴	S2550埋土	-	-	9.4	底部~ケツ切,高台取り付後,斜ミナデ調整	8C後半
図100-14	112	10-685	須恵器	台付埴	S2550埋土	17.4	7.5	9.4	底部~ケツ切,高台取り付後,ナデ調整	8C後半
図100-15	112	10-686	須恵器	双耳鉢	S2550埋土	33.2	-	-	底部欠損,体部外面下端ケツ調整,体部内面上半カキ目調整,下端ハケ目調整	8C後半
図100-16	112	10-687	須恵器	双耳鉢	S2550埋土	37.0	20.8	17.7	外面は口縁部ナデ調整,体部上半から下半にかけてカキ目調整後,下半手持ちケツ調整,内面は口縁部ナデ調整後,体部下半から底部にかけて部分的にカキ目調整	8C後半
図100-17	112	10-688	土師器	甕	S2550埋土	-	-	6.2	小型,体部外面にハケ目調整調整	
図100-18	115	10-831	須恵器	坏	S2578床面	13.7	1.6	9.8	底部~ケツ切後,丁寧ナデ調整	8C①
図100-19	115	10-832	須恵器	坏	S2578床面	14.3	3.8	8.2	底部~ケツ切後,底部外周および中位ケツ調整,二次的被熱痕	8C③
図100-20	115	10-833	土師器	坏	S2578カマド埋土	-	-	4.0	内面黒色処理,丸底,内面にミガキ調整,外面手持ちケツ調整,二次的被熱痕	8C後半
図100-21	115	10-834	土師器	甕	S2578臥土	-	-	-	外面縦方向のハケ目調整	
図100-22	115	10-835	土師器	甕	S2578カマド埋土	-	-	7.8	長胴形,底部ナデ調整により圧痕不明,外面に縦方向,内面に横方向のハケ目調整	
図100-23	115	10-836	土師器	甕	S2578カマド埋土	-	-	-	長胴形,外面は口縁部から頸部ナデ調整,タタキ成形痕あり,内面横方向のケツ調整	
図100-24	115	10-837	瓦	平瓦	S2578埋土	-	-	-	一枚作り,凸面鑿目の印き痕,両面布目圧痕と糸切り痕,端部面取り,焼成やや不良,軟質,灰色,被熱している	1群
図100-25	115	10-838	瓦	平瓦	S2578カマド埋土	-	-	-	一枚作り,凸面鑿目の印き痕,両面布目圧痕と糸切り痕,燒成良好,硬質,褐色,被熱している,凸面に砂多	2群
図110-1	115	10-839	瓦	平瓦	S2578カマド埋土	-	-	-	一枚作り,凸面鑿目の印き痕,両面布目圧痕と糸切り痕,凸面端部に指形圧痕,燒成良好,硬質,青灰色,凸面に砂多い	2群
図110-2	115	10-840	瓦	平瓦	S2578カマド埋土	-	-	-	一枚作り,凸面鑿目の印き痕,両面布目圧痕と糸切り痕,端部面取り,焼成良好,硬質,青灰色,被熱している,凸面に砂多い	2群
図110-3	115	10-841	瓦	平瓦	S2578カマド埋土	-	-	-	一枚作り,凸面鑿目の印き痕,両面布目圧痕と糸切り痕,燒成やや不良,硬質,灰色,被熱している	2群
図110-4	115	10-842	瓦	丸瓦	S2578カマド埋土	-	-	-	凸面ナデ調整,両面布目圧痕,燒成やや不良,軟質,灰色,被熱している	1-2群
図110-5	115	10-843	瓦	平瓦	S2578カマド埋土	-	-	-	一枚作り,凸面鑿目の印き痕,両面布目圧痕と糸切り痕,燒成良好,硬質,灰色,被熱している	1-2群
図110-6	115	10-844	瓦	平瓦	S2578カマド埋土	-	-	-	一枚作り,凸面鑿目の印き痕,両面布目圧痕と糸切り痕,燒成やや不良,軟質,灰白色,一部の破片が被熱	1-2群
図110-7	115	10-845	瓦	平瓦	S2578カマド埋土	-	-	-	一枚作り,凸面鑿目の印き痕,両面布目圧痕,全面ナデを施す,燒成やや不良,軟質,灰白色,被熱している	1-1群
図111-1	115	10-846	瓦	平瓦	S2578カマド埋土	-	-	-	一枚作り,凸面鑿目の印き痕,両面布目圧痕,燒成やや不良,硬質,灰色	1-2群
図111-2	115	10-847	瓦	平瓦	S2579埋土	-	-	-	一枚作り,凸面鑿目の印き痕,両面布目圧痕と糸切り痕,燒成良好,硬質,灰色,凸面に砂多	2群
図111-3	116	10-884	須恵器	坏	S2585埋土	-	-	8.4	底部~ケツ切後,ナデ調整	8C後半
図111-4	116	10-885	須恵器	坏	S2585埋土	15.3	6.5	9.8	底部~ケツ切後,ナデ調整,外面に(乞)の墨書	8C③

V 古代の検出遺構と出土遺物（5型穴建物跡）

表51 竪穴建物出土遺物一覧(6)

図版番号	次数	遺物番号	種類	器種	出土地点・層位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	調整技法等	時期
図111-5	116	10-886	土師器	甕	S2585埋土	16.4	-	-	多量沈澱、口縁部から胴部に5条の段状沈澱、体部外面横方向のハケ目調整、体部内面横方向のハケ目調整	8C③
図111-6	116	10-887	土師器	甕	S2585埋土	-	-	5.6	平底小型、底部木葉痕	
図111-7	116	10-888	須恵器	坏	S2586埋土	14.4	-	-	口縁部破片	9C後半
図111-8	116	10-889	須恵器	坏	S2587埋土	-	-	7.2	底部へタ切り後、ケズリ調整、底部外面を縦に転用	8C③
図111-9	116	10-890	赤褐色土器	坏A	S2587埋土	-	-	5.2	底部糸切り	9C④～10C①
図111-10	116	10-891	赤褐色土器	坏A	S2587埋土	-	-	6.0	底部糸切り、二次的被熱痕	9C④以降
図111-11	116	10-892	赤褐色土器	坏A	S2587埋土	13.0	4.9	5.0	底部糸切り、二次的被熱痕	9C④
図111-12	116	10-893	石製品	金床石	S2587埋土	-	-	-	花崗岩製	
図111-13	116	10-894	土製品	フイゴ 裂口	S2587埋土	-	-	-		
図111-14	116	10-895	鉄製品	鉄鏃	S2587埋土	-	-	-	上部と下部欠損	
図111-15	116	10-896	鉄製品	鉄鏃	S2587埋土	-	-	-	刀部先端と基部欠損	
図111-16	116	10-897	須恵器	甕	S2588埋土	-	-	-	外面平行タタキ痕、内面は体部・下半同心円状当て具痕、底部平行当て具痕、内面を縦に転用	
図111-17	116	10-898	赤褐色土器	坏A	S2588埋土	12.2	4.7	5.5	底部糸切り、二次的被熱痕	9C④
図111-18	116	10-899	赤褐色土器	甕	S2588埋土	17.0	19.4	9.2	平底小型、外面体部上半にカキ目調整、外面体部下半に半持ちヘラケズリ調整、内面上半に横方向のカキ目調整	
図111-19	116	10-900	土製品	フイゴ 裂口	S2588埋土	-	-	-		
図112-1	116	10-915	須恵器	台付坏	SX2598埋土	15.4	6.5	9.1	底部へタ切り、高台取り付け後、高台周辺ナデ調整	8C④
図112-2	116	10-916	土師器	甕	SX2598埋土	-	-	7.0	砂底、底部中央は砂が付着しているが、底部ナデ調整、体部外面縦方向のハケ目調整後、ナデ調整、体部内面横方向のハケ目調整	
図112-3	116	10-917	土師器	甕	SX2598埋土	15.6	17.0	8.4	砂底、体部外面縦方向・体部内面横方向のハケ目調整	
図112-4	116	10-918	瓦	平瓦	SX2598埋土	-	-	-	一枚作り、凸面調目の叩き痕、凹面布目圧痕と糸切り痕、焼成不良、軟質、灰色、二次被熱痕	1-2群
図112-5	117 C-2	10-989	須恵器	坏	C-2IK、S12623 カマド埋土	13.8	3.4	9.0	内外面に丁寧なナデ調整	8C③
図112-6	117 C-2	10-990	須恵器	坏	C-2IK、S12623 カマド埋土	13.1	3.2	8.0	底部へタ切り後、軽いナデ調整	8C③
図112-7	117 C-2	10-991	須恵器	坏	C-2IK、S12623 カマド埋土	14.2	4.1	8.0	底部へタ切り後、軽いナデ調整	8C③
図112-8	117 C-2	10-992	須恵器	台付坏	C-2IK、S12623 カマド埋土	16.1	7.3	9.4	底部へタ切り、高台を取り付け後、高台周辺ナデ調整	8C③
図112-9	117 C-2	10-993	土師器	甕	C-2IK、S12623 埋土下層	15.6	10.3	9.6	平底小型、底部ナデ調整、口縁部外面横方向のナデ調整、体部外面縦方向・内面横方向のハケ目調整	
図112-10	117 C-2	10-994	土師器	甕	C-2IK、S12623 床面	21.8	-	-	内外面横方向のハケ目調整	
図112-11	117 C-2	10-995	土師器	甕	C-2IK、S12623 カマド埋土	-	-	10.8	平底、内外面縦方向のハケ目調整	
図112-12	117 C-2	10-996	灰輪陶器	瓶	C-2IK、S12623 埋土	-	-	-		
図112-13	117 C-2	10-997	埴	-	C-2IK、S12623 カマド埋土	長さ 21.4 以上	幅 13.7	厚さ 6.3	立位で出土し、カマドの支脚として利用	
図112-14	117 C-2	10-998	瓦	平瓦	C-2IK、S12623 埋土	-	-	-	一枚作り、凸面調目の叩き痕、凹面布目圧痕と糸切り痕、焼成良好・堅硬、硬質、灰色、凸面に砂粒が多い	2群
図112-15	117 C-2	11-001	須恵器	坏	C-2IK、S12625 埋土	14.2	3.6	8.0	底部へタ切り後、体部下端から底部ケズリ調整	8C②
図112-16	117 C-2	11-002	須恵器	坏	C-2IK、S12625 埋土	13.0	3.6	8.0	底部へタ切り後、丁寧なナデ調整	8C②
図112-17	117 C-2	11-003	須恵器	短頸壺	C-2IK、S12625 埋土	-	-	-	内外面横方向のカキ目調整	
図112-18	117 C-2	11-001	土師器	甕	C-2IK、S12625 床面	16.0	-	-	小型、内外面ハケ目調整	
図112-19	117 C-2	11-005	土師器	甕	C-2IK、S12625 床面	21.6	-	-	長頸型、外面縦方向・内面横方向のハケ目調整	

## 第6節 焼土遺構 (図113~121、表52~56)

炭化物の集中地点や焼土を伴う土坑状の遺構を焼土遺構とした。土坑状に地面を掘りくぼめ、粘土で構築されたカマド状部分を伴うものもある。21次・86次・96次・99次・108次・112次・116次で35基検出されている。中央部はSX1211(59次)の1基のみで、それ以外はすべて南西部での検出である。南西部では、第2節で見たように方形の城内区画施設が配置されており、この方形区画施設の内外で、焼土遺構が集中して発見されている。焼山地区南西部は、近世以降に畑地として利用されており、焼土遺構の上部構造や当時の作業面は、削平を受けている。108次・112次調査では半蔵した焼土遺構の埋土について、すべての土壌を4・2・1mmの乾燥フルイ選別を行ったが、鍛造薄片を確認することはできなかった。

なお、焼土遺構が分布する南西部からは、遺構外やその他の遺構からも鉄製品や関連遺物が出土する特徴がある。これらの南西部における遺構外出土遺物は、図121-22~34に掲載した。また、同様に遺構外から砥石も出土しており図113に掲載した。

南西部の焼土遺構については、配置・形状、方位から下記のように3種(細分して4種)に分類することができる。

A類:城内区画施設内に配置され、長軸2m以上の瓢箪形・楕円形を呈し大型のもの。鉄滓、フイゴ羽口、鉄製品が出土する。長軸の方位により2つに細分される。

A-1類:長軸の方位が東(北で8~36°東)に振れるもの。城内区画施設の方位に類似する。SX2169(99・108次)、SX2490~2497(108次)が該当する。

A-2類:長軸の方位が西(北で10~19°西)に振れるもの。SX2543・2551~2555・2557(112次)が該当する。

B類:城内区画施設内に配置され、直径2m未満の円形または楕円形を呈するもの。SX2165~2168・2170・2171(99次)、SX2542・2544(112次)が該当する。

C類:城内区画施設外に配置され、直径2m未満の円形または楕円形を呈するもの。SX1839~1841(86次)、SX2083(96次)、SX2592~2597(116次)が該当する。

A-1類は、粘土で構築したカマド状の部分に伴うものがあり、特にSX2494(108次)は良好に遺存している。SX2494は瓢箪形に掘りくぼめ、中央部に粘土で馬蹄形のカマドを付設しており、カマドは掘り込み幅が広い方に開けている。このカマドの埋土は、瓦を立てて粘土質の土で補強している状況が観察されていることから、最低1回は作り直している。カマド埋土からは多量の炭化物が出土している。SX2494以外のA類では、粘土部分が見られるものは、SX2494と同様のカマド状を呈していたと考えられる。

また、A類からは鉄滓、フイゴ羽口、鉄製品、金床石が出土する。鉄滓については、椀形滓などもみられるが、その量は一般的な古代の製鉄遺跡と比べて少量である。例えば、108次調査地(調査面積53.4㎡)では、88点、合計3,263.7gの鉄滓が出土している(表52)。

その他、焼土遺構が分布する南西部の96次・99次・108次・112次・116次調査地では砥石が遺構外から14点出土している。このうち7点は、黒色の珩晶のある特徴的な石材が用いられている。

検出層位・出土遺物から推定される年代は、A-1類は8世紀第4四半期・9世紀第1四半期以降で、10世紀第1四半期には廃絶していると考えられる(註1)。中心となる時期は、9世紀第2~4四半期と推定される。A-2類は8世紀第4四半期以降で、9世紀第3四半期と考えられ、中心となる時期は9世紀第2~3四半期と推定される。B類とC類は9世紀第2~4四半期と考えられる。以上のことから、南

V 古代の検出遺構と出土遺物 (6焼土遺構)

西部で検出された焼土遺構は、おおむねどの類型においても、9世紀第2~4四半期に機能していたと考えられる。この年代は、第2節でみた南西部の城内区画施設の存続年代とほぼ同一である。中でも、A-1類焼土遺構は、方位が東に振れ、城内区画施設と類似した方位であることも注目される。

これら南西部の焼土遺構内からは、鉄製品として、馬具、鉄鎌が出土しているが、遺構外からは、刀子、斧、鎌が出土している(図120)。また、南西部掘立柱建物跡のSB2140でも鉄製品の鍛先が出土している(図50-29)。このように鍛先や鎌、斧などの生活用具に関する鉄製品が出土する点も注意したい。

また、後述するが、焼土遺構が出土する南西部、特に108次調査地からは、関東系土器が出土している(図76-23、図105-35、図131-11、別編3図3-27)。焼土遺構の系譜を考える上で注意したい。

註1: 別編2第1節の放射性炭素年代の結果、A-1類のSX2494のカマド埋土の炭化物片(試料No.10・11)では、較正年代で新しい値でも8世紀中葉の年代値が示されており、検出層位や周辺の類似遺構の年代との齟齬がある。これについては、測定した炭化物がフルイ選別で得られたものであるため、その炭化物片の由来や、炭化物片そのものの古木効果などの可能性が考えられる。

表52 108次調査地出土鉄洋一覧

点数	磁着あり	磁着なし	総計
II層	1	9	10
III層	17	34	51
SD2449		1	1
SD2450	2	6	8
SK2451		1	1
III層小計	19	42	61
IV層	4	7	11
SI2460		1	1
SI2461		1	1
SI2463		2	2
SX2169		1	1
SX2492		1	1
IV層小計	4	13	17
総計	24	64	88

重量(g)	磁着あり	磁着なし	総計
II層	39.8	328.7	368.5
III層	573.2	1,026.6	1,599.8
SD2449		84.1	84.1
SD2450	44.1	220.6	264.7
SK2451		12.6	12.6
III層小計	617.3	1,343.9	1,961.2
IV層	120.1	175.4	295.5
SI2460		2	2.00
SI2461		1.7	1.7
SI2463		156.2	156.2
SX2169		16	16.0
SX2492		462.6	462.6
IV層小計	120.1	813.9	934.0
総計	777.2	2,486.5	3,263.7

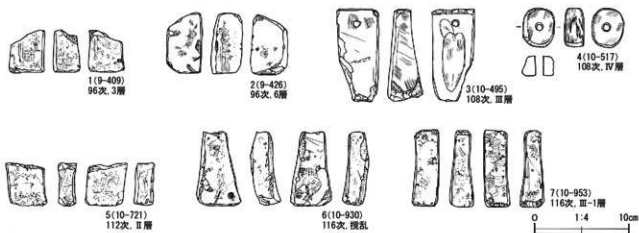


図113 南西部遺構外出土磁石

表53 南西部出土磁石一覧

図版番号	次数	遺物番号	種別	器種	出土地点・層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	調整技法等
図113-1	96	9-409	右製品	磁石	3層	4.7	3.7	2.6	に濃い黄褐色の右質、黒色砥品、上部欠損、4面使用
図113-2	96	9-426	右製品	磁石	6層	6.4	3.6	2.7	に濃い黄褐色の右質、黒色砥品、4面使用
図113-3	108	10-495	右製品	磁石	III層	10.0	4.3	3.6	に濃い黄褐色の右質、黒色砥品、上部に穿孔、4面使用
図113-4	108	10-517	右製品	磁石	IV層	4.0	3.3	2.1	に濃い黄褐色の右質、黒色砥品、上部に穿孔あり、全面を使用
図113-5	112	10-721	右製品	磁石	IV層	4.8	3.9	1.8	に濃い黄褐色の右質、黒色砥品、4面使用
図113-6	116	10-930	右製品	磁石	攪丸	7.8	4.4	2.1	に濃い黄褐色の右質、黒色砥品、広端部隅に穿孔、3面使用
図113-7	116	10-953	右製品	磁石	III-1層	8.2	2.7	2.5	に濃い黄褐色の右質、黒色砥品、上部に穿孔、4面使用



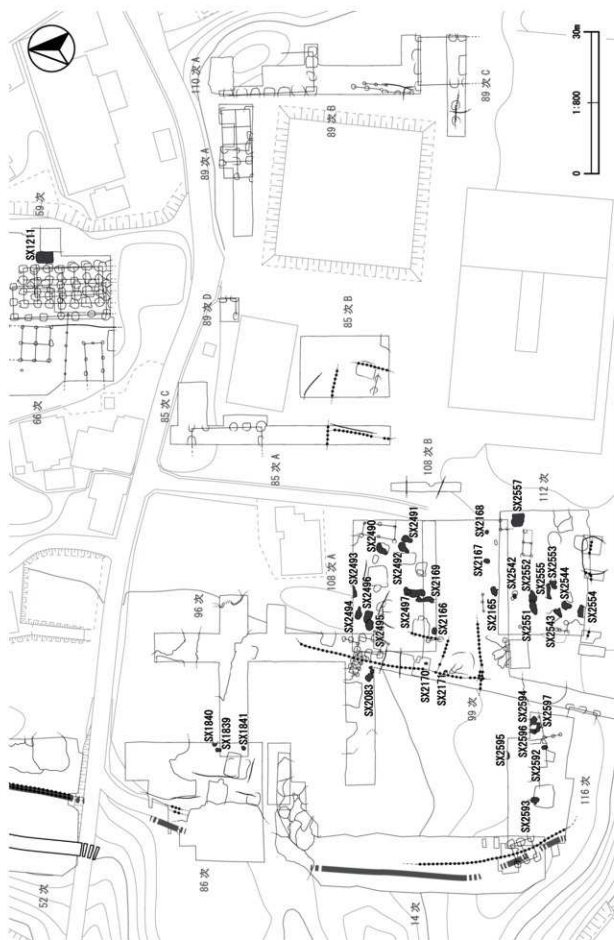


図 114 6統土遺構概略図

V 古代の検出遺構と出土遺物 (6焼土遺構)

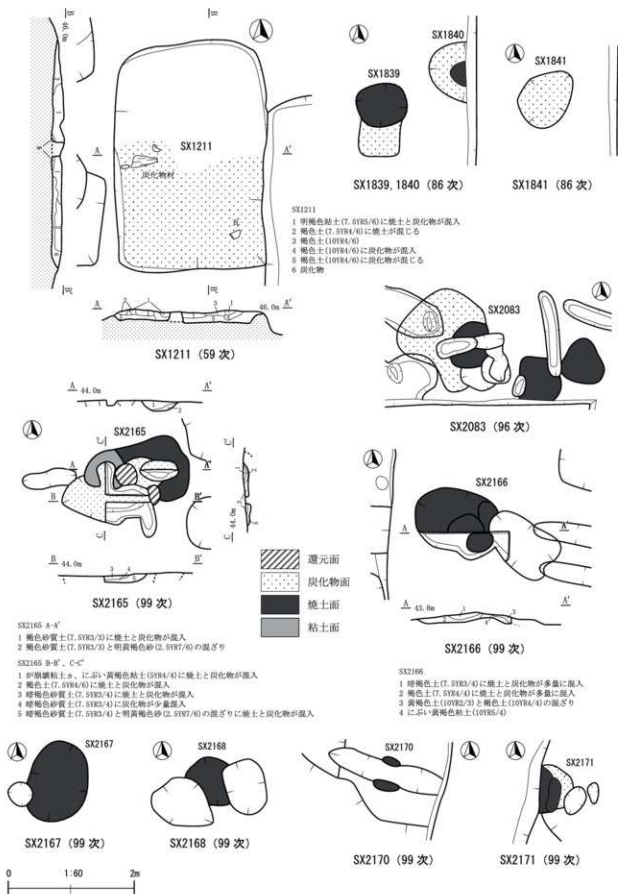
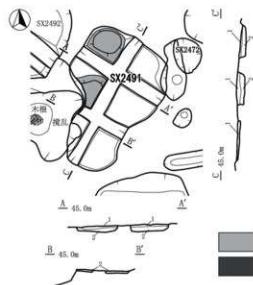


図 115 焼土遺構①(SX1211, 1839 ~ 1841, 2083, 2165 ~ 2168, 2170, 2171 焼土遺構)

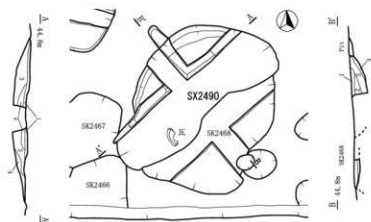
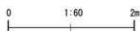


SX2169 (99次・108次 A)



SX2491 (108次 A)

- SX2491
- 1 褐色砂(10YR4/3)に炭化物粒(最大5mm)が少量混じる
  - 2 褐色砂(10YR4/4)に棕色(2.5YR6/3)粘土ブロック(最大5mm)が混じる

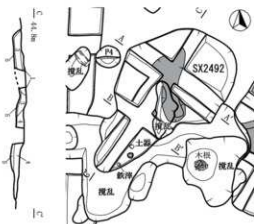


SX2490 (108次 A)

- SX2490
- 1 暗褐色粘質土(10YR3/3)に最大1cmの赤褐色焼土ブロック(5YR4/3)と最大1cmの炭化物粒を含む
  - 2 黒褐色粘質土(10YR2/3)
  - 3 黒褐色粘質土(7.5YR2/1)
  - 4 褐色粘質土(10YR4/6)と黒褐色粘質土(7.5YR3/1)が混じる(5:5)

SX2169カマド南壁

- 1 に近い黄褐色砂(10YR4/4)
- 2 カマド縁粘土: 赤褐色粘土(10YR4/6)に褐色土(10YR4/6)が混じる
- 3 カマドソダ: 赤褐色粘土(5YR4/6)
- 4 カマド壁地層: 褐色粘質土(10YR4/6)に0.1cmの暗褐色粘土ブロック(10YR5/6)が混じる
- 5 カマド壁地層: 暗赤褐色砂(10YR2/2)
- 6 赤褐色粘質土(5YR4/3)



SX2492 (108次 A)

SX2492

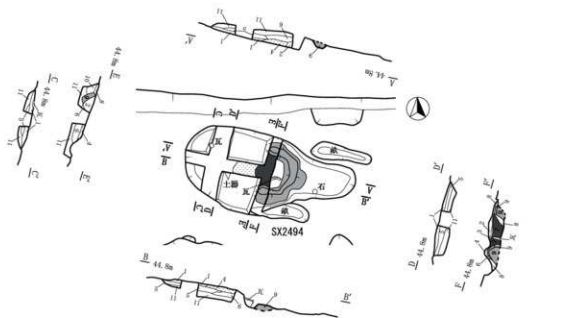
- 1 カマドの縁粘土: 暗褐色粘質土(10YR3/4)に赤褐色粘土ブロック(10YR4/6)が混じる
- 2 暗褐色粘質土(10YR2/4)
- 3 褐色粘質土(10YR4/4)に暗褐色土(10YR3/4)が混じる
- 4 黒褐色粘質土(10YR2/3)に炭化物が混じる
- 5 褐色粘質土(10YR4/4)



SX2493 (108次 A)

図116 焼土遺構②(SX2169, 2490～2493焼土遺構)

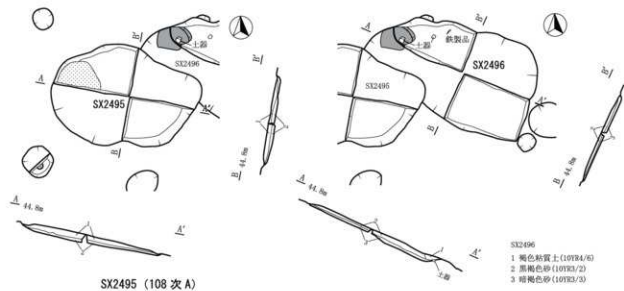
V 古代の検出遺構と出土遺物 (6焼土遺構)



SX2494 (108次A)

SX2494

- 1 褐色粘質土(10YR4/4)に黄褐色粘土ブロック(10YR5/8)
- 2 赤褐色粘土(2.5YR5/8)にφ2~3mmの赤褐色粘土ブロック(2.5YR4/8)が混じり、被熱している
- 3 明赤褐色粘土(2.5YR5/8)にφ2~3mmの赤褐色粘土ブロック(2.5YR4/8)が混じり、被熱している
- 4 炭化物：黒褐色土(10YR2/3)にφ2~3mmの赤褐色粘土ブロック(2.5YR4/8)とにぶい黄褐色粘質土(10YR6/4)と炭化物が多く混じる
- 5 にぶい黄褐色土(10YR5/4)に黄褐色粘土ブロック(10YR5/8)が混じる
- 6 黒褐色土(10YR2/3)に赤褐色粘土ブロック(10YR5/8)が混じる
- 7 焼土：黒褐色粘質土(10YR2/2)にφ5~8mmの赤褐色土粘土ブロックに(2.5YR4/8)に炭化物が混じる
- 8 にぶい黄褐色粘質土(10YR4/3)
- 9 カマド粘土：黄褐色粘土(10YR5/8)にφ1cm程度のにぶい黄褐色粘土ブロック(10YR5/3)が混じる
- 10 にぶい黄褐色砂質土(10YR4/3)
- 11 にぶい黄褐色砂質土(10YR5/3)



SX2495 (108次A)

SX2496 (108次A)

SX2495

- 1 褐色粘質土(10YR3/4)に炭化物物混じる(最大5mm)
- 2 褐色色砂(10YR3/3)

SX2496

- 1 褐色粘質土(10YR4/8)
- 2 黒褐色粘質土(10YR2/3)
- 3 褐色色砂(10YR2/3)

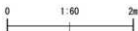


図 117 焼土遺構③(SX2494 ~ 2496 焼土遺構)

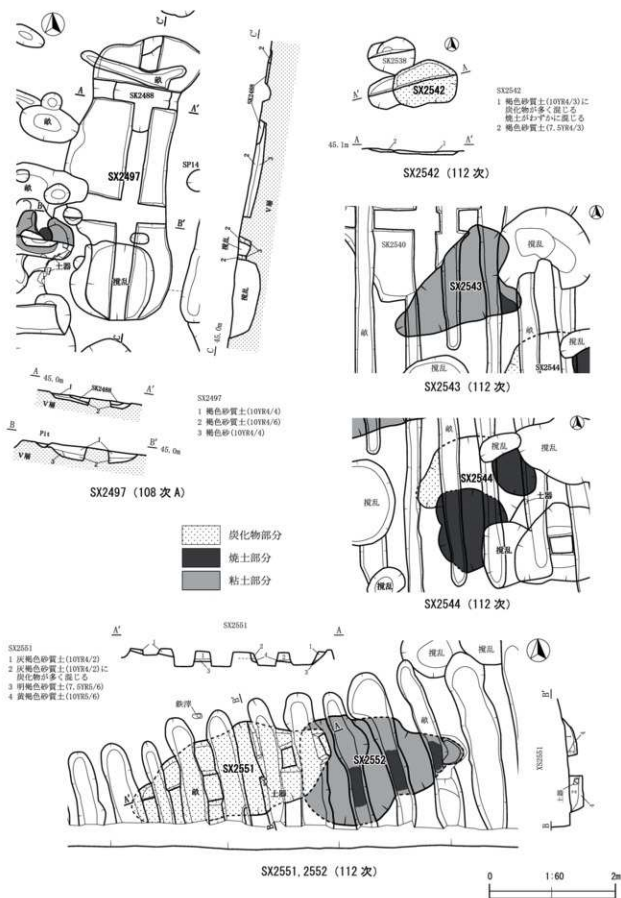


図 118 焼土遺構④(SX2497, 2542 ~ 2544, 2551, 2552 焼土遺構)

V 古代の検出遺構と出土遺物 (6焼土遺構)

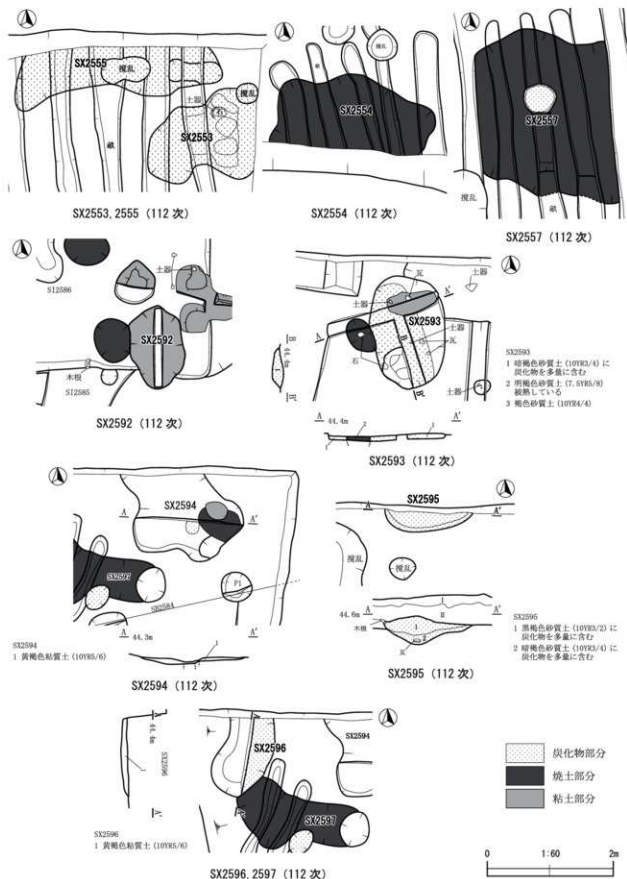


図 119 焼土遺構⑤(SX2553 ~ 2555, 2557, 2592 ~ 2597 焼土遺構)

表54 焼土遺構属性一覧(1)

図No.	調査 次数	遺構 番号	種別	位置・ 層位	規模	構造	方位	重複関係	備考	検出層位 の年代	出土遺物 の年代	遺構分類 時期
図115	59	SX1211	焼土 遺構	2層	東西2.4m×南北3.1m ×深315cm,長方形			SI1210→	炭化材・炭化 未出土	8C②以前		中央部
図115	86	SX1839	焼土 遺構	6層	長軸1.15m×短軸 0.8m,楕円形					9C②～ 10C②		CⅢ 9C②以降
図115	86	SX1840	焼土 遺構	6層	東西0.6m以上×南北 0.3m,楕円形					9C②～ 10C②		CⅢ 9C②以降
図115	86	SX1841	焼土 遺構	6層	長軸1.0m×短軸0.8m			SK1834→		9C②～ 10C②		CⅢ 9C②以降
図115	96	SX2083	焼土 遺構	6層	3箇所の焼土面と1箇 所の炭化物集中面, 直径0.6～0.7m,ゆが んだ円形					9C④以降		CⅢ 9C④以降
図115	99	SX2165	焼土 遺構	5層	長軸210cm×短軸110 cmの不整形	2箇所の07跡			馬具出土	9C②		BⅢ 9C②～④ (上層埋土 に9C④の 1-2層が堆 積)
図115	99	SX2166	焼土 遺構	5層	長軸140cm×短軸100 cm,ゆがんだ楕円形					9C②		BⅢ 9C②以降
図115	99	SX2167	焼土 遺構	5層	長軸125cm×短軸95 cm,ややゆがんだ楕 円形			→SA2142		9C②		BⅢ 9C②～④ (上層埋土 に9C④の 1-2層が堆 積)
図115	99	SX2168	焼土 遺構	5層	長軸80cm×短軸70cm 以上,ややゆがんだ 円形			→SA2142		9C②		BⅢ 9C②～④ (上層埋土 に9C④の 1-2層が堆 積)
図116	99	SX2169	焼土 遺構	5層(99 ⅢC,Ⅳ層 108次)	長軸3.0m×幅0.9～ 1.1m,深34cm,楕長 い不整形	南北方向,北側に カマド部分あり, 焼土ブロック集中 する	長軸 N8° E		108次で再検 出,表層出土 (106次)	9C②	9C ②～④	A-1Ⅲ 9C②～④
図115	99	SX2170	焼土 遺構	7層	長軸60cm以上×短軸 45cmの楕円形					8C代		BⅢ 8C代以降
図115	99	SX2171	焼土 遺構	7層	長軸80cm×短軸58cm 以上,楕円形	07壁と推定される 焼土の集中部あり			→SA2066	8C代		BⅢ 8C代以降
図116	108	SX2490	焼土 遺構	AⅢ, Ⅳ層	長軸3.0m×短軸 1.2m,深321cm,楕円 形	南北方向,中央 部に焼土ブロック および炭化物粒 を含む	長軸 N48° E	SK2467・ SK2468・ SK2466→	8C①～ 9C①	9C後半		A-1Ⅲ 9C後半
図116	108	SX2491	焼土 遺構	AⅢ, Ⅳ層	長軸2.3m×短軸 1.3m,深313cm,北西 部が広がり,南西部が すぼまる橢圓形	南北方向,北西 部の広がり部分2 箇所にカマド状 の粘土がある,埋土 に炭化物が混 じる	長軸 N27° E	不明鉄製品出 土	8C①～ 9C①	9C後半		A-1Ⅲ 9C後半
図116	108	SX2492	焼土 遺構	AⅢ, Ⅳ層	長軸2.8m×短軸 1.7m,深321cm,北西 部が広がり,南西部が すぼまる橢圓形	南北方向,北西 部の広がり部分 にカマド状の粘 土がある,埋土に 炭化物混入	長軸 N36° E	鉄器出土	8C①～ 9C①	9C②		A-1Ⅲ 9C②
図116	108	SX2493	焼土 遺構	AⅢ, Ⅳ層	長軸2.4m以上×短軸 0.6m以上,東側が広 がり,西側がすぼまる 橢圓形か	東西方向,埋土に 炭化物混入				8C①～ 9C①		A-1Ⅲ 8C① 以降
図117	108	SX2494	焼土 遺構	AⅢ, Ⅳ層	長軸2.8m×短軸 1.3m,深320cm,西側 が広がり,東側がすぼ まる橢圓形	東西方向,中央 部に橢圓形のカ マド状粘土あり, カマドは西側が 開口部でカマド 西側に焼土・炭 化物が分布する, カマドの窪み部 分に瓦を立てて 補強している状 況あり,最低で1 回以上作り直し がある	長軸 W12° N (N12° E)	不明鉄製品,金 床石出土	8C①～ 9C①	8C末・9C 初		A-1Ⅲ 8C①以降

V 古代の検出遺構と出土遺物（6焼土遺構）

表55 焼土遺構属性一覧(2)

図No.	調査 次数	遺構 番号	種別	位置・ 層位	規模	構造	方位	重複関係	備考	検出層位 の年代	出土遺物 の年代	遺構分類 時期
図117	108	SX2495	焼土 遺構	A/E, IV層	長軸2.3m×短軸 1.5m,深さ8cm,楕円形	東西方向,西側に 炭化物集中地点 あり	長軸 W10° N (N10° E)	SX2496→	金床石出土	8C④～ 9C①		A-1期 8C④ 以降
図117	108	SX2496	焼土 遺構	A/E, IV層	長軸2.6m×短軸 1.5m,深さ8cm,楕円形	東西方向,西側に 粘土部分あり	長軸 W24° N (N24° E)	→SX2495	鉄鏝出土	8C④～ 9C①	9C後半	A-1期 9C後半
図118	108	SX2497	焼土 遺構	A/E, IV層	長軸1.6m×短軸1.6 ～1.7m,深さ21cm,不 整形楕円形		長軸 N9° E		フイゴ羽口,不 明鉄製品出土	8C④～ 9C①	10C①	A-1期 10C① 廃絶
図118	112	SX2542	焼土 遺構	IV層	長軸1.5m×短軸60 cm,深さ5cm,不整形	埋土に多量の炭 化物と焼土		SK2538→		9C④		B期 9C④
図118	112	SX2543	焼土 遺構	IV層	長軸2.2m×短軸 1.0m,不整形	埋土に炭化物と 焼土		SK2540→		9C④	9C④	B期 9C④
図118	112	SX2544	焼土 遺構	IV層	直径2.0m,不整形	埋土に炭化物と 焼土				9C④		B期 9C④以降
図118	112	SX2551	焼土 遺構	V層	長軸3.3m×短軸 1.5m,深さ15cm,楕円形	東西方向,埋土に 炭化物と微量の 焼土含む	長軸 W19° S (N19° W)	SX2552→	フイゴ羽口,鉄 鏝,鉄洋出土	8C④	9C③	A-2期 9C③
図118	112	SX2552	焼土 遺構	V層	長軸2.6m以上×短軸 1.8m,深さ20cm,楕円形	東西方向,埋土に 粘土質,部分的に 焼土含む	長軸 W10° S (N10° W)	→SX2551		8C④		A-2期 8C④以降
図119	112	SX2553	焼土 遺構	V層	長軸2.0m以上×短軸 1.5m,不整形	東西方向,埋土に 炭化物含む	長軸 W17° S (N17° W)		焼石出土	8C④	9C②～③	A-2期 9C②～③
図119	112	SX2554	焼土 遺構	V層	長軸2.6m以上×短軸 1.2m以上,不整形	東西方向,埋土に 粘土質,部分的に 焼土含む	長軸 W13° S (N13° W)			8C④		A-2期 8C④以降
図119	112	SX2555	焼土 遺構	V層	長軸3.3m×短軸0.7m 以上,楕円形	東西方向,埋土に 炭化物含む	長軸 W18° S (N18° W)			8C④		A-2期 8C④以降
図119	112	SX2557	焼土 遺構	V層	直径2.5m以上,深さ 30cm	埋土に焼土含む, 中央に直径50cm の炭化物集中地 点あり,前記により 全体形状不明				8C④	9C③	A-2期 9C③
図119	116	SX2592	焼土 遺構	V層	長軸1.3m×短軸 0.8m,楕円形	西側に直径60cm の円形の炭化物 集中部分を伴う		SI2586→		8C前半?		C期 9C後半 以降(9C後 半の SI2586より 新しい)
図119	116	SX2593	焼土 遺構	V層	長軸1.8m×短軸 1.2m,深さ10～20cm, 楕円形	埋土に多量の炭 化物と粘土部分, 西側に長軸50cm ×短軸30cmの楕 円形の焼土部分 を伴う		SI2587・ SI2588→	金床石出土	8C前半?	9C④	C期 9C④
図119	116	SX2594	焼土 遺構	V層	長軸1.7cm×短軸 1.5m以上,深さ10cm, 不整形	埋土に炭化物を 含む,東側に焼土 面と粘土部分が みられる				8C前半?	9C④	C期 9C④
図119	116	SX2595	焼土 遺構	V層	長軸1.4m以上×短軸 30cm以上,深さ45cm, 平面形不明	埋土に炭化物を 多量に含む			フイゴ羽口出 土	8C前半?	9C④	C期 9C④
図119	116	SX2596	焼土 遺構	V層	長軸1.2m×短軸 0.8m,深さ10cm,楕円形	埋土に炭化物を 含む		SX2597→		8C前半?	9C②	C期 9C②
図119	116	SX2597	焼土 遺構	V層	長軸2.0m以上×短軸 0.9m,不整形	しまりの強い粘土 質と焼土を含む		→SX2596		8C前半?		C期 9C②以前 (9C②の SX2596より 古い)



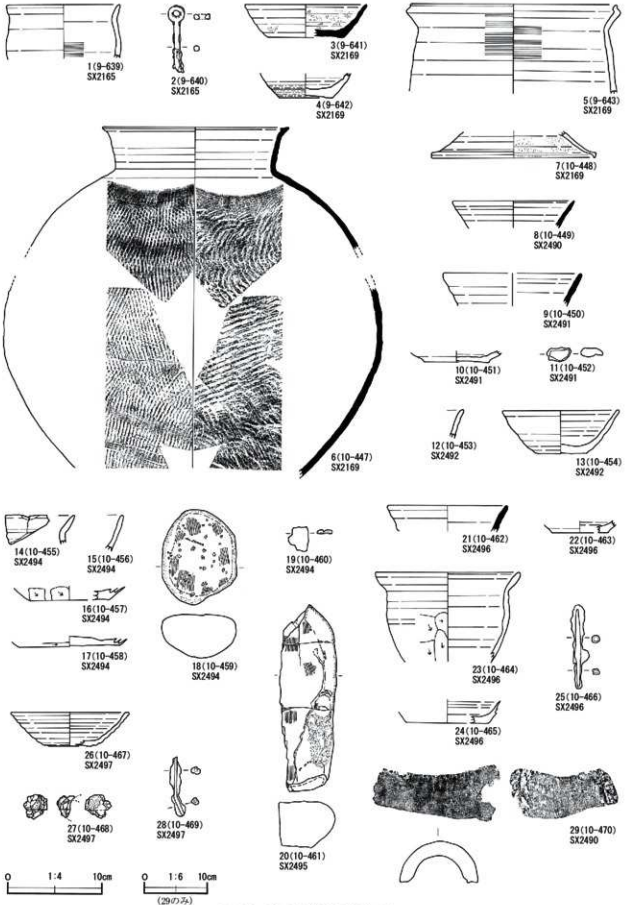


図120 焼土遺構出土遺物(1)

V 古代の検出遺構と出土遺物 (6焼土遺構)

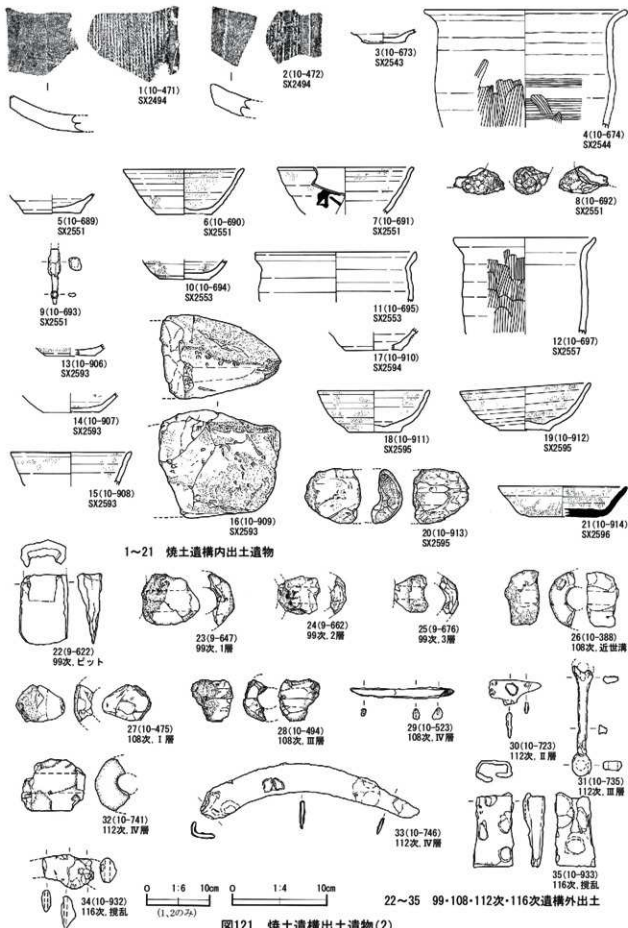


図121 焼土遺構出土遺物(2)

表56 焼土遺構出土遺物一覧

図版番号	回数	遺物番号	種別	器種	出土地点・層位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	調整技法等	時期	
図120-1	99	9-639	土師器	甕	SX2165埋土	12.0	-	-	小型、内部内面ハケ目調整後、口縁部内外面から体部内外面にナゲ調整	9C代	
図120-2	99	9-640	鉄製品	馬具	SX2165埋土	-	-	-	棒の端部が破状となり、方が欠損、棒の半分のみ		
図120-3	99	9-641	須恵器	坏	SX2169土面直上	13.0	3.5	8.0	底部ヘラ切り後、ナゲ調整	9C②	
図120-4	99	9-642	赤褐色土器	甕	SX2169土面直上	-	2.6	5.0	平底小型、底部糸切り後、体部下端から下平をケズリ調整	9C後半	
図120-5	99	9-643	赤褐色土器	甕	SX2169土面直上	21.0	-	-	輪郭形、口縁部端を上方につまみ出す、内外面の頸部から体部上半にナゲ目調整後、外面の口縁部から頸部と内面の口縁部にナゲ調整	9C後半	
図120-6	108	10-147	須恵器	大甕	SX2169底面	-	-	-	内面に同心円当て具痕、外面に平行印き痕		
図120-7	108	10-148	赤褐色土器	蓋	SX2169埋土	17.4	-	-	-	9C②～③	
図120-8	108	10-149	須恵器	坏	SX2490埋土	13.0	-	-	口縁部破片	9C後半	
図120-9	108	10-150	須恵器	坏	SX2491埋土	14.8	-	-	口縁部破片	9C後半	
図120-10	108	10-151	赤褐色土器	坏A	SX2491埋土	-	-	6.8	底部糸切り	9C③	
図120-11	108	10-152	鉄製品	不明	SX2491埋土	-	-	-	-		
図120-12	108	10-153	土師器	坏	SX2492底面	-	-	-	内面黒色処理、内面にナゲ調整		
図120-13	108	10-154	赤褐色土器	坏A	SX2492底面	12.4	4.6	5.2	底部糸切り	9C②	
図120-14	108	10-155	土師器	壺	SX2494埋土	-	-	-	口縁部破片		
図120-15	108	10-156	赤褐色土器	坏A	SX2494埋土	-	-	-	口縁部破片		
図120-16	108	10-157	赤褐色土器	甕	SX2494埋土	-	-	8.4	平底小型、体部下平に横方向の手持ちヘラケズリ		
図120-17	108	10-158	赤褐色土器	甕	SX2494埋土	-	-	10.8	平底小型、底部立ち上がり部分に手持ちヘラケズリ		
図120-18	108	10-159	石製品	磨石	SX2494埋土	-	-	-	泥岩製、表面が研磨されている		
図120-19	108	10-160	鉄製品	不明	SX2494埋土	-	-	-	-		
図120-20	108	10-161	石製品	金床石	SX2495埋土	-	-	-	安山岩、被熱している		
図120-21	108	10-162	須恵器	坏	SX2496埋土	12.4	-	-	口縁部破片	9C後半	
図120-22	108	10-163	赤褐色土器	甕A	SX2496埋土	-	-	6.0	底部糸切り	9C②	
図120-23	108	10-164	土師器	坏	SX2496埋土	15.4	-	-	平底小型、体部下平に縦方向の手持ちヘラケズリ		
図120-24	108	10-165	赤褐色土器	甕	SX2496埋土	-	-	8.8	平底小型、二次的被熱痕		
図120-25	108	10-166	鉄製品	鉄鏝	SX2496埋土	-	-	-	残存長0.8mm、先端部分欠損		
図120-26	108	10-167	赤褐色土器	坏A	SX2497埋土	12.6	3.6	4.6	底部糸切り	10C①	
図120-27	108	10-168	土製品	フイゴ羽口	SX2497埋土	-	-	-	-		
図120-28	108	10-169	鉄製品	不明	SX2497埋土	-	-	-	-		
図120-29	108	10-170	瓦	丸瓦	SX2490埋土	-	-	-	凸面ナゲ調整、凹面布目圧痕、分別洗滌あり、焼成やや不良い、軟質、褐色	4-1群	
図121-1	108	10-471	瓦	平瓦	SX2494埋土	-	-	-	凸面顔目の印き痕、凹面布目圧痕、焼成良好、やや軟質、灰黄色、被熱している	3-2群	
図121-2	108	10-472	瓦	平瓦	SX2494埋土	-	-	-	凸面顔目の印き痕、凹面布目圧痕、焼成良好、やや軟質、灰黄色、被熱している	3-2群	
図121-3	112	10-673	赤褐色土器	皿	SX2543埋土	-	-	4.7	底部糸切り		
図121-4	112	10-674	土師器	甕	SX2544埋土	21.2	-	-	体部外面に縦方向のハケ目調整、体部内面に縦方向のハケ目調整と横方向のハケ目調整		
図121-5	112	10-689	赤褐色土器	坏A	SX2551	-	-	6.0	底部糸切り	9C②	
図121-6	112	10-690	赤褐色土器	坏A	SX2551	12.8	4.8	6.0	底部糸切り、灯明皿	9C③	
図121-7	112	10-691	赤褐色土器	坏A	SX2551	14.4	-	-	体部外面に「木」書		
図121-8	112	10-692	土製品	フイゴ羽口	SX2551	-	-	-	-		
図121-9	112	10-693	鉄製品	鉄鏝	SX2551	-	-	-	上部欠損		
図121-10	112	10-694	赤褐色土器	坏A	SX2553	-	-	5.2	底部糸切り	9C②	
図121-11	112	10-695	赤褐色土器	甕	SX2553	17.0	-	-	平底小型、口縁部端を上方につまみ出す	9C②～③	
図121-12	112	10-697	土師器	甕	SX2557	15.0	-	-	口縁部ナゲ調整、体部外面に縦方向のハケ目調整		
図121-13	116	10-906	赤褐色土器	坏A	SX2593埋土	-	-	5.2	底部糸切り、二次的被熱痕	9C④	
図121-14	116	10-907	赤褐色土器	坏A	SX2593埋土	-	-	5.8	底部糸切り、二次的被熱痕	9C④	
図121-15	116	10-908	赤褐色土器	坏A	SX2593埋土	12.8	-	-	二次的被熱痕		
図121-16	116	10-909	石製品	金床石	SX2593埋土	-	-	-	花崗岩製、上面露出部分が被熱している		
図121-17	116	10-910	赤褐色土器	坏A	SX2594埋土	-	-	6.0	底部糸切り	9C④	
図121-18	116	10-911	赤褐色土器	坏A	SX2595埋土	12.0	4.4	5.2	底部糸切り、二次的被熱痕	9C④	
図121-19	116	10-912	赤褐色土器	坏A	SX2595埋土	12.0	4.5	5.4	底部糸切り	9C④	
図121-20	116	10-913	土製品	フイゴ羽口	SX2595埋土	-	-	-	-		
図121-21	116	10-914	須恵器	坏	SX2596埋土	13.8	3.2	7.0	底部ヘラ切り後、丁寧なナゲ調整、二次的被熱痕	9C②	
図121-22	99	9-622	鉄製品	鉄斧	SA2142ビド群、柱廻り方埋土	-	-	-	-	刃先	
図121-23	99	9-647	土製品	フイゴ羽口	1層	-	-	-	-		
図121-24	99	9-662	土製品	フイゴ羽口	2層	-	-	-	-		
図121-25	99	9-676	土製品	フイゴ羽口	3層	-	-	-	-		
図121-26	108	10-388	土製品	フイゴ羽口	岩室溝(SD2450埋土)	-	-	-	-		
図121-27	108	10-175	土製品	フイゴ羽口	1層	-	-	-	-		
図121-28	108	10-194	土製品	フイゴ羽口	II層	-	-	-	-		
図121-29	108	10-523	鉄製品	鎌	IV層	-	-	-	-		
図121-30	112	10-723	鉄製品	鎌	II層	-	-	-	刃部欠損		
図121-31	112	10-735	鉄製品	馬具	III層	-	-	-	引手、破状の端部を持つ		
図121-32	112	10-741	土製品	フイゴ羽口	IV層	-	-	-	-		
図121-33	112	10-746	鉄製品	鎌	IV層	-	-	-	銚形		
図121-34	116	10-932	鉄製品	鎌	複丸	-	-	-	刃部		
図121-35	116	10-933	鉄製品	鉄斧	複丸	-	-	-	刃先		

## 第7節 井戸跡・土坑・火葬墓（図122～131、表57～62）

本節では井戸跡、土坑、火葬墓について扱う。

井戸跡は、102次調査地のSE2344の1基のみ検出である。外郭線の内側に配置され、井筒部分の掘り込みは確認されるが、井筒自体の遺存はない。出土遺物から8世紀後半以降のものであると考えられる。

土坑については、焼山地区全域から125基検出されているが、すべての個別平面図を提示できなかったため、1/400の図面で平面形状と検出位置を示し（図123～127）、遺構属性表を提示した。ただし、第2節で言及した城内区画施設内の土坑については、第6節で述べた焼土遺構と密接な関係にあると考えられることから、主要なものについて個別の平面・断面図を提示し、出土遺物も提示した（図128～131）。本節で扱う土坑が焼土遺構と異なる点は、平面分布上で明瞭な焼土・炭化物・カマドが崩壊したような粘土が認められない点である。城内区画施設内の土坑は99次・108次・112次で34基検出された。城内区画施設内の土坑は、平面形状、方位から以下の2類（細分して3類）に分類することができる。

A類：長軸2m以上の大型で平面型が楕円形のもの。長軸の方位により以下の2つに細分できる。

A-1類：長軸の方位が東（北で19～41°東）に振れるもの。城内区画施設の方位に類似する。SK2468・2479(108次)が該当する。

A-2類：長軸の方位が西（北で16～45°西）に振れるもの。SK2161・2162(99次)、SK2540・2541(112次)が該当する。

B類：直径2m未満の円形または楕円形のもの。SK2464・2465(108次)、SK2469～2478(108次)、SK2480～2489(108次)、SK2533～2535・2538・2539(112次)が該当する。

これらの城内区画施設内の主要な土坑は、焼土遺構の類型と対応関係にある。すなわち、土坑A-1類は焼土遺構A-1類に、土坑A-2類は焼土遺構A-2類に、土坑B類は焼土遺構B類に、配置・方位・形状が類似している。なお、A-2類のSK2540からは鉄製品（鉄鏃）が出土し、B類のSK2471からはフイゴ羽口が出土しており、焼土遺構と同様に鉄生産関係の遺構である可能性が高い。ただし、これらの土坑は、検出層位・出土遺物から、A-1類が8世紀第4四半期～9世紀第1四半期以降、A-2類が9世紀第4四半期以降、B類は8世紀第4四半期～10世紀第2四半期と年代幅があり、各類型で時期が異なる。城内区画施設と同時期に存在するのが確実なのは、A-1類であると考えられる。

火葬墓は、117次A区で検出されたSX2599の1基のみである。焼山地区北西部の斜面部で埋設されていた。直径40cm、深さ20cmの円形ピットに赤褐色土器甕が埋設されていた。掘り込み埋土下層には炭化物が意図的に敷き詰められており、埋設された赤褐色土器の内部からは焼骨片が5点発見された。赤褐色土器は9世紀後半～10世紀前半のものと考えられる。放射性炭素年代測定により、①焼骨1点（試料No.1）、②土器内部の炭化物2点（試料No.2・3）、③掘り込み埋土下層の炭化物2点（試料No.4・5）を測定したところ、暦年較正年代値（1σ）で、①が9世紀代、②が9世紀中葉、9世紀後葉、10世紀前半、③が9世紀後葉から10世紀中葉、各試料でばらつきが見られた（別編2第1節参照）。最大公約数をとれば9世紀後葉と考えられるが、①・②が9世紀後半、③が10世紀前半と読み取り、火葬された年代と埋設された年代に時期差をみることも可能である。古代における火葬の実態を考える上で貴重なデータが得られた。

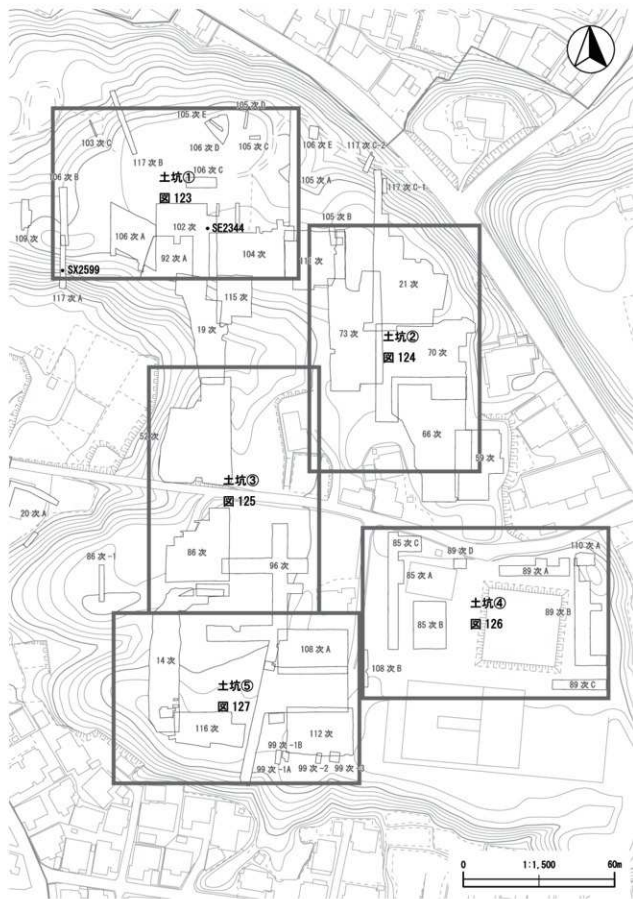


図 122 土坑詳細図の区分け図、井戸跡火葬墓出土位置図

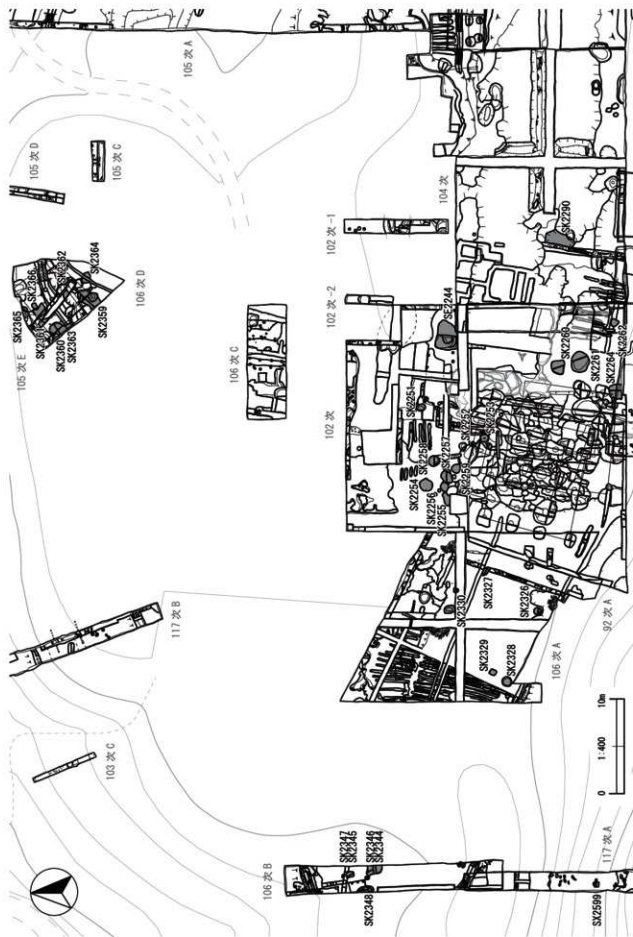


図 123 土坑①



図 124 土坑②

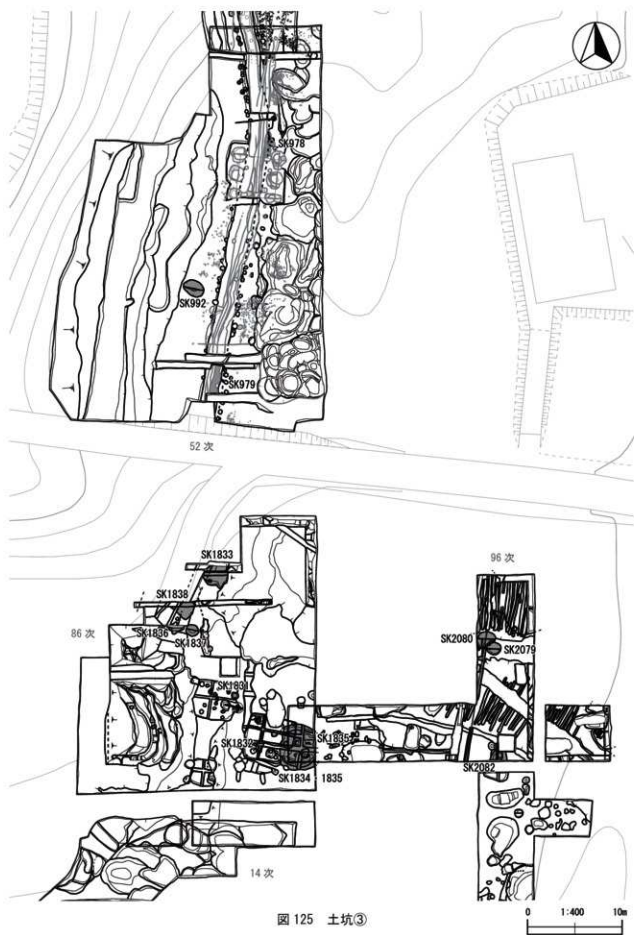


図 125 土坑③



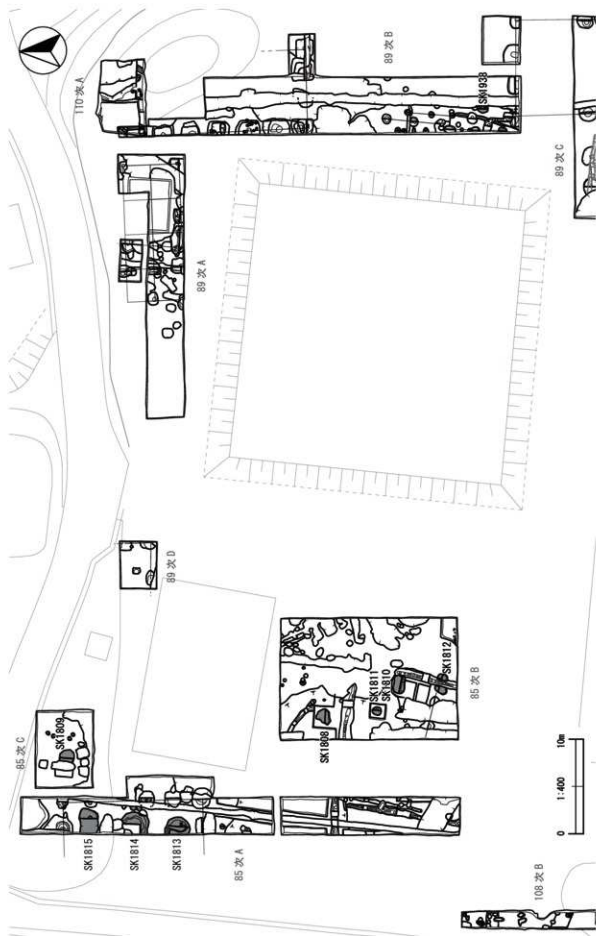


図 126 土坑④

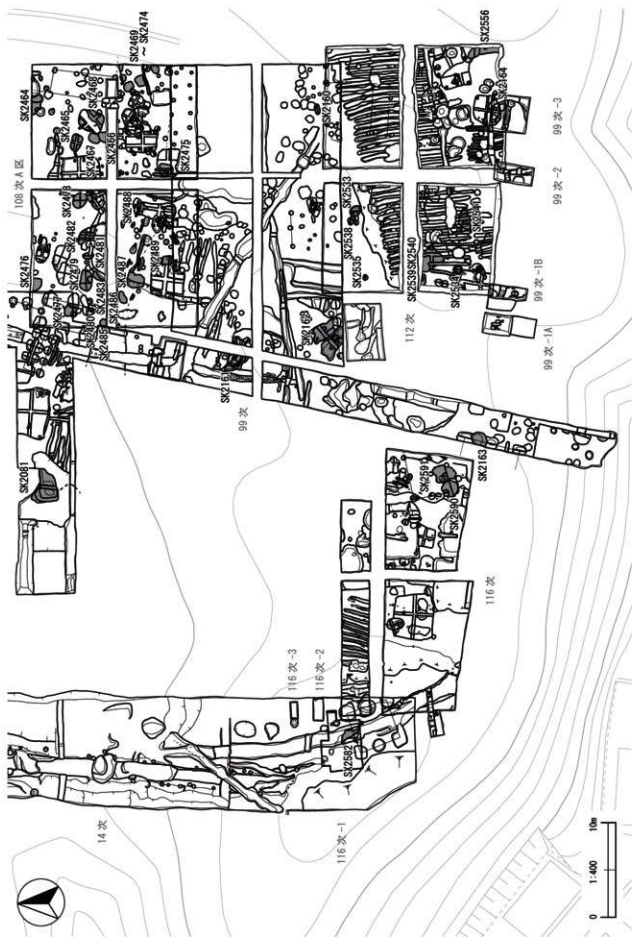


図 127 土坑⑤

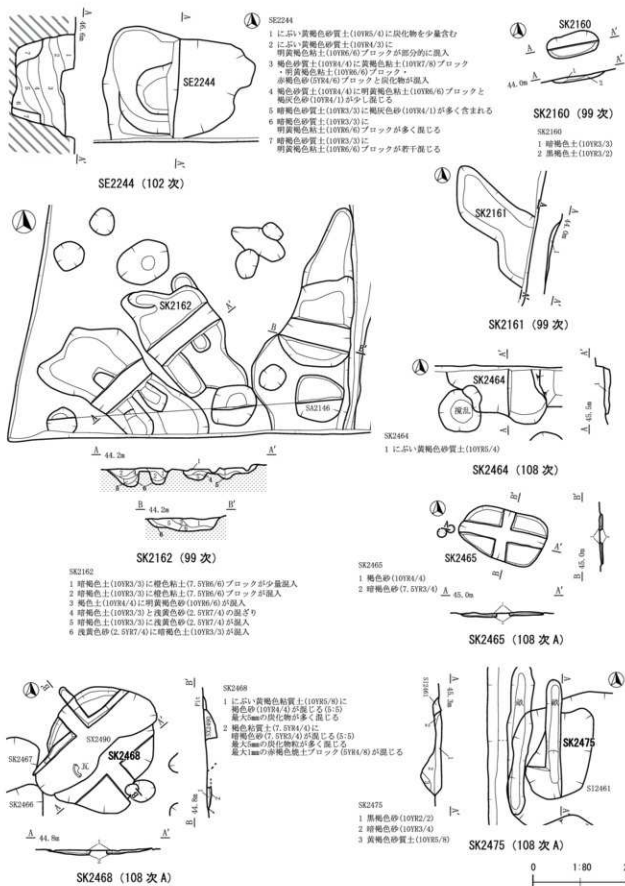


図 128 井戸跡・城内区画施設内土坑①(SE2244 井戸跡、SK2160 ~ 2162, 2464, 2465, 2468, 2475 土坑)

V 古代の検出遺構と出土遺物 (7井戸跡・土坑・火葬墓)

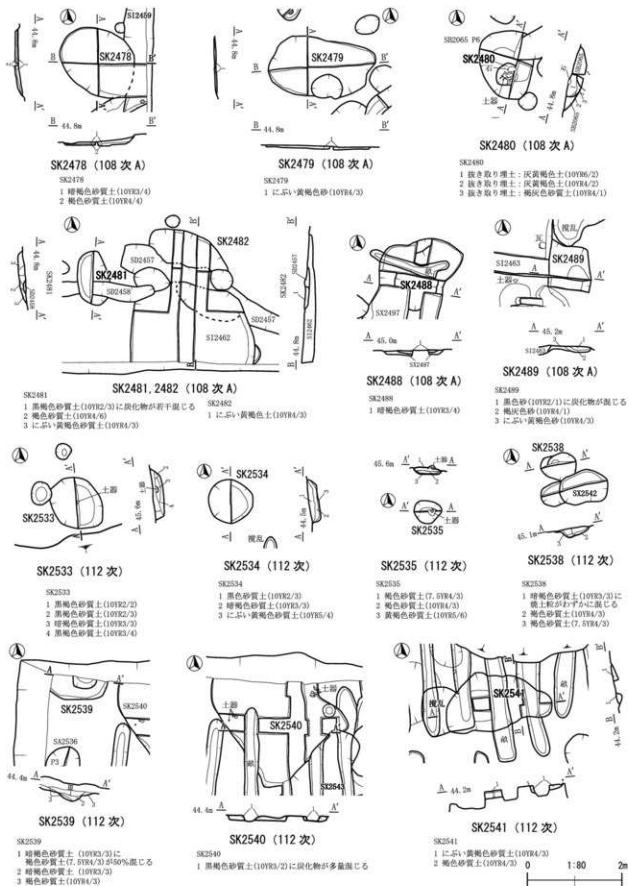


図 129 城内区画施設内土坑②(SK2478 ~ 2482, 2488, 2489, 2533 ~ 2535, 2538 ~ 2541 土坑)

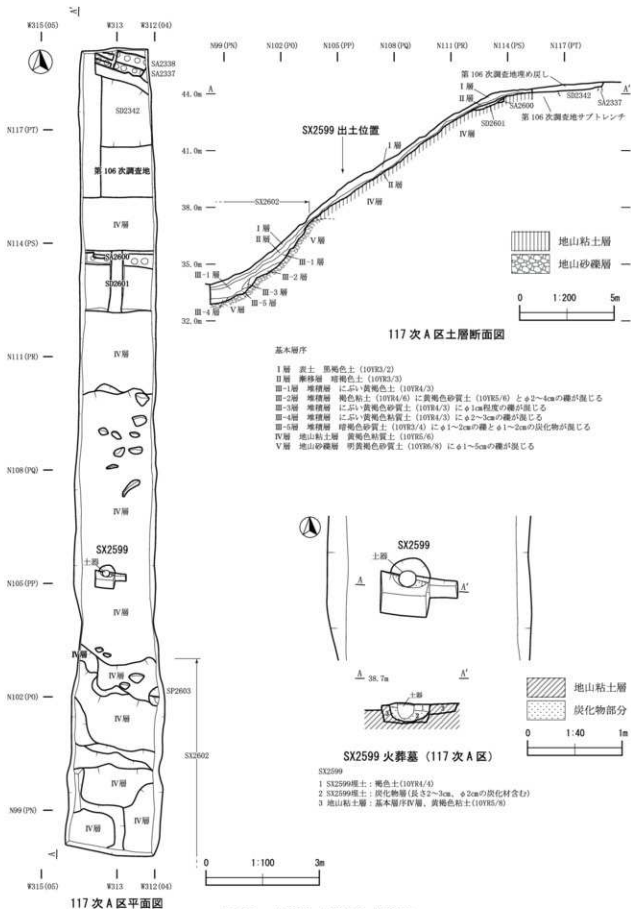


図 130 火葬墓 (SX2599 火葬墓)

## V 古代の検出遺構と出土遺物（7井戸跡・土坑・火葬墓）

表57 井戸跡・土坑・火葬墓遺構属性一覧(1)  
井戸跡

図No.	調査 次数	遺構 番号	種別	位置・ 層位	規模	方位	重複関係	備考	検出層位 の年代	出土遺物 の年代	遺構分類 時期
図28	102	SE2244	井戸跡	V-7層	南北2.1m×東西3.0m,深さ 1.2m,不整形			井筒形状は直径1mの 円形,SF2238・SF2239・ SA2236の延長線上に 位置するため,これらの 遺構より新しい	8C②?	8C後半	8C後半以 降

## 城内区画施設内土坑①

図No.	調査 次数	遺構 番号	種別	位置・ 層位	規模	方位	重複関係	備考	検出層位 の年代	出土遺物 の年代	遺構分類 時期
図28	99	SK2160	土坑	A-1層	長軸11.5cm×短軸9cm,深 さ20cm,楕円形			城内区画施設内土坑	10C② 以降		B層 10C②以降
図28	99	SK2161	土坑	A-1層	東西166cm以上×南北254 cm,深さ9cm,不整形	長軸 N45° W		城内区画施設内土坑, 鉄滓出土	10C② 以降		A-2期 10C②以降
図28	99	SK2162	土坑群	5層	幅50~210cm,深さ5~60 cm,5条の縦長い不整形円 形	長軸 N30° W	SA2146→	城内区画施設内土坑, 埴山粘土を深く掘った 痕跡	9C②		A-2期 9C②以降
図28	108	SK2164	土坑	A区,IV層	長軸2.0m×短軸1.5m,深 さ20cm,不整形			城内区画施設内土坑	8C④~ 9C①	9C③	B層 9C③
図28	108	SK2165	土坑	A区,IV層	長軸1.8m×短軸110cm,深 さ10cm	長軸 W13° N (N13° E)		城内区画施設内土坑	8C④~ 9C①	10C①	B層 10C①
図28	108	SK2168	土坑	A区,IV層	長軸2.9m×短軸1.0m以 上,深さ10cm,不整形	長軸 N42° E	→SK2490	城内区画施設内土坑, 関東系土器出土	8C④~ 9C①	8C末9C 初以降	A-1期 8C④~9C ①以降
図27	108	SK2169	土坑	A区,IV層	長軸0.6m以上×短軸 0.4m,楕円形			城内区画施設内土坑	8C④~ 9C①		B層 8C④~9C ①以降
図27	108	SK2170	土坑	A区,IV層	長軸0.8m×短軸0.6m,い びつな楕円形			城内区画施設内土坑	8C④~ 9C①		B層 8C④~9C ①以降
図27	108	SK2171	土坑	A区,IV層	長軸1.1m×短軸1.0m,不 整形			城内区画施設内土坑, フイゴ割口出土	8C④~ 9C①		B層 8C④~9C ①以降
図27	108	SK2172	土坑	A区,IV層	長軸0.6m以上×短軸 0.4m,楕円形			城内区画施設内土坑	8C④~ 9C①		B層 8C④~9C ①以降
図27	108	SK2173	土坑	A区,IV層	長軸1.1m×短軸1.0m,不 整形			城内区画施設内土坑	8C④~ 9C①		B層 8C④~9C ①以降
図27	108	SK2174	土坑	A区,IV層	長軸1.0m以上×短軸 0.7m,楕円形			城内区画施設内土坑	8C④~ 9C①		B層 8C④~9C ①以降
図28	108	SK2175	土坑	A区,IV層	長軸1.6m×短軸1.0m,不 整形		SD2161→	城内区画施設内土坑	8C④~ 9C①	10C①	B層 10C①
図27	108	SK2176	土坑	A区,IV層	長軸1.3m×短軸80cm以 上,不整形			城内区画施設内土坑	8C④~ 9C①		B層 8C④~9C ①以降
図27	108	SK2177	土坑	A区,IV層	長軸1.3m×短軸1.0m,ゆが んだ円形		→SD2065・ SA2155	城内区画施設内土坑	8C④~ 9C①		B層 9C④以前 (9C②~9C ④の SD2065より 古い)
図29	108	SK2178	土坑	A区,IV層	長軸1.5m×短軸1.4m,深さ 8cm,楕円形		SD2159→	城内区画施設内土坑	8C④~ 9C①	9C③	B層 9C③
図29	108	SK2179	土坑	A区,IV層	長軸2.2m×短軸1.2m,深さ 6cm,楕円形	長軸 W19° N (N19° E)		城内区画施設内土坑	8C④~ 9C①		A-1期 8C④~9C ①以降
図29	108	SK2180	土坑	A区,IV層	直径1.4mのゆがんだ円形, 深さ28cm			城内区画施設内土坑	8C④~ 9C①	9C④	B層 9C④
図29	108	SK2181	土坑	A区,IV層	長軸1.1m×短軸0.7m,深さ 15cm,楕円形		→SD2158	城内区画施設内土坑	8C④~ 9C①	9C④	B層 9C④
図29	108	SK2182	土坑	A区,IV層	長軸1.5m×短軸0.6m,深さ 10cm,縦長い楕円形		SD2162・ SD2157→	城内区画施設内土坑	8C④~ 9C①		B層 8C④~9C ①以降 9C後半半 前9C後半 のSD2162よ り古い

表58 井戸跡・土坑・火葬墓遺構属性一覧(2)  
城内区画施設内土坑②

図No.	調査 次数	遺構 番号	種別	位置・ 層位	規模	方位	重複関係	備考	検出層位 の年代	出土遺物 の年代	遺構分類 時期
図127	108	SK2483	土坑	A区、IV層	長軸1.5m×短軸0.5m、深さ17cm		→SD2458	城内区画施設内土坑	8C①～ 9C①		B層 9C前半～ 9C後半以降の SD2458より 古い
図127	108	SK2484	土坑	A区、IV層	深さ20cm		→SD1459・ SK2478	城内区画施設内土坑、 SD1459カマドの下で検 出、断面で確認	8C①～ 9C①	8C後半	B層 8C①～9C ③以降③以 降のSD1459 より古い
図127	108	SK2485	土坑	A区、IV層	直径70cm以上、円形			城内区画施設内土坑	8C①～ 9C①		B層 8C①～9C ①以降
図127	108	SK2486	土坑	A区、IV層	長軸140cm×短軸70cm、楕 円形			城内区画施設内土坑	8C①～ 9C①		B層 8C①～9C ①以降
図127	108	SK2487	土坑	A区、IV層	長軸180cm×短軸160cm、 ゆがんだ楕円形			城内区画施設内土坑	8C①～ 9C①		B層 8C①～9C ①以降
図129	108	SK2488	土坑	A区、IV層	直径0.8m、深さ8cm、円形			城内区画施設内土坑	8C①～ 9C①		B層
図129	108	SK2489	土坑	A区、V層	一辺0.9m、深さ12cm、方形		→SD2463	城内区画施設内土坑	8C② 以前		B層 9C③以前 9C③の SD2463より 古い
図129	112	SK2533	土坑	III層	直径1m、深さ15cm、ゆがん だ円形			城内区画施設内土坑	10C①	10C①	B層 10C①
図129	112	SK2534	土坑	III層	直径90cm、深さ20cm、円形			城内区画施設内土坑	10C①		B層 9C①～ 10C①
図129	112	SK2535	土坑	III層	直径50cm、深さ10cm、ゆがん だ円形			城内区画施設内土坑	10C①		B層 9C①～ 10C①
図129	112	SK2538	土坑	IV層	直径60cm、深さ18cm、ゆがん だ円形		→SX2542	城内区画施設内土坑	9C④		B層 9C③以降
図129	112	SK2539	土坑	IV層	長軸1.2m以上×短軸50cm 以上、深さ20cm			城内区画施設内土坑	9C④	9C③	B層 9C④
図129	112	SK2540	土坑	IV層	長軸2.7m×短軸2.1m以上、 深さ5～10cm、ゆがんだ 楕円形	長軸 N39° W	→SX2543	城内区画施設内土坑、 炭化物多量に含む、鉄 鏝出土	9C④	9C後半	A-2層 9C④
図129	112	SK2541	土坑	IV層	長軸2.2m×短軸1.2m、深さ 15cm、楕円形	長軸 W16° S (N16° W)		城内区画施設内土坑	9C④	9C④	A-2層 9C④

## 火葬墓

図No.	調査 次数	遺構 番号	種別	位置・ 層位	規模	方位	重複関係	備考	検出層位 の年代	出土遺物 の年代	遺構分類 時期
図130	117A	SX2599	火葬墓	IV層	長径40cm、深さ20cm、円形			赤褐色土器甕が埋設さ れている。掘り方下部10 cmの埋土は炭が敷き詰 められている。土器内部 から骨片が出土	8C② 以前	9C後半～ 10C前半	9C後半～ 10C前半

## その他の土坑①

図No.	調査 次数	遺構 番号	種別	位置・ 層位	規模	方位	重複関係	備考	検出層位 の年代	出土遺物 の年代	遺構分類 時期
図125	52	SK978	土坑(掘 り方状 遺構)	4層	不整形、深さ0.6～1m		→SA975		8C①～ 9C①		8C①～9C ①以降
図125	52	SK979	土坑(掘 り方状 遺構)	4層	不整形、深さ0.6～1m		→SA975		8C①～ 9C①		8C①～9C ①以降
図125	52	SK992	土坑	4層	東西2m、南北1.5m、楕円形				8C①～ 9C①		8C①～9C ①以降
図124	66	SK1461	土坑	4層	長軸1.4m×短軸1.1m×深 さ10cm、不整形			底面に小掘り方を伴う	8C② 以前		8C①～9C ①以降
図124	66	SK1462	土坑	3層	長軸3.0m×短軸0.7～ 1.5m×深さ25cm、不整形		→SB1449		8C② 以前		8C①～9C ①以降
図124	66	SK1463	土坑	4層	直径35cm、深さ20cm、円形				8C② 以前		8C①～9C ①以降
図121	70	SK1519	土坑	5層	長軸5.2m×短軸2.6m、深さ 90cm、楕円形		SK1525→	赤褐色土器片出土	8C② 以前	縄文	9C以降

## V 古代の検出遺構と出土遺物 (7井戸跡・土坑・火葬墓)

表59 井戸跡・土坑・火葬墓遺構属性一覧(3)  
その他の土坑②

図No.	調査 次数	遺構 番号	種別	位置・ 層位	規模	方位	重複関係	備考	検出層位 の年代	出土遺物 の年代	遺構分類 時期
図124	70	SK1520	土坑	5層	東西1.5m×南北3.5m,深さ 60cm,隅丸方形		SK1525→		8C② 以前	縄文・ 弥生	
図124	70	SK1521	土坑	3層	長軸130cm×短軸90cm,深 さ55cm,楕円形				8C② 以前		
図124	70	SK1522	土坑	4層	長軸2.5m×短軸2.0m,深さ 20cm,南半削平されている		→SB1451		8C② 以前		8C代 (8C①~9C ①以降の SB1451より 古い)
図124	70	SK1523	土坑	4層	長軸2.0m×短軸1.1m,深さ 30cm,歪んだ楕円形				8C② 以前		
図124	70	SK1524	土坑	4~5層	長軸5.4m×短軸3.6m,深さ 1.1m,楕円形,南側一部削 平				8C② 以前	9C①	9C①
図124	73	SK1637	土坑	5層	長軸2.4m×短軸1.2m,深さ 10cm,楕円形				8C② 以前		
図124	73	SK1638	土坑	5層	長軸3.0m×短軸0.9m,深さ 48cm,瓢箪形				8C② 以前		
図124	73	SK1639	土坑	5層	長軸2.6m×短軸1.4m,深さ 14cm,楕円形				8C② 以前		
図124	73	SK1641	土坑	3層	長軸2.5m×短軸0.9m,深さ 20cm,不整形楕円形				9C①		9C①以降
図124	73	SK1642	土坑	3層	長軸0.9m×短軸0.65m,深 さ30cm,楕円形			漆器(面物の漆容器の 銅板に付着したもの)の出 土	9C①		9C①以降
図124	73	SK1643	土坑	3層	長軸1.5m×短軸0.4cm,深さ 50cm,楕円形				9C①		9C①以降
図126	85	SK1808	土坑	B区,6層	東西1.6m×南北1.5m,深さ 25cm,不整形		SD1805→	15葉細弁蓮華文軒丸瓦 出土	8C①~ 9C①	8C末・ 9C初	8C末・9C 初以降
図126	85	SK1809	土坑	C区,7層	東西1.4m以上×南北 1.6m,深さ20cm,隅丸方形		→SA1800		8C②?		8C代(8C 代の SA1800より 古い)
図126	85	SK1810	土坑	B区, SI1807 上面	長軸2.0m×短軸1.2m,深さ 25cm,楕円形		SI1807→ →SA1801		9C① 以降	9C前半	9C前半 (8C①の SI1807より 新しい)
図126	85	SK1811	土坑	6層	長軸95cm×短軸85cm,深さ 30cm,ゆがんだ楕円形				8C①~ 9C①		8C①~9C ①以降
図126	85	SK1812	土坑	6~9層	長軸2.0m×短軸1.2m,深さ 30cm,ゆがんだ楕円形				8C①~ 9C①		8C①~9C ①以降
図126	85	SK1813	土坑	7層	東西1.8m以上×南北 2.7m,深さ70cm,ややゆがん だ円形				8C②?		8C代カ
図126	85	SK1814	土坑	7層	東西2.3m以上×南北 2.9m,深さ80cm,ややゆがん だ円形			SB1798と重複するが新 旧関係不明	8C②?		8C代カ
図126	85	SK1815	土坑	8層	東西2.5m以上,南北2.0m, 深さ20cm,ややゆがんだ方 形			SB1798と重複するが新 旧関係不明	8C② 以前		8C代カ
図125	86	SK1831	土坑		長軸120cm×短軸95cm,深 さ28cm,ゆがんだ楕円形		SI1825→ →SA1819				9C②以降 (8C①の SI1825より 新しい)
図125	86	SK1832	土坑		直径1.0m,深さ15cm,やや ゆがんだ円形		SI1826→				9C②以降 (8C①~9C ①のSI1826 より新しい)
図123	86	SK1833	土坑	6層	東西2.6m以上×南北2.8m 以上,深さ15cm,不整形				9C①~ 10C①		9C後半 以降
図125	86	SK1834	土坑	7層	東西4.0m以上×南北 4.5m,深さ90cm,円形		SI1826・ SK1835→ →SI1824・ SK1841		8C末 以降	9C②	9C②
図125	86	SK1835	土坑		東西3.6m以上×南北 3.9m,深さ1.5m以上,円形		→SI1824・ SI1826・ SK1834			8C②~③	8C②~③
図125	86	SK1836	土坑	11層	東西1.3~1.8m×南北 7.8m以上,深さ1.0m以上		SA1817→		8C② 以前		8C②カ



表60 井戸跡・土坑・火葬墓遺構属性一覧(4)  
その他の土坑③

図No.	調査 次数	遺構 番号	種別	位置・ 層位	規模	方位	重複関係	備考	検出層位 の年代	出土遺物 の年代	遺構分類 時期
図125	86	SK1837	土坑	7層	直径1.3m,深さ45cm,円形		SA1817→		8C末 以降		10C②9C ③以降の SA1817より 新しい)
図125	86	SK1838	土坑	7層	東西2.7m以上×南北3.6m 以上,深さ60cm,不整形		SA1817・ SA1818・ SK1836→		8C末 以降		10C代a 9C③以降 のSA1817 より新しい)
図126	89	SK1938	土坑	B区,6層	東西2.3m×南北2.1m,深さ 60cm,ややゆがんだ円形				9C④		9C④以降
図125	96	SK2079	土坑	12層	東西1.45m×南北1.3m,深さ 16cm,ゆがんだ楕円形		SK2080→		8C② 以前	9C前半	9C前半
図125	96	SK2080	土坑	12層	直径1.8m,深さ60cm,円形		→SK2079		8C② 以前	9C前半	9C前半
図127	96	SK2081	土坑	8-9層	東西3.6m×南北2.9m,深さ 80cm,不整形			廢棄土坑	9C①	9C①	9C①
図125	96	SK2082	土坑	12層	東西1.8m×南北1.9m,深さ 16~26cm		→SK2073		8C② 以前		9C④以前 9C④の SK2073より 古い)
図127	99	SK2163	土坑	7層	東西130cm以上×南北180 cm,深さ55cm,ゆがんだ円形				8C代	9C②	9C②
図127	99	SK2164	土坑	第3紀,7層	東西35cm×南北36cm以上, 深さ35cm,ゆがんだ円形				8C代	9C③	9C③
図123	102	SK2251	土坑	V-5層	東西0.7m×南北1.0m,深さ 50cm,楕円形				8C①~ 9C①		8C①~9C ①以降
図123	102	SK2252	土坑	V-5層	東西0.4m×南北0.4m,楕 円形		SB1991・ SB1987→		8C①~ 9C①		8C①~9C ①以降
図123	102	SK2253	土坑	V-5層	東西0.7m×南北0.9m,不 整形円形		SB1986・ SB1989・ SB1989→		8C①~ 9C①		8C①~9C ①以降
図123	102	SK2254	土坑	V-2-① 層	東西1.3m×南北1.4m,不 整形円形				9C①~ 10C①		9C①~ 10C①以降
図123	102	SK2255	土坑	V-2-① 層	東西1.5m×南北0.8m,不 整形楕円形				9C①~ 10C①		9C①~ 10C①以降
図123	102	SK2256	土坑	V-2-① 層	東西1.0m×南北0.9m以 上,不整形円形				9C①~ 10C①		9C①~ 10C①以降
図123	102	SK2257	土坑	V-2-① 層	東西1.2m×南北1.1m,深さ 30cm,楕円形		SB1987→		9C①~ 10C①		9C①~ 10C①以降
図123	102	SK2258	土坑	V-2-① 層	東西1.1m×南北1.1m,深さ 26cm,円形		SA2235→		9C①~ 10C①		9C①~ 10C①以降
図123	102	SK2259	土坑	V-5層	東西1.0m×南北0.9m,不 整形円形				8C①~ 9C①		8C①~9C ①以降
図123	102	SK2260	土坑	V1層	東西1.5m×南北1.4m,深さ 20cm,不整形円形				8C② 以前	9C	9C以降
図123	102	SK2261	土坑	V1層	東西2.1m×南北2.0m,深さ 40cm,不整形円形				8C② 以前		
図123	102	SK2262	土坑	V1層	東西0.8m×南北0.8m,不 整形円形		SD2241→		8C② 以前		
図123	102	SK2264	土坑	V1層	東西1.6m×南北1.3m以 上,深さ20cm,不整形円形		SB1988→		8C② 以前	8C代	8C以降
図123	104	SK2290	土坑	Ⅲ-2-①・ ②層	東西1.5m以上×南北3.0m 以上,深さ50cm,不整形円形		→SA2278・ SG2287		9C ③~④	9C代	9C後半以 降
図123	106A	SK2326	土坑	Ⅲ層	直径80cm,深さ30cm,円形		SX2331→		8C①~ 9C前半		8C①以降
図123	106A	SK2327	土坑	Ⅲ層	長軸90cm×短軸50cm,深さ 15cm,楕円形		SD2319・ SX2331→		8C①~ 9C前半		8C①以降
図123	106A	SK2328	土坑	IV-2層	直径80cm,深さ10cm,円形		SD2322B・ SX2332→		8C②?		8C②以降
図123	106A	SK2329	土坑	IV-3層	直径2.2m,深さ45cm		→SX2333		8C②?		8C②以降
図123	106A	SK2330	土坑	Ⅲ層	長軸60cm,短軸30cm				8C①~ 9C前半		8C①以降
図123	106B	SK2341	土坑	IV-1層	長軸1.7m×短軸0.9m以 上,深さ10cm		SX2349→		8C②?		8C②以降
図123	106B	SK2345	土坑	IV-1層	長軸90cm×短軸60cm,深さ 5cm		SD2339・ SX2349→		8C②?		8C②以降
図123	106B	SK2346	土坑	IV-1層	長軸50cm×短軸30cm,深さ 10cm		SX2349→		8C②?		8C②以降
図123	106B	SK2347	土坑	IV-2層	長軸30cm×短軸20cm,深さ 5cm		SD2339・ SX2349→		8C②?		8C②以降

V 古代の検出遺構と出土遺物（7井戸跡・土坑・火葬墓）

表61 井戸跡・土坑・火葬墓遺構属性一覧（5）  
その他の土坑④

図No.	調査 次数	遺構 番号	種別	位置・ 層位	規模	方位	重複関係	備考	検出層位 の年代	出土遺物 の年代	遺構分類 時期
図123	106B	SK2348	土坑	IV-1層	長軸1.5m×短軸50cm以上、深さ15cm		SX2349→ →S2343		8C②?		8C②以降
図123	106D	SK2359	土坑	V層	長軸2.4m以上×短軸1.5m、深さ15～25cm、楕円形		→SB2356・ SA2358		8C② 以前		
図123	106D	SK2360	土坑	IV-1-① 層	直径1.5m、深さ25cm、ふんだ円形		→SB2357		9C前半		9C前半以降
図123	106D	SK2361	土坑	V層	直径90cm以上、深さ50cm以上			105次E区でIV-1-①層としていたもの	8C② 以前		
図123	106D	SK2362 (SX2316)	土坑	IV-4-② 層	直径2m、深さ60cm以上		SF2315→ →SA2313	105次E区でSX2316としたもの、106次E区の調査時に新たに番号付与	8C②?		8C後半以降 9C前半 9C2315 より古い
図123	106D	SK2363	土坑	IV-1-① 層	直径60cm以上、ゆがんだ円形		SA2313・ SA2314・ SK2360→		9C前半		9C前半以降
図123	106D	SK2364	土坑	IV-1-① 層	長軸1m×短軸90cm、隅丸方形				9C前半		9C前半以降
図123	106D	SK2365	土坑	IV-1-① 層	長軸1.3m×短軸80cm、不整形		→SB2357		9C前半		9C前半以降
図123	106D	SK2366	土坑	IV-1-① 層	長軸70cm×短軸50cm、不整形				9C前半		9C前半以降
図127	108	SK2466	土坑	A区、IV層	長軸1.5m×短軸1.0m、楕円形		SK2467→ →SK2490		8C④～ 9C①		9C後半以前 9C後半 のSK2490 より古い
図127	108	SK2467	土坑	A区、IV層	長軸1.2m×短軸1.0m、楕円形		→SK2466・ SK2490		8C④～ 9C①		9C後半以前 9C後半 のSK2490 より古い
図124	111	SK2513	土坑	Ⅲ層	長軸2m以上×短軸1m以上、深さ20cm、楕円形				10C以降	9C代	10C以降
図124	111	SK2514	土坑	Ⅲ層	長軸2.2m以上×短軸1.5m、深さ20cm、楕円形		SD2527→		10C以降	9C代	10C以降
図124	111	SK2515	土坑	Ⅲ層	直径1.2m、深さ10cm、円形		SD2527→		10C以降		10C以降
図124	111	SK2516	土坑	Ⅲ層	長軸60cm以上×短軸70cm、楕円形				10C以降		10C以降
図124	111	SK2517	土坑	Ⅲ層	長軸2m×短軸1.2m以上、深さ10cm、不整形		SK2519→		10C以降		10C以降
図124	111	SK2518	土坑	Ⅲ層	長軸4m以上×短軸2.6m以上、深さ15cm、不整形		SB1625・ SK2520→		10C以降	9C代	10C以降
図124	111	SK2519	土坑	Ⅲ層	直径1.1m、深さ10cm、円形		→SK2517		10C以降		10C以降
図124	111	SK2520	土坑	Ⅲ層	長軸1.8m以上×短軸1m以上、深さ10cm以上、不整形		→SK2518		10C以降	9C②	10C以降
図124	111	SKP 2524	七坑 (柱掘り 方)	V-1層	南北1.0m×東西1.7m、深さ25cm、楕円形		SD2532→ →SX2521・ SKP2525	SKP2525と同時期	8C④～ 9C①		8C④～9C ①以降
図124	111	SKP 2525	七坑 (柱掘り 方)	V-1層	南北1.0m×東西1.1m以上、深さ10cm、楕円形		SD2532・ SKP2525→ →SX2521	SKP2524と同時期	8C④～ 9C①		8C④～9C ①以降
図124	111	SK2530	土坑	V-1層	直径1.0m、深さ15cm、円形		SK2531→	埋土に炭化物が認め	8C④～ 9C①	9C代	9C代
図124	111	SK2531	土坑	V-1層	長軸2.5m×短軸1.6m以上、深さ20cm、楕円形		→SK2530	埋土に炭化物が認め	8C④～ 9C①	8C②	8C④～9C ①以降
図127	112	SX2556	土坑 (不整形 遺構)	V層	長軸3.9m以上×短軸0.6m以上、深さ15cm、不整形		SD2548→		8C④	10C①	10C①以降
図127	116	SX2582	十坑(圓 り方状 遺構)	IV-1層	長軸2.2m×短軸85cm、深さ50cm、全体形状不明	長軸N30° W	SF2583→ →SA2580	粘土と砂を交互に敷層、掘り込み事業か	8C末～ 9C①以降		8C末～9C ①以降
図127	116	SK2590	土坑	V層	直径1.8m、深さ20cm、ゆがんだ円形		→SK2591	切り合い再検討 SK2590→SK2591	8C前半?	9C②	9C②
図127	116	SK2591	土坑	V層	長軸2.2m×短軸1.8m、深さ16cm、不整形		SX2598・ SK2590→	鉄器出土、炭素土坑の、中央に炭化物集中と粘土部分が見られる、切り合い関係再検討、SK2590→SK2591に修正	8C前半?	9C④～ 10C①	9C④～ 10C①

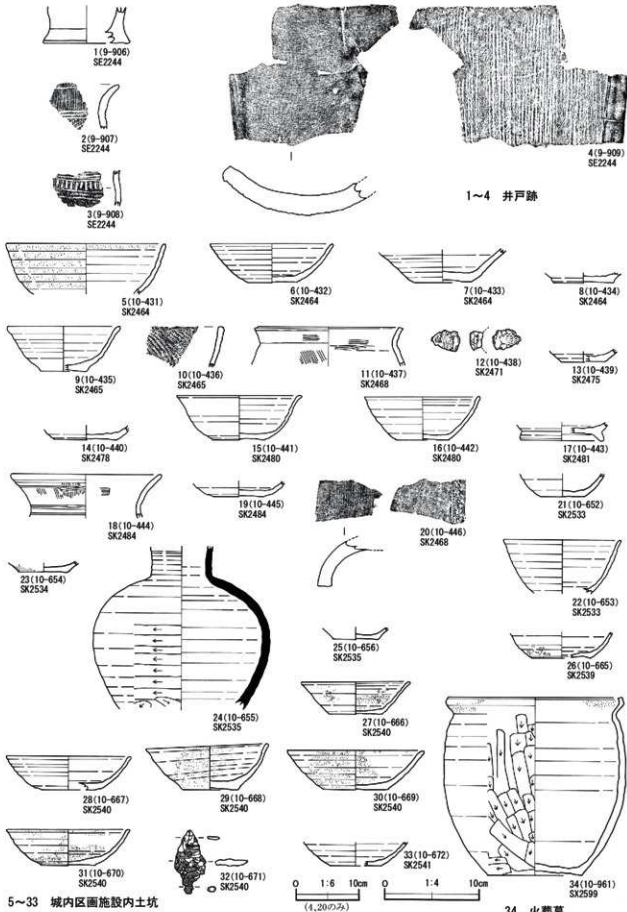


図131 井戸跡・土坑・火葬墓出土遺物

34 火葬墓

V 古代の検出遺構と出土遺物（7井戸跡・土坑・火葬墓）

表62 井戸跡・土坑・火葬墓出土遺物一覧  
井戸跡

図版番号	次数	遺物番号	種別	器種	出土地点・層位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	調整技法等	時期
図131-1	102	9-906	赤生土器	甕	SE2244埋土	-	-	9.0	底部立ち上がりが外に張り出す	弥生時代
図131-2	102	9-907	赤生土器	甕	SE2244埋土	-	-	-	奥形、外面は口縁部端部1条・頸部3条の横走沈線、頸部縦方向のハケ目調整、体部上半横文LR	弥生中期 中華
図131-3	102	9-908	赤生土器	甕	SE2244埋土	-	-	-	奥形、上部と下部に4条の横走沈線、その間に縦方向の沈線	後期初頭
図131-4	102	9-909	瓦	平瓦	SE2244埋土	-	-	-	一枚作の凸面横目印キ痕、凹面布目圧痕と糸切の痕、焼成良好、緑質、灰色、凸面に砂粒が立立つ	2群

城内区画施設内土坑

図版番号	次数	遺物番号	種別	器種	出土地点・層位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	調整技法等	時期
	99	9-715	鉄滓		SK2161					
図131-5	108	10-131	赤褐色土器	PEA	SK2464埋土	17.0	-	-	二次的被熱痕	
図131-6	108	10-132	赤褐色土器	PEA	SK2464埋土	13.2	4.1	5.3	底部糸切の	9C③
図131-7	108	10-133	赤褐色土器	PEA	SK2464埋土	-	-	6.2	底部糸切の	9C③
図131-8	108	10-134	赤褐色土器	PEA	SK2464埋土	-	-	6.4	底部糸切の	9C③
図131-9	108	10-135	赤褐色土器	PEA	SK2465埋土	12.0	4.8	5.0	底部糸切の	10C①
図131-10	108	10-136	縄文土器	深鉢	SK2465埋土	-	-	-	粗製深鉢、横文LR	縄文
図131-11	108	10-137	土師器	甕	SK2468埋土	15.8	-	-	関東系A、体部内外面ハケ目調整	10C①
図131-12	108	10-138	土製品	フイゴ 羽口	SK2471埋土	-	-	-		
図131-13	108	10-139	赤褐色土器	PEA	SK2475埋土	-	-	4.6	底部糸切の	10C①
図131-14	108	10-140	赤褐色土器	PEA	SK2478埋土	-	-	6.6	底部糸切の	9C③
図131-15	108	10-141	赤褐色土器	PEA	SK2480埋土	13.3	4.7	5.4	底部糸切の、二次的被熱痕	9C④
図131-16	108	10-142	赤褐色土器	PEA	SK2480埋土	12.4	4.6	5.6	底部糸切の	9C④
図131-17	108	10-143	赤褐色土器	台付皿	SK2481埋土	-	-	高台 8.8	底部糸切の後、高台取り付け	9C④
図131-18	108	10-144	土師器	甕	SK2484埋土	16.0	-	-	多重沈線、頸部縦方向のハケ目調整後、横走沈線	8C後半
図131-19	108	10-145	赤褐色土器	PEA	SK2484埋土	-	-	5.4	底部糸切の、二次的被熱痕	9C④以降
図131-20	108	10-146	瓦	丸瓦	SK2468埋土	-	-	-	凸面横目印キ痕、ナデ調整、凹面布目圧痕、分割沈線あり、焼成やや不良、軟質、棕色	4-1群
図131-21	112	10-652	赤褐色土器	PEA	SK2533埋土	-	-	4.6	底部糸切の、二次的被熱痕	10C①
図131-22	112	10-653	赤褐色土器	PEA	SK2533埋土	12.6	-	-	二次的被熱痕	10C①
図131-23	112	10-654	赤褐色土器	PEA	SK2534埋土	-	-	5.2	底部糸切の、二次的被熱痕	9C④～10C①
図131-24	112	10-655	銅惠器	長頸蓋	SK2535埋土	-	-	-	体部中央から下半にかけてヘラクスリ調整、体部下半に手持シヤタクスリ調整	
図131-25	112	10-656	赤褐色土器	PEA	SK2535埋土	-	-	4.8	底部糸切の	10C①
図131-26	112	10-665	赤褐色土器	PEA	SK2539埋土	-	2.6	6.2	底部糸切の	9C③
図131-27	112	10-666	赤褐色土器	PEA	SK2540埋土	11.6	3.4	5.6	底部糸切の、二次的被熱痕	9C④
図131-28	112	10-667	赤褐色土器	PEA	SK2540埋土	13.2	3.6	5.6	底部糸切の	9C④
図131-29	112	10-668	赤褐色土器	PEA	SK2540埋土	13.0	4.4	5.9	底部糸切の	9C④
図131-30	112	10-669	赤褐色土器	PEA	SK2540埋土	14.5	4.2	7.0	底部糸切の、二次的被熱痕	9C④
図131-31	112	10-670	赤褐色土器	PEA	SK2540埋土	13.0	3.8	5.8	底部糸切の後外周部にナデ調整、二次的被熱痕	9C④
図131-32	112	10-671	鉄製品	鉄鏃	SK2540埋土	-	-	-	基部に基本形の茎先垂きつけた痕跡	
図131-33	112	10-672	赤褐色土器	PEA	SK2541埋土	-	-	5.4	底部糸切の	9C④

火葬墓

図版番号	次数	遺物番号	種別	器種	出土地点・層位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	調整技法等	時期
図131-34	117A	10-961	赤褐色土器	甕	A区、SN2509	18.4	19.0	10.0	平底小型、底部ナデ調整のため、切り離し不明、体部外面縦方向のヘラクスリ、内部から骨片出土	9C後半～10C前半

## 第8節 土取り穴（図132～135、表63～65）

粘土採掘を目的とした土坑である。遺構略記号ではSKとSGが混在するが、どちらも同じ性格をもつものである。土取り穴は、第7節で扱った土坑よりも大きく、地山粘土層を掘り込んでおり底面は起伏があり、さらに複数の掘り込みが重複し大きな土取り穴を形成している場合もある。

このような土取り穴は、14次、52次、70次、73次、86次、96次、102次、106次A・C区、117次B区で51基検出されており、基本的には外郭線の周辺に配置されている。本節では図132～134に平面図を示し、大部分の断面図および出土遺物は割愛した。ただし、SK984（52次）については、52次基本層序の5層焼土炭化物層を埋土に含み、年代比定となる遺物が出土しているため、遺物については提示した。断面図については52次調査の関係図面として、図58に提示している。

土取り穴は、築地塼の粘土を採掘するためのものであると考えられる。実際に、土取り穴を掘るときに用いられた工具の痕跡が観察されたものがある。工具痕が観察された土取り穴は、SK984土取り穴（52次）、SK1631～1640（73次）などで、土取り穴壁面に幅20cm程度のU字状の工具痕が残されていた。

基本的には外郭施設1類の築地塼を構築する際に掘られた穴が大半であると考えられ、遺物がほとんど出土しないことが多い。しかし、中には埋土から8世紀後半～10世紀代までの土器が出土する場合もあり、これらについては築地塼構築時に掘られ、すぐには埋め戻さず開口したままであったのか、それとも埋土出土の遺物が示す年代に構築されたものかどうかは、判断が難しい。必ずしも土取り穴をすぐに埋め立てていない一例として、SG2245（102次）がある。SG2245は外郭西門北側に広がる土取り穴であり、外郭線に近い東側は創建期段階ですぐに埋め立ててしまうが、西側は9世紀第4四半期になって埋め立てられていることが出土土器の年代から推定されている。これは外郭西門が建て替えられ、創建期段階より西側に配置されるようになるのに合わせて埋め立てているようである。

土取り穴の出土遺物には、SK1631（73次）の中～下層から出土した漆蓋紙（30号漆紙文書、別編4第1節参照）を伴う須恵器杯を転用した漆容器がある（図136-8）。

また、SK984（52次）は、埋土に焼土炭化物が堆積しており、これは52次調査地点の5層焼土炭化物層と同等のものと考えられる。SK984出土遺物は、下層の覆土からは8世紀第2四半期の遺物（図135-14）が出土し、埋土中位の焼土炭化物層からは8世紀第2四半期の遺物も出土するもの（同図-1・4・6～9）、8世紀第4四半期～9世紀第1四半期の土師器杯（同図-2）や8世紀第4四半期の須恵器蓋（同図10）が出土する。これらのことから、SK984の焼土炭化物層は、8世紀第4四半期～9世紀第1四半期の堆積層と考えられる、52次調査地の5層焼土炭化物層もこの時期であると考えられる。

なお、52次調査5層の焼土炭化物層から出土した炭化物（炭化材）3点を年代測定したところ、1点（試料No.12）は、較正年代で7世紀後葉と8世紀中葉、2点（試料No.13・14）は、7世紀中葉の値を示している（別編2第1節参照）。いずれも、土器の年代よりも古い年代が出されているが、測定した炭化物の古木効果を考えてと矛盾はせず、むしろ、52次調査5層焼土炭化物層は、元慶の乱（878）に由来するものではないことが、出土遺物の年代と放射性炭素年代で示されたといえるだろう。

V 古代の検出遺構と出土遺物 (8土取り穴)

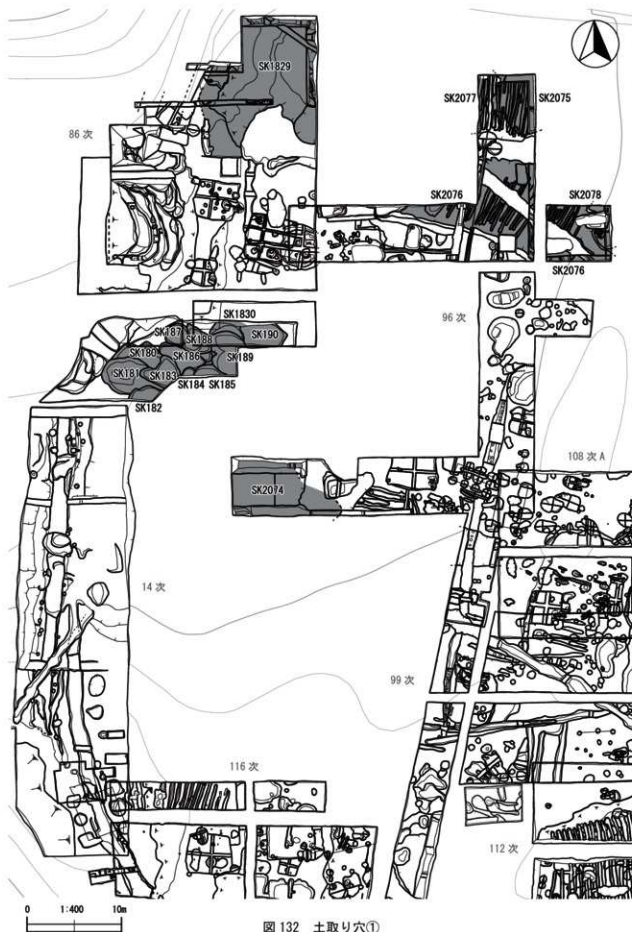


図 132 土取り穴①

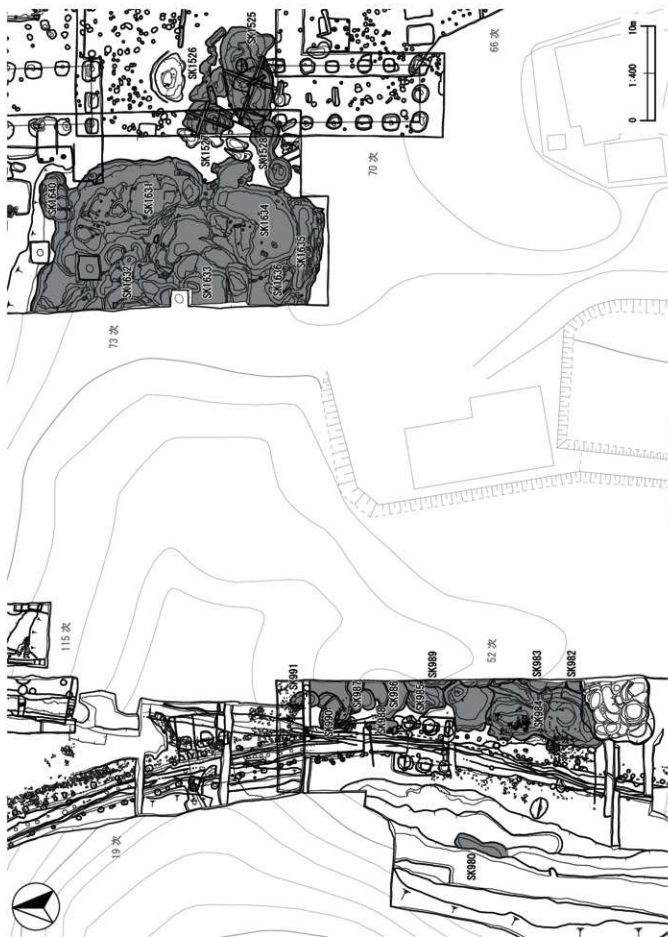


図 133 土取り穴②

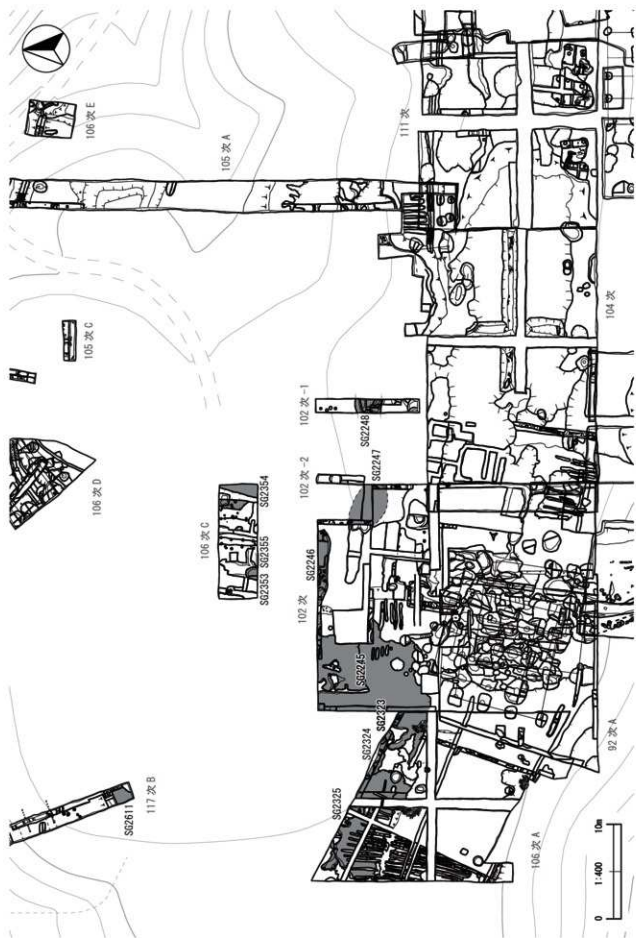


図 134 土取り穴③



表63 古代土取り穴遺構属性一覧(1)

図No.	調査 次数	遺構 番号	種別	位置・ 層位	規模	重複関係	備考	検出層位 の年代	出土遺物 の年代	遺構分類 時期
図132	14	SK180	土取り穴		東西5m以上,南北3m以上,楕円形		S49概観でグループC	8C②	8C②	
図132	14	SK181	土取り穴		東西6m以上,南北4m以上,楕円形		S49概観でグループC	8C②	8C②	
図132	14	SK182	土取り穴		東西3m以上,南北1.5m以上,楕円形		S49概観でグループC	8C②	8C②	
図132	14	SK183	土取り穴		東西4m以上,南北3m以上,不整楕円形		S49概観でグループC	8C②	8C②	
図132	14	SK184	土取り穴		東西1m以上,南北1m以上,円形		S49概観でグループC	8C②	8C②	
図132	14	SK185	土取り穴		東西4m以上,南北1m以上,楕円形		S49概観でグループB	8C②~ 10C②・③	8C②~10C ②・③	
図132	14	SK186	土取り穴		東西5m以上,南北3m以上,不整楕円形		S49概観でグループB	8C②~ 10C②・③	8C②~10C ②・③	
図132	14	SK187	土取り穴		東西2.5m,南北2m,円形		S49概観でグループB	8C②~ 10C②・③	8C②~10C ②・③	
図132	14	SK188	土取り穴		東西3m以上,南北4m		S49概観でグループB	8C②~ 10C②・③	8C②~10C ②・③	
図132	14	SK189	土取り穴		東西4m,南北4m,不整円形		S49概観でグループB	8C②~ 10C②・③	8C②~10C ②・③	
図132	14	SK190	土取り穴		東西8m,南北4m以上,楕円形		S49概観でグループB	8C②~ 10C②・③	8C②~10C ②・③	
図133	52	SK980	土取り穴	4層	直径3~4mの円形の土取り穴が3~4層連続	->SD976	SD976溝跡の東,低部位で検出	8C①~ 9C前半		8C④以降
図133	52	SK982	土取り穴		東西1.2m以上,南北1.5m,深さ70cm,不整円形					
図133	52	SK983	土取り穴		東西1.2m以上,南北5.3m,深さ0.8m,不整楕円形					
図57・58・133	52	SK984	土取り穴	7層	東西6m,南北16m,深さ1~1.8m,不整楕円形		瓦片含まず,後土炭化物層(52次5層)堆積,その上層に粘土質地,壁面・底面に工具痕あり,鉄線出土	8C②??	8C②~ 9C①	8C②以降
図57・133	52	SK985	土取り穴	7層	東西5m以上,南北9m,深さ0.5m,不整楕円形		瓦片含まず,上層に粘土質地	8C②??		8C②以降
図133	52	SK986	土取り穴	7層	東西4m以上,南北3m,深さ0.5m,不整円形		瓦片含まず,上層に粘土質地	8C②??		8C②以降
図57	52	SK987	土取り穴		東西5m以上,南北10m以上,深さ0.7m,不整楕円形					
図57・133	52	SK988	土取り穴		東西1m,南北3m,不整楕円形					
図133	52	SK989	土取り穴		東西1m以上,南北3m,不整楕円形					
図133	52	SK990	土取り穴	7層	東西4m,南北3m,不整円形		瓦片含まず,上層に粘土質地	8C②??		8C②以降
図133	52	SK991	土取り穴		東西1.5m,南北3m,楕円形					
図133	70	SK1525	土取り穴	3~5層	長軸11m×短軸5m,深さ2.1m,楕円形	->SK1520		8C② 以前		
図133	70	SK1526	土取り穴	3~5層	東西6.0×南北3.9m,深さ55cm,不整形			8C② 以前	8C②	8C②
図133	70	SK1527	土取り穴	5層	長軸5.0m×短軸1.4m,深さ1.0m,楕円形			8C② 以前		
図133	70	SK1528	土取り穴	5層	長軸4.3m×短軸1.1m,深さ1.0mの橢圓形,長軸3.2m×短軸2.6m,深さ1.2mの楕円形		73次で再検出,規模確定	8C② 以前		
図133	73	SK1631	土取り穴	5層	SK1631~1636,1640は一連の土取り穴,全体で東西16m以上,南北30m,深さ0.4~1.8m		30号漆紙文書出土,埋土上層と中・下位層出土に分けられている,壁面に幅20cmの跡の工具痕	8C② 以前	8C後半~ 9C④(8C 後半多4)	8C代
図133	73	SK1632	土取り穴	5層	SK1631~1636,1640は一連の土取り穴,全体で東西16m以上,南北30m,深さ0.4~1.8m		壁面に幅20cmの跡の工具痕	8C② 以前	8C後半	8C後半
図133	73	SK1633	土取り穴	5層	SK1631~1636,1640は一連の土取り穴,全体で東西16m以上,南北30m,深さ0.4~1.8m		壁面に幅20cmの跡の工具痕	8C② 以前		
図133	73	SK1634	土取り穴	5層	SK1631~1636,1640は一連の土取り穴,全体で東西16m以上,南北30m,深さ0.4~1.8m		壁面に幅20cmの跡の工具痕	8C② 以前	8C①・9C ①~9C④	8C①・9C① ~9C④
図133	73	SK1635	土取り穴	5層	SK1631~1636,1640は一連の土取り穴,全体で東西16m以上,南北30m,深さ0.4~1.8m		壁面に幅20cmの跡の工具痕	8C② 以前		
図133	73	SK1636	土取り穴	5層	SK1631~1636,1640は一連の土取り穴,全体で東西16m以上,南北30m,深さ0.4~1.8m		壁面に幅20cmの跡の工具痕	8C② 以前		

V 古代の検出遺構と出土遺物（8土取り穴）

表64 古代土取り穴遺構属性一覧(2)

図No.	調査 次数	遺構 番号	種別	位置・ 層位	規模	重複関係	備考	検出層位 の年代	出土遺物 の年代	遺構分類 時期
図133	73	SK1640	土取り穴	5層	SK1631～1636,1640は一連の土取り穴,全体で東西16m以上,南北30m,深さ0.4～1.8m		壁面に幅20cmの鋤の工具痕	8C② 以前		
図133	86	SK1829	土取り穴	12層	東西14.5m以上×南北15.0m以上,深さ2.8m,不整形			8C② 以前		
図133	86	SK1830	土取り穴	12層	東西15.0m以上×南北2.5m以上,深さ2.1m,不整形		14次検出部分含む	8C② 以前		
図133	96	SK2074	土取り穴	12層	東西6.1m×南北5.6m以上,深さ1.0m以上,円形		近世に至るまで段階的に埋土が堆積,鉄滓出土	8C② 以前	下層8C④ ～9C①, 上層9C前半	8C④～9C 前半
図133	96	SK2075	土取り穴	12層	東西4.5m×南北6.2m以上,深さ1.2～1.5m,直径2.4～3.6m以上の円形の掘り込みが重複			8C② 以前	下層9C ②,上層 9C④	9C②～9C ④
図133	96	SK2076	土取り穴	12層	東西20.6m×南北8.0m以上,深さ10～60cm,直径0.6～1.6m以上のゆがんだ円形の掘り込みが不規則に重複			8C② 以前		
図133	96	SK2077	土取り穴	12層	東西5.8m以上×南北6.2m以上			8C② 以前		
図133	96	SK2078	土取り穴	12層	東西1.6m×南北5.3m以上,深さ10～60cm,直径1.9m以上のゆがんだ円形の掘り込みが不規則に重複			8C② 以前	9C④	9C④
図134	102	SG2245	土取り穴	V層	東西12m以上×南北11.5m以上,深さ0.5～1.2m,不整形	→SK2254～2258,SB1987	埋土は古代整地層と共通するものが多い,東側は8C②に埋めて,西側は9C④以降に埋める	8C② 以前	8C②～ 10C①	8C②～10C ①
図134	102	SG2246	土取り穴	V層	東西7m×南北1.2m以上,深さ50cm,楕円形			8C② 以前		
図134	102	SG2247	土取り穴	V層	東西4.0m×南北4.0m以上,深さ0.8～1.0m,平面形不明	→SD2242		8C② 以前		
図134	102	SG2248	土取り穴	V層	東西1.5m以上×南北1.5m以上,深さ1.2m,平面形状不明	→SD2242		8C② 以前		
図134	106A	SG2323	土取り穴	A区, V層	直径3.5m以上,深さ90cm	→SD2321		8C② 以前		
図134	106A	SG2324	土取り穴	A区, V層	直径4m以上,深さ50cm	→SG2325		8C② 以前		
図134	106A	SG2325	土取り穴	A区, V層	直径12m以上,深さ50cm	SG2324→ →SX2333		8C② 以前	8C②～ 9C②	8C②～9C ②
図134	106C	SG2353	土取り穴	C区, III層	直径1.2m以上,深さ60cm	→SG2355		8C② 以前		
図134	106C	SG2354	土取り穴	C区, III層	直径2.5m以上,深さ80cm	→SD2351		8C② 以前	8C②～ 8C後半	8C②～8C 後半
図134	106C	SG2355	土取り穴	C区, III層	直径1.5m以上,深さ80cm	SG2353→		8C② 以降		
図134	117B	SG2611	土取り穴	B区, X層	東西2m以上×南北2.2m以上,深さ55cm,底面に凹凸あり	→SA2604		8C② 以前		

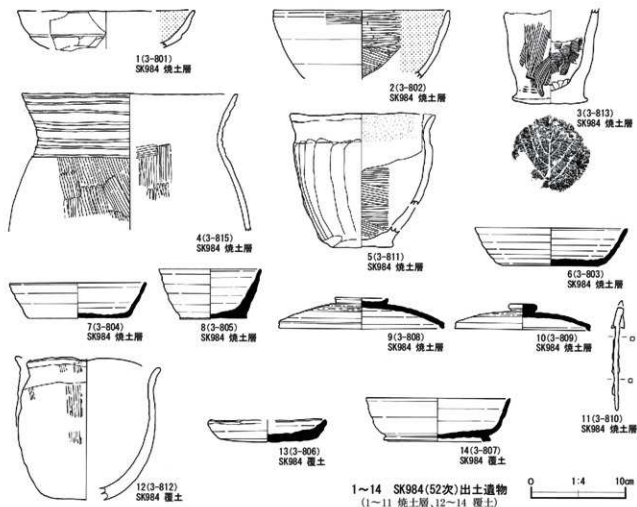
1~14 SK984(52次)出土遺物  
(1~11 焼土層, 12~14 覆土)

図135 土取り穴出土遺物

表65 土取り穴出土遺物一覽  
土取り穴(52次、SK984出土遺物)

図版番号	次数	遺物番号	種別	器種	出土地点・層位	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	調整技法等	時期
図135-1	52	3-801	土師器	坪	SK984焼土層	18.6	-	-	内面黒色処理,丸底有段,底部へラケズリ調整,口縁部外唇ナデ調整,内面ミガキ調整	8C②
図135-2	52	3-802	土師器	坪	SK984焼土層	18.4	-	-	口縁ナデ調整,内面黒色処理,外面口縁部と内面全面ミガキ調整	8C①~8C①
図135-3	52	3-813	土師器	甕	SK984焼土層	-	-	7.9	平底小型,底部木重版,内外面ハケ目調整	8C代
図135-4	52	3-815	土師器	甕	SK984焼土層	22.0	-	-	多重比輪,頸部数本の沈線,内外面ハケ目調整	8C②
図135-5	52	3-811	土師器	甕	SK984焼土層	14.9	14.2	6.4	平底小型,砂底,外面は口縁部から胴部ナデ調整,体部ケズリ調整,内面ナデおよびハケ目調整	8C代
図135-6	52	3-803	須恵器	坪	SK984焼土層	15.9	4.0	10.2	底部静止糸切り後,中心を押しケズリ調整	8C②
図135-7	52	3-804	須恵器	坪	SK984焼土層	14.3	3.7	10.5	底部へラケズリ調整のため,切り離し不明	8C②
図135-8	52	3-805	須恵器	坪	SK984焼土層	10.6	5.3	6.8	底部糸切り	8C②
図135-9	52	3-808	須恵器	蓋	SK984焼土層	17.2	3.3	-	天井部へラケズリ調整のため,切り離し不明,リング状つまみ	8C②
図135-10	52	3-809	須恵器	蓋	SK984焼土層	14.2	2.7	-	天井部へラケズリ調整のため,切り離し不明,ボタン状つまみ	8C④
図135-11	52	3-810	鉄製品	鉄線	SK984焼土層	-	-	-	-	-
図135-12	52	3-812	土師器	甕	SK984覆土	14.9	14.5	6.4	平底小型,外面ハケ目調整後,頸部ナデ調整,内面ナデ調整	8C代
図135-13	52	3-806	須恵器	皿	SK984覆土	12.1	2.3	10.0	底部へラ切り後,ナデ調整,口縁部ケズリがみられ,坪を再利用	8C②b
図135-14	52	3-807	須恵器	台付坪	SK984覆土	15.2	4.5	9.9	底部へラ切り,高台取り付け後,高台周辺ナデ調整,高台内面緑地	8C②

## 第9節 古代の特徴的出土遺物（図136～138、表66～68）

本節では焼山地区から出土した特徴的な出土遺物である施釉陶器、漆容器、定型硯、転用硯、関東系土器について集成する。8節までの遺構内で出土したものも、本節で再度実測図を掲載した。また、関東系土器が出土しており本節で扱うが、実測図は各所で掲載されているため、図番号と表のみを提示する。

施釉陶器は7点出土しており、内訳は緑釉陶器4点、灰釉陶器3点である。緑釉陶器は東海西部産（図136-1）猿投窯産（同図4・5）、洛西産（同図6）がある。灰釉陶器、猿投窯産カ（同図3）、東海産（同図7）がある。

漆容器として、73次SK1631土取り穴出土の須恵器杯、111次調査S12528床面出土の須恵器杯の2点が出土している（同図8・9）。それぞれ、蓋紙は第30号漆紙文書、第39号漆紙文書となっている（別編4参照）。

焼山地区出土の定型硯は6点あり、円面硯が4点、風字硯が2点出土している。

焼山地区出土の転用硯を遺構内外問わず集成した。転用硯は77点で、その内須恵器が74点、赤褐色土器が3点である。須恵器の器種別内訳は台付杯23点、杯22点、蓋20点、甕8点、壺1点である。台付き杯は底部外面、杯は内面、蓋は内面を利用することが多い。赤褐色土器は、杯・皿・蓋各1点である。

その他、関東系土器が出土している。現在のところ、焼山地区では4点確認されており、すべて108次調査地での出土である。土師器甕が4点、須恵器杯1点である。図105-35(10-40)の土師器甕は、武蔵型甕で10世紀第1四半期のものである。その他、図76-23(10-396)、図131-11(10-437)の土師器甕も同様に関東系と考えられる。また、別編3図3-27(10-512)の須恵器杯は、胎土が白色で底部回転糸切り後、底部外周にケズリ調整を施すもので、秋田城の土器編年体系には見られない技術要素をもっており、関東系須恵器と考えられ、8世紀末・9世紀初頭と考えられる（渡辺1990、福田2017）。

表66 古代の特徴的出土遺物一覧(1)  
施釉陶器

図版番号	次数	遺物番号	種別	器種	出土地点・層位	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	調整技法等	時期
図136-1	86	8-589	緑釉陶器	皿	2層	-	-	-	東海西部産、刷毛塗りで施釉	
図136-2	104	10-023	灰釉陶器	長頸瓶	I層	10.0	-	-	外面灰釉、被熱している	
図136-3	106D	10-207	灰釉陶器	壺	D区、II層	-	-	-	猿投窯産カ	
図136-4	112	10-716	緑釉陶器	碗	II層	-	-	-	猿投窯産、内外面に緑釉施釉、釉が大きく剥落、胎土および焼成軟質	黒笹14
図136-5	112	10-717	緑釉陶器	碗	II層	-	-	-	猿投窯産、内外面に緑釉施釉、口径縁端部剥落、胎土および焼成軟質	黒笹14
図136-6	115	10-872	緑釉陶器	碗	V層-1	-	-	-	洛西産、内外面に緑釉施釉	
図136-7	117 C-2	10-996	灰釉陶器	瓶	C-2区、S12623埋土	-	-	-	東海産	

## 漆容器

図版番号	次数	遺物番号	種別	器種	出土地点・層位	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	調整技法等	時期
図136-8	73	7-792	須恵器	杯	SK1631埋土中～下層	13.3	3.8	8.6	底部へラケズリ調整、内側に緑が回る、長方形の透し4ヶ所を、脚部下方にへラ状工具による波状文	8C後半
図136-9	111	10-580	須恵器	杯	S12528床面	14.0	3.7	9.0	底部へラケ切り後ナゲ調整、底部外面に「官」の墨書、内面に漆紙(第39号漆紙文書)付着	8C①

## 定型硯

図版番号	次数	遺物番号	種別	器種	出土地点・層位	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	調整技法等	時期
図136-10	21	1-230	硯	円面硯	S303カマド付近	15.8	9.8	23.2	陸部へラケズリ調整、内側に緑が回る、長方形の透し4ヶ所を、脚部下方にへラ状工具による波状文	
図136-11	52	3-792	硯	円面硯	4層	13.4	6.5	19.2	4ヶ所に方孔か、方孔間に3本1組の縦方向の花線	
図136-12	59	5-449	硯	風字硯	S11210埋土	-	-	-	陸部破片	
図136-13	73	7-772	硯	円面硯	S1627埋土	15.6	-	-	陸部に墨付着	
図136-14	99	9-667	硯	風字硯	3層	-	-	-	有台の風字硯、朱墨付着	
図136-15	112	10-711	硯	円面硯	II層	-	-	-	方形家、外面に花線	

表67 古代の特徴的出土遺物一覧(2)  
転用硯①

硯版 番号	次数	遺物 番号	種別	器種	出土地点 ・層位	口径 (cm)	底高 (cm)	底径 (cm)	調整技法等	時期
図136-16	14	312	須恵器	坪カ	SD176埋土	14.1	2.2	7.7	軸輪陶器の模倣。底部糸切り、焼きヒズレ、底部内面を硯に転用。蓋の可能性もあり	
図136-17	14	316	須恵器	台付坪	SK180～184埋土	14.3	4.3	8.5	底部へラ切り後、高台取り付け後、高台周辺ナダ調整、高台内面接合、底部外面を硯に転用	8C②
図136-18	19	1-128	須恵器	台付坪	2層	10.9	3.7	5.6	底部へラ切り後、高台取り付け後、高台周辺ナダ調整、底部外面を硯に転用	8C④～9C①
図136-19	19	1-130	須恵器	坪	Aトレンテ	13.8	3.6	8.2	底部へラ切り後、へラケツの調整、底部外面を硯に転用	8C後半
図136-20	19	1-132	須恵器	坪	2層	14.3	4.2	10.0	底部へラ切り後、ナダ調整、底部外面を硯に転用	8C②
図136-21	19	1-136	須恵器	蓋	SD294埋土	17.8	3.1	-	天井部へラケツの調整、切り離し不明、外面部分的に自然釉、内面を硯に転用。短頸蓋の蓋	8C後半
図136-22	21	1-232	須恵器	蓋	S304埋土	13.0	3.1	-	天井部へラ切り後、つまみは扁平だが、中心部がわずかに擬宝珠状、内面を硯に転用	8C③
図136-23	59	5-143	須恵器	坪	SI210埋土	13.8	3.5	8.4	底部へラ切り後、ナダ調整、底部内面を硯に転用	9C①
図136-24	73	7-767	須恵器	坪	SI1627埋土	13.4	3.8	8.8	底部糸切り後、ケツの調整、体部外面ナダ調整、内面は体部から底部ケツ調整、底部を硯に転用	9C①
図136-25	73	7-770	須恵器	台付坪	SI1627埋土	-	-	8.8	底部へラ切り後、高台取り付け後、高台周辺ナダ調整、底部外面を硯に転用	9C①
図136-26	73	7-801	須恵器	台付坪	SK1163埋土中～下層	15.7	7.0	8.1	底部へラ切り後、高台取り付け後、高台周辺ナダ調整、底部外面を硯に転用	8C④～9C①
図136-27	73	7-818	須恵器	蓋	SK1632埋土	14.7	3.0	-	天井部丁寧なナダ調整のため、切り離し不明、天井部外面に自然釉、天井部内面を硯に転用	8C③
図136-28	73	7-827	須恵器	坪	1層	-	-	7.6	底部へラ切り後、軽いナダ調整、内面を硯に転用	8C後半
図136-29	73	7-833	須恵器	台付坪	1層	-	-	8.6	底部へラ切り後、高台取り付け後、高台周辺ナダ調整、底部外面を硯に転用	9C前半
図136-30	73	7-834	須恵器	台付坪	1層	-	-	6.4	底部へラ切り後、高台取り付け後、高台周辺ナダ調整、底部外面を硯に転用	9C前半
図136-31	85	8-525	赤褐色土器	坪A	SI1806床面	12.4	4.9	5.6	底部糸切り、底部内面を硯に転用	9C①
図136-32	85	8-534	須恵器	坪	2層	13.8	3.9	7.6	底部へラ切り後、軽いナダ調整、底部内面を硯に転用	8C④～9C①
図136-33	85	8-535	須恵器	蓋	2層	14.7	3.5	-	天井部へラ切り後、ナダ調整、天井部内面を硯に転用	8C①～9C①
図136-34	85	8-536	須恵器	蓋	2層	15.0	3.5	-	天井部へラ切り後、ケツ調整、天井部内面を硯に転用	8C④～9C①
図137-1	85	8-544	須恵器	坪	4層	-	-	6.0	底部へラ切り後、軽いナダ調整、底部内面を硯に転用	8C後半
図137-2	85	8-545	須恵器	台付坪	4層	-	-	7.2	底部糸切り、高台取り付け後、高台周辺ナダ調整、底部外面を硯に転用	9C後半
図137-3	86	8-561	須恵器	蓋	SI1825埋土	13.8	2.7	-	天井部へラ切り後、ナダ調整、天井部内面を硯に転用	9C前半
図137-4	86	8-571	須恵器	台付坪	SI1826床面	14.4	3.5	9.1	底部へラ切り後、高台取り付け後、高台周辺ナダ調整、底部外面を硯に転用	8C④～9C①
図137-5	86	8-572	須恵器	台付坪	SI1826埋土	-	-	8.8	底部へラ切り後、高台取り付け後、高台周辺ナダ調整、底部外面を硯に転用	8C④
図137-6	86	8-578	須恵器	蓋	SK1834埋土	-	-	-	天井部へラ切り後、ナダ調整、天井部内面を硯に転用	9C②
図137-7	86	8-580	須恵器	蓋	SK1835埋土	17.6	3.8	-	天井部へラ切り後、丁寧なナダ調整、天井部内面を硯に転用	8C③
図137-8	86	8-585	須恵器	坪	2層	-	-	10.0	底部へラ切り後、軽いナダ調整、底部内面を硯に転用	8C後半
図137-9	86	8-603	須恵器	蓋	6層	-	-	-	天井部ケツ調整のため、切り離し不明、天井部内面を硯に転用	
図137-10	96	9-342	須恵器	坪	SI2072埋土	13.9	3.0	8.4	底部へラ切り後、丁寧なナダ調整、底部内面を硯に転用	9C②
図137-11	96	9-343	須恵器	坪	SI2072床面	-	-	8.8	底部へラ切り後、ナダ調整、底部内面を硯に転用	9C前半
図137-12	96	9-344	須恵器	台付坪	SI2072埋土	9.4	5.1	5.1	底部へラ切り後、ナダ調整、高台取り付け後、高台周辺をナダ調整、底部外面を硯に転用	9C前半
図137-13	96	9-356	須恵器	台付坪	SK2074埋土上土層	-	-	9.6	底部へラ切り後、軽いナダ調整、高台取り付け後、高台周辺にナダ調整、底部内面を硯に転用	9C前半
図137-14	96	9-357	須恵器	台付坪	SK2074埋土上土層	-	-	10.4	底部へラ切り後、軽いナダ調整、高台取り付け後、高台周辺にナダ調整、底部外面を硯に転用	9C前半
図137-15	96	9-359	須恵器	蓋	SK2074埋土上土層	15.0	3.2	-	天井部へラ切り後、ケツ調整、天井部内面を硯に転用	9C前半
図137-16	96	9-364	須恵器	甕	SK2074埋土下層	-	-	-	外面平行引き肌、内面同心円文の当て具肌、内面を硯に転用	
図137-17	96	9-399	須恵器	台付坪	3層	-	-	7.2	底部へラ切り後、高台周辺ナダ調整、底部外面を硯に転用	8C④～9C①
図137-18	96	9-422	須恵器	蓋	6層	13.6	-	-	天井部へラ切り後、ケツ調整、天井部内面を硯に転用	8C④～9C①
図137-19	96	9-430	須恵器	台付坪	7層	13.4	4.7	8.8	底部へラ切り後、高台取り付け後、高台周辺にナダ調整、底部外面を硯に転用。二次的被熱痕	8C④～9C①
図137-20	96	9-431	須恵器	台付坪	7層	13.7	4.5	7.4	底部へラ切り後、高台取り付け後、高台周辺にナダ調整、底部外面を硯に転用	8C④～9C①

V 古代の検出遺構と出土遺物（9特徴的遺物）

表68 古代の特徴的出土遺物一覧(3)

図版番号	次数	遺物番号	種類	器種	出土地点・層位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	調整技法等	時期
図137-21	99	9-623	須恵器	台付杯	SA2144,P1柱廻り方埋土	-	-	8.6	底部へラ切り後、軽いワダ調整、高台取り付け後、高台周辺をナダ調整、底部内面を硯に転用	9C②
図137-22	99	9-634	須恵器	台付杯	SK2158埋土	-	3.3	9.0	底部へラ切り後、ナダ調整、底部外面を硯に転用	8C①～9C①
図137-23	99	9-644	須恵器	杯	1層	14.0	3.1	9.6	底部へラ切り後、ナダ調整、内面を硯に転用	8C①～9C①
図137-24	99	9-657	須恵器	蓋	2層	-	-	-	天井部へラ切り後、ケズリ調整、内面を硯に転用、天井部外面に二列の「天」口と「口」口の墨書	9C①～9C①
図137-25	99	9-659	赤褐色土器	蓋	2層	-	-	-	内面を硯に転用、つまみ天井部に「一」の墨書	9C②～③
図137-26	99	9-661	赤褐色土器	蓋	2層	-	-	5.5	底部糸切り、底部内面を硯に転用	9C④
図137-27	99	9-666	須恵器	杯	3層	-	-	10.0	底部へラ切り後、ナダ調整、底部内面を硯に転用、底部外面に「イ」状の刻書	8C④～9C①
図137-28	102	9-910	須恵器	甕	SG2247埋土	-	-	-	外面平行印き痕、内面同心円状で具痕、内面を硯に転用	
図137-29	102	9-925	須恵器	蓋	SG2249埋土	-	-	-	つまみ部欠損、内面を硯に転用	8C後半～9C前半
図137-30	102	9-926	須恵器	甕	SG2249埋土	-	-	-	外面平行印き痕、内面平行当て具痕、内面を硯に転用	
図138-1	102	9-942	須恵器	杯	II層	-	-	7.2	底部糸切り、内面を硯に転用	9C①
図138-2	102	9-963	須恵器	杯	V-2-②層	-	-	9.0	底部へラ切り後、軽いワダ調整、内面を硯に転用	8C後半～9C①
図138-3	104	10-008	須恵器	台付杯	SG2287	-	-	10.2	底部へラ切り後、軽いワダ調整、底部内面を硯に転用	8C①～9C①
図138-4	104	10-009	須恵器	台付杯	SG2287	-	-	高台径10.3	底部へラ切り後、軽いワダ調整、底部外面を硯に転用、意図的な打ち欠き	8C④～9C①
図138-5	104	10-011	須恵器	甕	SG2287	-	-	-	外面平行印き痕、内面平行当て具痕、内面を硯に転用	
図138-6	108	10-386	須恵器	蓋	SD2450埋土	-	-	10.4	底部切欠不明、底部内面を硯に転用	
図138-7	108	10-391	須恵器	甕	SK2452埋土	-	-	-	内外面に平行の印き目痕、内面を硯に転用	
図138-8	108	10-473	須恵器	台付杯	I層	-	-	高台径8.2	底部へラ切り後、高台取り付け後、高台周辺ナダ調整、底部外面に「長」墨書、底部内面を硯に転用	8C後半
図138-9	108	10-480	須恵器	甕	II層	-	-	-	内面を硯に転用	
図138-10	108	10-483	須恵器	杯	III層	8.4	-	-	底部へラ切り、底部内面を硯に転用	8C④～9C①
図138-11	108	10-514	須恵器	台付杯	IV層	-	-	高台径8.0	内面を硯に転用	8C後半～9C①
図138-12	111	10-536	須恵器	杯	SK2512埋土	13.0	3.2	7.0	底部へラ切り後、丁寧なナダ調整、底部外面に「口」口の墨書、底部内面を硯に転用	9C④～9C①
図138-13	111	10-561	須恵器	蓋	SB1625,P4柱廻り方埋土	-	-	-	天井部内面を硯に転用	8C④～9C①
図138-14	111	10-583	須恵器	台付杯	SD2538埋土	-	-	高台径9.0	底部へラ切り後、台取り付け後ナダ調整、底部内面を硯に転用	
図138-15	111	10-584	須恵器	蓋	SD2538埋土	16.0	3.5	-	知照窓の蓋、天井部ケズリ調整により切欠し不明、天井部内面を硯に転用	8C③
図138-16	111	10-609	須恵器	蓋	I層	14.8	-	-	天井部へラ切り後ケズリ調整、内面を硯に転用	8C後半
図138-17	111	10-629	須恵器	台付杯	II層	-	-	8.6	底部へラ切り後、ナダ調整、底部内面を硯に転用	8C後半～9C前半
図138-18	112	10-708	須恵器	杯	II層	-	-	6.3	底部へラ切り後、ナダ調整、内面底部硯に転用	8C後半～9C前半
図138-19	112	10-727	須恵器	大甕	III層	-	-	-	外面縦目平行印き、内面平行当て具痕、内面を硯に転用	
図138-20	115	10-852	須恵器	蓋	II層	15.0	-	-	天井部へラ切り後、ケズリ調整、内面を硯に転用、内外面に製作時の線痕	8C後半
図138-21	115	10-860	須恵器	蓋	IV層	13.6	-	-	天井部へラ切り後、外面に軽いワダ調整、天井部内面を硯に転用	8C後半
図138-22	116	10-889	須恵器	杯	SD2587埋土	-	-	7.2	底部へラ切り後、ケズリ調整、底部外面を硯に転用	8C③
図138-23	116	10-897	須恵器	甕	SD2588埋土	-	-	-	外面平行タタキ痕、内面は体部下半同心円状で具痕、底部平行当て具痕、内面を硯に転用	
図138-24	116	10-921	須恵器	杯	覆丸	-	-	9.4	底部糸切り、底部内面を硯に転用	8C④～9C①
図138-25	116	10-922	須恵器	杯	覆丸	-	-	10.0	切欠不明、底部内面を硯に転用	
図138-26	116	10-926	須恵器	杯	覆丸	12.8	3.0	6.4	底部へラ切り後、ナダ調整、底部外面を硯に転用、口縁部に墨痕	9C後半
図138-27	116	10-936	須恵器	蓋	II層	-	-	-	リング状つまみ、天井部外面ケズリ調整、内面を硯に転用	8C②
図138-28	117 C-2	11-010	須恵器	蓋	C-2区III層	15.0	-	-	天井部ケズリ調整、内面を硯に転用	8C④～9C①

関東系土器

図版番号	次数	遺物番号	種類	器種	出土地点・層位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	調整技法等	時期
図76-23	108	10-396	土師器	甕	SA2455,P2柱抜き埋土	16.6	-	-	関東系a、口縁部端が外面にややつまみ出され、端面に凹みがある	
図105-35	108	10-401	土師器	甕	SD2459カマド構築土	19.0	-	-	武蔵型甕、胴部に2条の段状沈線、内面カキ目調整	10C①
図131-11	108	10-437	土師器	甕	SK2468埋土	15.8	-	-	関東系a、体部内外面へラ調整	
別編3 図133-27	108	10-512	須恵器	杯	IV層	-	-	9.2	関東系a、底部糸切り後、底部周縁にケズリ調整、底部外面に判読不明の墨書、胎土白色	8C末～9C前半

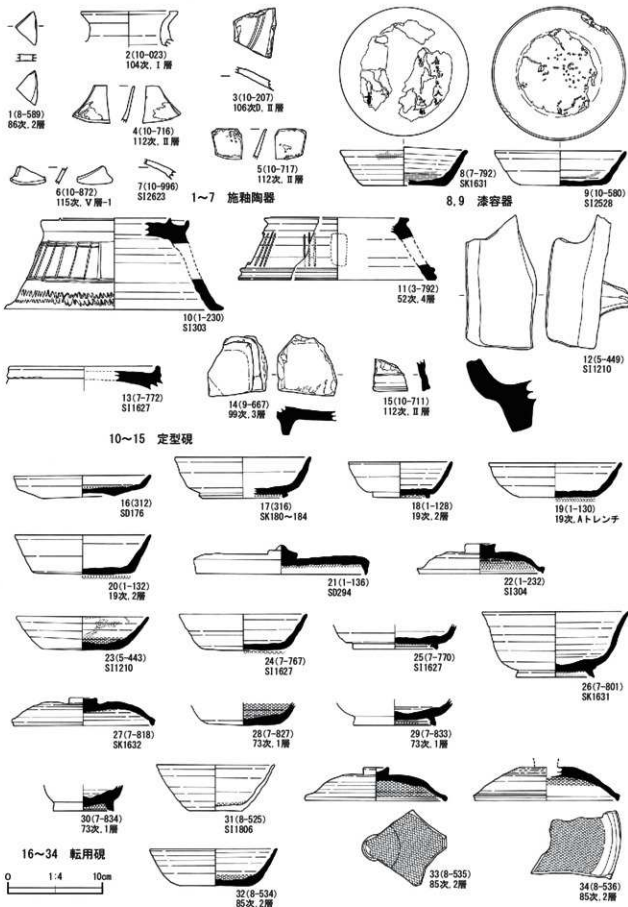


図136 古代の特徴的出土遺物(1)

V 古代の検出遺構と出土遺物 (9特徴的遺物)

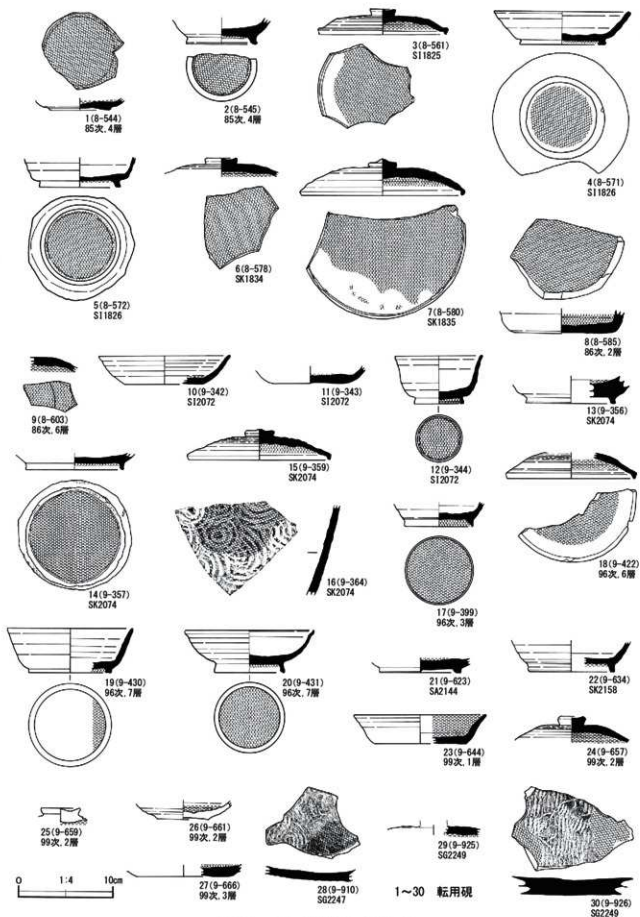


図137 古代の特徴的出土遺物(2)



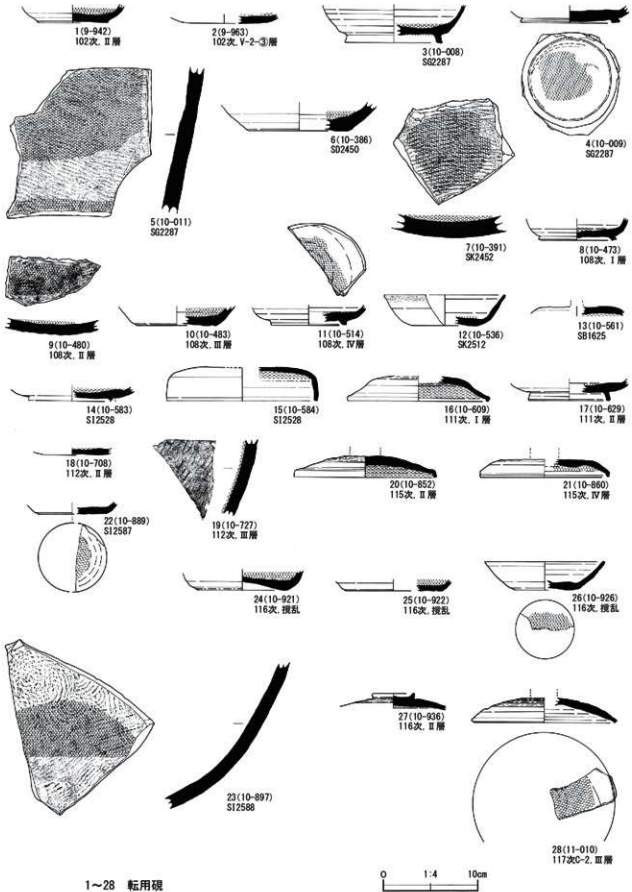


図138 古代の特徴的出土遺物(3)

## 第VI章 その他の時代の検出遺構と出土遺物

本章では、古代以外の検出遺構と出土遺物についてまとめる。焼山地区で発見された古代以外で利用された時期は、縄文・弥生時代、中世、近世である。以下、この順で整理する。

### 第1節 縄文・弥生時代の検出遺構と出土遺物（図139～144、表69～72）

焼山地区からは、弥生時代の遺構と縄文時代と弥生時代の遺物が発見されている。縄文時代と弥生時代の遺物は、古代の遺構内で発見されたものについては第V章で提示している。本節では古代の遺構以外から出土したものを全点掲載した。

発見された遺構としては、弥生時代遺構が2基のみで、66次調査のSK1464土器埋設遺構と105次調査A区のST2302土壇墓である（図140）。

縄文時代の出土遺物は、21次、66次、70次、86次、102次で出土しており、焼山地区中央部に集中している。時期としては、縄文時代後期のものが多く、一部縄文時代晩期のものも確認できる。

弥生時代の出土遺物は、19次、66次、70次、92次A区、102次、104次、105次A・D・E区、106次A・B・D区、108次、111次、115次、117次A・B区から出土している。焼山地区北西部に広く分布している。特に19次調査の6層（旧表土）での出土が多い。19次調査地は沢状地形の部分であるため、捨て場として遺物包含層が形成されたものと考えられる。出土した土器の時期としては、弥生時代前期～中期後葉まで幅広い時期が出土している。

### 第2節 中世の検出遺構と出土遺物（図145～159、表73～79）

焼山地区からは、中世の遺構・遺物が発見されている。中世遺構は、92次B区、103次、106次、109次、114次、115次、117次A・B区で発見され、焼山地区北西部の舌状台地を中心に検出されている。発見された遺構は、掘立柱建物跡、土塁跡・材木堀跡・溝跡の区画施設等、火葬墓、土坑である。以下、掘立柱建物跡、区画施設等、火葬墓・土坑の項目ごとに提示する。

#### 1 掘立柱建物跡（図146、表73）

焼山北西部の台地上から緩やかに下った台地裾部の92次B区で、SB2002掘立柱建物跡が1棟発見された。東西2間×南北3間の南北棟の掘立柱建物で、方位は真北である。柱掘り方が9基確認されたが、12基の柱掘り方が組み合う三間一戸の八脚門形式の門であると推定される。北側にSX2003土塁跡が、南側にSX2004土塁跡と材木堀跡（SA2005・2006）が取り付く。柱掘り方の底部から模鋳銭の破片が出土したことから、16世紀後半に構築された遺構であると考えられる。

焼山北西部の台地上である109次で、柱掘り方と考えられる遺構が2基（SKP2504・SKP2505）発見された。柱掘り方は、中心で3.3mあり、調査区外に広がる掘立柱建物跡の一部の可能性が有る。SKP2504の掘り方土から越前産の甕が出土していることから、中世後期の遺構であると考えられる。

#### 2 区画施設等（図147～154、表74・75）

中世の区画施設は、92次B区、103次A・C区、106次A・B区、109次、117次A・B区で30基（条）

検出されている。ここでの「区画施設」は土塁跡、材木堀跡の他、上部構造を持たない溝跡や切岸土遺構も含めている。

区画施設は、SB2002 掘立柱建物跡（八脚門）を基準として、舌状台地の北側と南側に展開する。また、遺構配置を地形的に「台地上」と「台地裾部」に分けることができる。また、台地上と台地裾部の中間的な場所にも配置される遺構があり、この場合の位置を「台地縁辺」と呼称する。

92 次調査地では、台地裾部の SB2002 掘立柱建物跡（八脚門）の北側に SX2003 土塁跡、南側に SX2004 土塁跡とその頂部に SA2005・2006 材木堀跡が取り付いている。103 次 A 区では北側の台地裾部に SX2265 土塁跡と土塁上部に SA2266 材木堀跡が検出されている。103 次 C 区では北側の台地裾部に SX2271 が検出されている。106 次 A 区では南側の台地上に SA2317・2318 材木堀跡が検出され、SA2317 が古段階、SA2318 が新段階で新旧二時期ある。106 次 B 区では北側の台地上で、SX2350 土塁跡とその頂部に SA2335・2336 材木堀跡、土塁南側に SD2341 溝跡が検出されている。同じく 106 次 B 区の南側の台地上で、SA2338・2337 材木堀跡があり、SA2338 が古段階、SA2337 が新段階である。また、この材木堀跡のさらに南側に SD2342 溝跡が確認されている。109 次では北側の台地上で SX2506 土塁跡、その頂部に SA2500・2501 材木堀跡があり、SA2501 が古段階、SA2500 が新段階である。同じく 109 次の南側の台地上で SA2502・2503 材木堀跡があり、SA2503 が古段階、SA2502 が新段階である。106 次 B 区の南側にあたる 117 次 A 区では南側の台地縁辺で SA2600 材木堀跡と SD2601 溝跡が検出され、SA2600 が古段階、SD2601 が新段階である。また、117 次 A 区では台地裾部に SX2602 切岸状遺構が検出されている。117 次 B 区では北側の台地上で、SX2608 土塁跡とその頂部に SA2604 材木堀跡がある。また、台地縁辺部に SD2607 溝跡があり、これを埋め立てた後に、台地裾部で SX2609 土塁跡・SA2605 材木堀跡・SD2606 溝跡が構築されている。なお、これらの材木堀跡は柱痕跡の間隔が空いており、古代遺構の「柱列堀」に近い構造と考えられる。

以上のような遺構配置をみると、SB2002 掘立柱建物跡（八脚門）を中心として、台地裾部に北側と南側に区画施設が、台地上部と台地縁辺にも北側と南側に区画施設が配置されており、二重の区画となっている。出土遺物の年代から、台地裾部の遺構の年代は 16 世紀後半、台地上部および台地縁辺部は 14～15 世紀代と考えられ、時期差があると考えられる。

### 3 火葬墓・土坑（図 155、表 76）

焼山地区北西部に火葬墓や土坑が検出されている。火葬墓は、92 次 B 区（ST2007）、103 次 A・B 区（ST2267～2270）、114 次調査地（SK2571～2574）で 9 基発見され、火葬墓と判断できない土坑が 115 次（SK2576）、117 次 B 区（SK2610）で発見されている。いずれも台地裾部で発見されている。このうち、ST2007（92 次 B）は SX2004 土塁の下部、ST2267・ST2268（103 次 A）は SX2265 土塁の下部から検出されている。

ST2007（92 次 B）、ST2267～2270（103 次 A・B）、SK2571～2574（114 次）、SK2610（117 次 B）の火葬墓からは焼けた人骨片が出土しており、模鈔銭および釘を伴うことが多い。中でも ST2574 では木棺の一部と考えられる木製品が出土している。これらの火葬墓は、模鈔銭が出土することから 16 世紀後半の遺構であると考えられる。

### 4 中世の遺構外出土遺物（図 157～159、表 78・79）

遺構外から出土する中世関係遺物を集成すると、66 次、86 次、92 次 B 区、96 次、99 次、103 次、105 次 E 区、106 次 A・B・D・E 区、108 次、109 次、111 次、114 次、115 次、117 次 A・B 区で確認されてい

## VI その他の時代の検出遺構と出土遺物

る。遺構が集中する北西部のみならず、焼山中央部、南西部でも広く出土している。出土遺物は、珠洲系中世陶器、越前産陶器、瀬戸美濃系陶器、模鑄銭、貿易陶磁がある。古いものでは古瀬戸前期様式の13世紀代のものが一部あるが(図159-2)、珠洲系中世陶器ではIV期以降の13世紀末以降、瀬戸美濃系陶器では古瀬戸後期III期以降の15世紀前葉以降、貿易陶磁では16世紀末・17世紀初頭のものである。全体としてみれば、14世紀代～16世紀末・17世紀初の範囲に収まり、13世紀以前の遺物は極めて少ない。

### 第3節 近世の検出遺構と出土遺物(図160～164、表80～82)

近世の遺構について、本節では墓と土取り穴について提示する。この他に近世以降の遺構は畑畝跡や溝跡、小規模な掘立柱建物跡などがある。

近世墓は、114次調査でまとまって10基発見されている(図160・161)。直径0.5～1.2mの円形もしくは楕円形のピットから炭化物や焼けた人骨片が出土する火葬墓が9基検出されている(SK2561～2569)。特にSK2564からは五輪塔の火輪部が出土している(図164-3)。また、同じ114次調査地で、直径約4mの円形の範囲内に直径5～10cmの礫が集中するSX2570集石遺構が発見されている。礫には梵字が書かれた一字一石経が含まれており、仏教関係遺構であると考えられる。近世墓の年代は、検出層位から16世紀末・17世紀初め以降であると考えられる。

近世土取り穴は特徴が古代と類似しているが、埋土から近世陶磁器が出土することから判別することができる。近世土取り穴は、SK179②(14次)、SK977(52次)、SK1828(86次)、SK2158(99次)、SG2249・2250(102次)、SG2287～2289(104次)、SG2303～2305・2308(105次A・B区)の13基確認されている。特に102次・104次調査地で広く確認されており、近世土取り穴によって、城内西大路等の遺構が大きく削平を受けている。

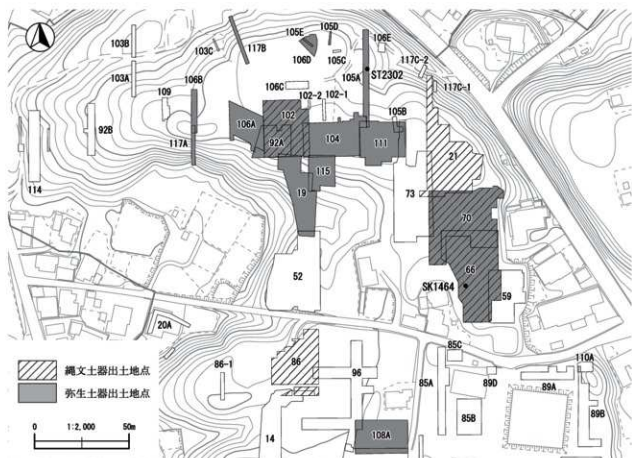


図139 弥生時代遺構の検出位置と縄文・弥生時代遺物の出土地点

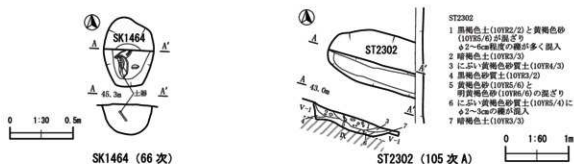


図140 弥生時代の検出遺構

表69 先史時代遺構属性一覧

図No.	調査 次数	遺構 番号	種別	位置・ 層位	規模	重複関係	備考	検出層位 の年代	出土遺物 の年代	遺構分期 時期
図140	66	SK1464	土坑	3層	長軸55cm×短軸40cm×深325cm,楕円形		完形の弥生土器出土	旧表土	弥生中期前葉	弥生
図140	105A	ST2302	土壇臺	A段, V層	東西1.5m以上×南北0.9m,深320cmの楕円形		弥生土器片出土	旧表土	弥生	弥生



図141 弥生時代遺構内出土遺物

VI その他の時代の検出遺構と出土遺物

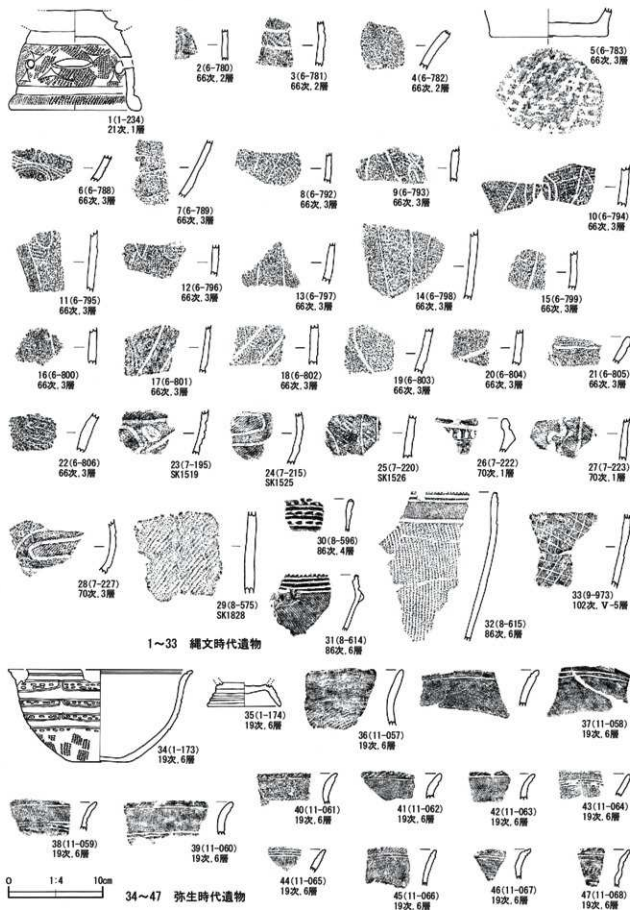


図142 先史時代遺物(1)

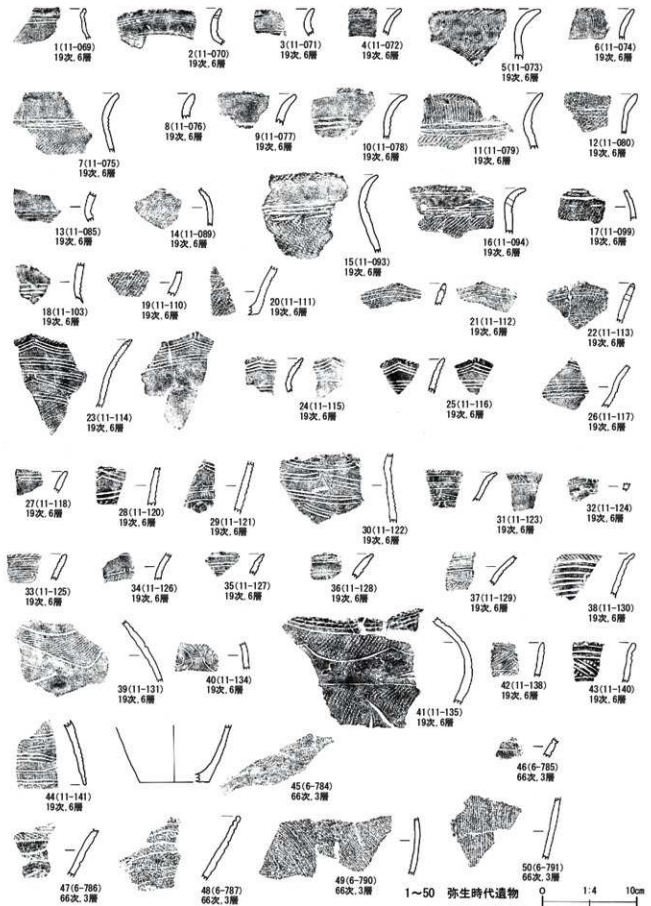


図143 先史時代遺物(2)

VI その他の時代の検出遺構と出土遺物

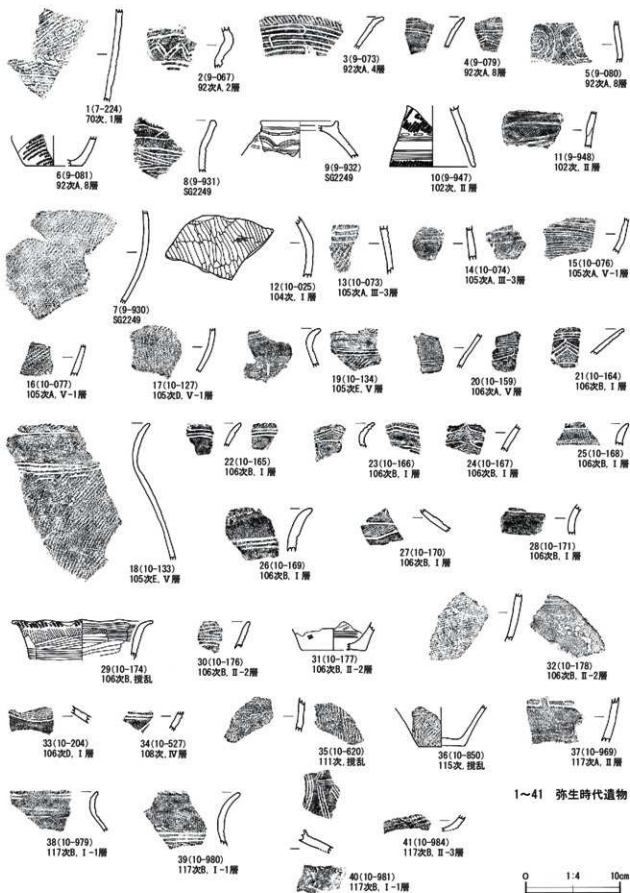


図144 先史時代遺物(3)



表70 先史時代遺物一覧(1)  
弥生時代遺構内出土遺物

図版番号	次数	遺物番号	種別	器種	出土地点・層位	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	調整技法等	時期
図141-1	66	6-773	弥生土器	鉢	SK1464埋土	21.9	11.6	5.1	波状口縁、口唇部頂部に小突起、体部状平に変形し、文字、平行沈線区画に磨消し、縄文は、口縁部内面3本の平行沈線、内面ミガキ調整、口唇部と口縁部の沈線部分と胴部に縦位の2条一組の赤彩、口縁部に補修孔あり	弥生中期前葉
図141-2	105A	10-053	弥生土器	鉢	ST2302埋土	-	-	-	外面1条の平行沈線、内面口縁部と口縁部端部にそれぞれ11条の平行沈線	弥生a
図141-3	105A	10-054	弥生土器	鉢	ST2302埋土	-	-	-	縄文11条	弥生a

## 縄文時代遺物

図版番号	次数	遺物番号	種別	器種	出土地点・層位	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	調整技法等	時期
図142-1	21	1-234	縄文土器	台付鉢	1層	-	-	13.0	台付鉢の胴部も、器壁は分厚い、円形と楕円形の透かし、透かしの間隔に三叉文、縄文LR	縄文後期末葉～晩前期末
図142-2	66	6-780	縄文土器	不明	2層	-	-	-	数条の沈線による文様	縄文後期
図142-3	66	6-781	縄文土器	不明	2層	-	-	-	沈線区画に磨消帯、縄文LR	縄文後期
図142-4	66	6-782	縄文土器	不明	2層	-	-	-	燃赤文	縄文後期
図142-5	66	6-783	縄文土器	深鉢	3層	-	-	12.4	底部網代文	縄文後期
図142-6	66	6-788	縄文土器	不明	3層	-	-	-	数条の沈線による流線的な文様	縄文後期前半
図142-7	66	6-789	縄文土器	鉢	3層	-	-	-	数条の沈線による流線的な文様	縄文後期前半
図142-8	66	6-792	縄文土器	深鉢	3層	-	-	-	数条の細い沈線による文様、縄文LR	縄文後期前半
図142-9	66	6-793	縄文土器	深鉢	3層	-	-	-	数条の細い沈線による文様、沈線間磨消し、縄文	縄文後期前半
図142-10	66	6-794	縄文土器	深鉢	3層	-	-	-	数条の細い沈線による文様、沈線間磨消し、縄文LR	縄文後期前半
図142-11	66	6-795	縄文土器	深鉢	3層	-	-	-	数条の細い沈線による文様、沈線間磨消し、縄文LR	縄文後期前半
図142-12	66	6-796	縄文土器	深鉢	3層	-	-	-	数条の細い沈線による文様、沈線間磨消し、縄文LR	縄文後期前半
図142-13	66	6-797	縄文土器	深鉢	3層	-	-	-	数条の細い沈線による文様、沈線間磨消し、縄文LR	縄文後期前半
図142-14	66	6-798	縄文土器	深鉢	3層	-	-	-	数条の細い沈線による文様、沈線間磨消し、縄文	縄文後期前半
図142-15	66	6-799	縄文土器	深鉢	3層	-	-	-	数条の細い沈線による文様、沈線間磨消し、縄文	縄文後期前半
図142-16	66	6-800	縄文土器	深鉢	3層	-	-	-	数条の細い沈線による文様、沈線間磨消し、縄文	縄文後期前半
図142-17	66	6-801	縄文土器	深鉢	3層	-	-	-	沈線区画内磨消し、縄文LR	縄文後期前半
図142-18	66	6-802	縄文土器	深鉢	3層	-	-	-	沈線区画内磨消し、縄文LR	縄文後期前半
図142-19	66	6-803	縄文土器	深鉢	3層	-	-	-	沈線区画内磨消し、縄文LR	縄文後期前半
図142-20	66	6-804	縄文土器	深鉢	3層	-	-	-	沈線区画内磨消し、縄文	縄文後期前半
図142-21	66	6-805	縄文土器	不明	3層	-	-	-	沈線、縄文LR	縄文後期前半
図142-22	66	6-806	縄文土器	不明	3層	-	-	-	燃赤文	縄文後期
図142-23	70	7-195	縄文土器	鉢	SK1519埋土	-	-	-	数条の沈線による文様、縄文LR	縄文後期前半
図142-24	70	7-215	縄文土器	鉢	SK1825埋土	-	-	-	沈線区画内磨消し、縄文LR	縄文後期前半
図142-25	70	7-220	縄文土器	鉢	SK1826埋土	-	-	-	3条の沈線、縄文LR	縄文後期前半
図142-26	70	7-222	縄文土器	鉢	1層	-	-	-	口縁部内沈、沈線の下に列点文	縄文後期
図142-27	70	7-223	縄文土器	鉢	1層	-	-	-	数条の沈線、縄文LR	縄文後期
図142-28	70	7-227	縄文土器	鉢	3層	-	-	-	沈線区画の磨消し、縄文LR	縄文後期
図142-29	86	8-575	縄文土器	鉢	SK1828埋土上層	-	-	-	縄文LR、縄の結束部あり	縄文
図142-30	86	8-596	縄文土器	鉢	4層	-	-	-	口縁部に突起、平行沈線間に磨み	縄文晩期中葉
図142-31	86	8-614	縄文土器	鉢	6層	-	-	-	口縁部端部に磨み目、口縁部に平行沈線、胴部に2個1対の粘土粒を貼付、縄文LR	縄文晩期中葉
図142-32	86	8-615	縄文土器	鉢	6層	-	-	-	口縁部端部に磨み目、口縁部に平行沈線と磨消帯、縄文LR	縄文晩期中葉
図142-33	102	9-973	縄文土器	深鉢	V-5層	-	-	-	網目状燃赤文	縄文後期

## 弥生時代遺物(1)

図版番号	次数	遺物番号	種別	器種	出土地点・層位	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	調整技法等	時期
図142-34	19	1-173	弥生土器	鉢	6層	19.4	9.7	6.0	外面体部上半部に変形し、文字、工字文区画内に突起、口縁部内外面に沈線一帯、縄文LR	弥生中期中葉
図142-35	19	1-174	弥生土器	台付鉢	6層	-	-	7.3	台部、3条の平行沈線	弥生前葉
図142-36	19	11-057	弥生土器	甕	6層	-	-	-	口縁～胴部ミガキ調整、縄文LR、内面ミガキ調整、S51 概観29081	弥生中期前葉
図142-37	19	11-058	弥生土器	甕	6層	-	-	-	内外面口縁部平行沈線、口縁～胴部ミガキ調整、S51 概観29082	弥生中期前葉
図142-38	19	11-059	弥生土器	甕	6層	-	-	-	外面ミガキ調整後、平行沈線、S51概観29083	弥生中期前葉
図142-39	19	11-060	弥生土器	甕	6層	-	-	-	外面平行沈線、縦方向のハケ目調整、S51概観29084	弥生中期前葉
図142-40	19	11-061	弥生土器	甕	6層	-	-	-	外面平行沈線、縦方向のハケ目、口唇部縄文LR、S51 概観29085	弥生中期前葉
図142-41	19	11-062	弥生土器	甕	6層	-	-	-	外面平行沈線、縦方向のハケ目調整、口唇部縄文LR、S51概観29086	弥生中期前葉
図142-42	19	11-063	弥生土器	甕	6層	-	-	-	口縁部外面平行沈線、胴部縦方向のハケ目調整、口唇部縄文LR、S51概観29087	弥生中期前葉～中葉
図142-43	19	11-064	弥生土器	甕	6層	-	-	-	外面平行沈線、縦方向のハケ目調整、内面横方向のハケ目調整、S51概観29088	弥生中期前葉～中葉
図142-44	19	11-065	弥生土器	甕	6層	-	-	-	口縁部内外面平行沈線、外面縦方向のハケ目調整、S51概観29089	弥生中期前葉～中葉

## VI その他の時代の検出遺構と出土遺物

表71 先史時代遺物一覧(2)  
弥生時代遺物(2)

図版番号	次数	遺物番号	類別	器種	出土地点・層位	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	調整技法等	時期
図142-45	19	11-066	弥生土器	甕	6刷	-	-	-	平行沈線,頸部ミガキ調整,口唇部縄文LR,S51横線29図10	弥生中期前葉
図142-46	19	11-067	弥生土器	甕	6刷	-	-	-	口縁部内外面平行沈線,頸部ミガキ調整,S51横線29図11	弥生中期前葉
図142-47	19	11-068	弥生土器	深鉢	6刷	-	-	-	筒型の深鉢,平行沈線,縄文LR,S51横線29図12	弥生前期
図143-1	19	11-069	弥生土器	壺か	6刷	-	-	-	波状口縁,口縁部内外面平行沈線,頸部ミガキ調整,口唇部縄文LR,S51横線29図13	弥生中期前葉
図143-2	19	11-070	弥生土器	壺	6刷	-	-	-	口縁部内外面平行沈線,頸部ミガキ調整,口唇部縄文LR,赤色顔料希布,補修孔あり,S51横線29図14	弥生中期前葉
図143-3	19	11-071	弥生土器	甕	6刷	-	-	-	平行沈線,頸部ミガキ調整,口唇部縄文LR,S51横線29図15	弥生中期前葉
図143-4	19	11-072	弥生土器	甕	6刷	-	-	-	口縁部外面2条・内面3条の沈線,S51横線29図16	弥生中期前葉
図143-5	19	11-073	弥生土器	甕	6刷	-	-	-	縦方向のハケ目調整後,口唇部と頸部に縄文LR,S51横線29図17	弥生中期前葉
図143-6	19	11-074	弥生土器	甕	6刷	-	-	-	外面縦方向のハケ目調整後,口唇部に押し縄文,S51横線29図18	弥生中期前葉
図143-7	19	11-075	弥生土器	甕	6刷	-	-	-	頸部平行沈線,縦方向ミガキ調整,口唇部・体部状平縄文LR,S51横線29図19	弥生中期前葉
図143-8	19	11-076	弥生土器	甕	6刷	-	-	-	外面縦方向のハケ目調整後,口唇部に縄文LR,S51横線29図20	弥生中期前葉
図143-9	19	11-077	弥生土器	甕	6刷	-	-	-	頸部ミガキ調整,平行沈線,口唇部縄文LR,S51横線29図21	弥生中期前葉
図143-10	19	11-078	弥生土器	甕	6刷	-	-	-	頸部ミガキ調整,平行沈線,口唇部・体部上半縄文LR,S51横線29図22	弥生中期前葉
図143-11	19	11-079	弥生土器	甕	6刷	-	-	-	頸部縦方向のハケ目調整,口唇部・体部上半縄文LR,S51横線29図23	弥生中期前葉
図143-12	19	11-080	弥生土器	甕	6刷	-	-	-	頸部横方向のハケ目調整,平行沈線,体部上半縄文LR,S51横線29図24	弥生中期前葉
図143-13	19	11-085	弥生土器	壺か甕	6刷	-	-	-	頸部平行沈線,体部上半縄文LR,S51横線29図29	弥生中期前葉
図143-14	19	11-089	弥生土器	鉢	6刷	-	-	-	頸部平行沈線,体部上半縄文LR,S51横線29図33	弥生中期前葉
図143-15	19	11-093	弥生土器	甕	6刷	-	-	-	頸部平行沈線と列点文,頸部ミガキ調整,口唇部と体部上半縄文LR,S51横線29図37	弥生中期前葉
図143-16	19	11-094	弥生土器	甕	6刷	-	-	-	頸部平行沈線と列点文,頸部ミガキ調整,口唇部と体部上半縄文LR,補修孔あり,S51横線29図38	弥生中期前葉
図143-17	19	11-099	弥生土器	壺か甕	6刷	-	-	-	頸部平行沈線と列点文,体部上半縄文LR,S51横線29図43	弥生中期前葉
図143-18	19	11-103	弥生土器	壺か甕	6刷	-	-	-	頸部平行沈線と列点文,頸部縦方向のハケ目調整,S51横線29図47	弥生中期前葉
図143-19	19	11-110	弥生土器	鉢か	6刷	-	-	-	列点文,S51横線29図54	弥生中期前葉
図143-20	19	11-111	弥生土器	鉢	6刷	-	-	-	平行沈線列点文,体部下半縄文LRとハケ目調整,S51横線29図55	弥生中期前葉
図143-21	19	11-112	弥生土器	鉢	6刷	-	-	-	山形突起,突起部先端に刻み,口縁部内外に沈線文,赤色顔料付着,S51横線30図56	弥生中期
図143-22	19	11-113	弥生土器	鉢	6刷	-	-	-	山形突起,突起部先端に刻み,口縁部内外面に沈線文,縄文LR,補修孔あり,S51横線30図57	弥生中期
図143-23	19	11-114	弥生土器	浅	6刷	-	-	-	波状口縁,山形突起先端に刻み,変形工字文,口唇部と体部上半縄文LR,赤色顔料付着,S51横線30図58	弥生中期前葉
図143-24	19	11-115	弥生土器	鉢	6刷	-	-	-	波状口縁,口縁部内外に沈線文,S51横線30図59	弥生中期前葉
図143-25	19	11-116	弥生土器	鉢	6刷	-	-	-	波状口縁,口縁部内外に沈線文,S51横線30図60	弥生中期前葉
図143-26	19	11-117	弥生土器	鉢	6刷	-	-	-	山形の沈線文,体部上半縄文LR,赤色顔料付着,S51横線30図61	弥生中期前葉
図143-27	19	11-118	弥生土器	鉢か	6刷	-	-	-	沈線文,縄文LR,S51横線30図62	弥生中期
図143-28	19	11-120	弥生土器	鉢	6刷	-	-	-	山形の沈線文,S51横線30図64	弥生中期
図143-29	19	11-121	弥生土器	鉢	6刷	-	-	-	山形の沈線文,S51横線30図65	弥生中期
図143-30	19	11-122	弥生土器	鉢	6刷	-	-	-	山形の沈線文,赤色顔料付着,S51横線30図66	弥生中期
図143-31	19	11-123	弥生土器	鉢	6刷	-	-	-	変形工字文と刷突,口唇部縄文LR,S51横線30図67	弥生中期中葉
図143-32	19	11-124	弥生土器	鉢	6刷	-	-	-	変形工字文と刷突,S51横線30図68	弥生中期中葉
図143-33	19	11-125	弥生土器	不明	6刷	-	-	-	変形工字文・刷突,S51横線30図69	弥生中期中葉
図143-34	19	11-126	弥生土器	鉢	6刷	-	-	-	変形工字文,縄文LR,S51横線30図70	弥生中期
図143-35	19	11-127	弥生土器	鉢	6刷	-	-	-	変形工字文,口縁部内面沈線文,赤色顔料付着,S51横線30図71	弥生中期
図143-36	19	11-128	弥生土器	鉢	6刷	-	-	-	変形工字文,S51横線30図72	弥生中期
図143-37	19	11-129	弥生土器	鉢	6刷	-	-	-	変形工字文・刷突,赤色顔料付着,S51横線30図73	弥生中期前葉
図143-38	19	11-130	弥生土器	鉢	6刷	-	-	-	変形工字文,沈線太い,口唇部縄文LR,口縁部内面沈線,S51横線30図74	弥生中期前葉
図143-39	19	11-131	弥生土器	鉢	6刷	-	-	-	沈線で三角状に区画し,縄文LR充填,区画外磨消し,S51横線30図75	弥生中期中葉
図143-40	19	11-134	弥生土器	不明	6刷	-	-	-	沈線で帯状に区画し,縄文LR充填,区画外磨消し,S51横線30図78	弥生中期前葉
図143-41	19	11-135	弥生土器	壺か甕	6刷	-	-	-	外面平行沈線と帯状の沈線文,縄文LR区画内に充填か磨消し,内面ミガキ調整,赤色顔料,埋付着,S51横線30図79	弥生中期前葉
図143-42	19	11-138	弥生土器	鉢	6刷	-	-	-	山形の沈線文,縄文LR,S51横線30図82	弥生中期

表72 先史時代遺物一覧(3)  
弥生時代遺物(3)

図版番号	次数	遺物番号	種別	器種	出土地点・層位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	調整技法等	時期
図13-43	19	11-140	弥生土器	鉢	6層	-	-	-	平行・斜行の沈線文と刺突,SS1,横溝30図84	弥生中期
図13-44	19	11-141	弥生土器	鉢	6層	-	-	-	外面へく目調整,平行沈線と山形文,体部下半横文L,R,内面ミガキ調整,SS1,横溝30図85	弥生中期前葉
図13-45	66	6-784	弥生土器	不明	3層	-	-	7.3	外面底部立ち,上の口へく目調整,横文L,R	弥生
図13-46	66	6-785	弥生土器	不明	3層	-	-	-	沈線区画内磨消し,口縁部内外面に沈線,横文L,R	弥生
図13-47	66	6-786	弥生土器	鉢	3層	-	-	-	沈線区画内磨消し,口縁部内外面に沈線,横文L,R	弥生中期
図13-48	66	6-787	弥生土器	鉢	3層	-	-	-	沈線区画内磨消し,口縁部内外面に沈線,口縁部刻みのある突起,横文L,R	弥生中期
図13-49	66	6-790	弥生土器	鉢	3層	-	-	-	外面縦方向・内面横方向のへく目	弥生
図13-50	66	6-791	弥生土器	鉢	3層	-	-	-	外面斜方向・内面横方向のへく目	弥生
図14-1	70	7-224	弥生土器	鉢	1層	-	-	-	数条の沈線による文様,横文	弥生中期
図14-2	92A	9-067	弥生土器	鉢	A区,2層	-	-	-	外面上半の平行沈線間に2条一組の山形沈線文	弥生
図14-3	92A	9-073	弥生土器	鉢	A区,1層	-	-	-	変形工字文,口縁部横文L,R,横文L,R	弥生中期
図14-4	92A	9-079	弥生土器	鉢	A区,8層	-	-	-	変形工字文,内面平行沈線文,外面沈線内赤彩	弥生中期中葉
図14-5	92A	9-080	弥生土器	壺	A区,8層	-	-	-	外面曲線状の沈線による区画に磨消帯,横文	弥生中期か
図14-6	92A	9-081	弥生土器	鉢	A区,8層	-	-	-	横文L,R,外面赤彩	弥生
図14-7	102	9-930	弥生土器	甕	SG2249埋土	-	-	-	外面曲線文	弥生中期
図14-8	102	9-931	弥生土器	鉢	SG2249埋土	-	-	-	外面頸部重変形文,山形で頂部と口縁部端面に刻み,横文L,R	弥生中期後半
図14-9	102	9-932	弥生土器	甕	SG2249埋土	-	-	-	外面横走沈線と内弧文,全面ミガキ調整	弥生中期
図14-10	102	9-947	弥生土器	高坪	B層	-	-	11.0	外面横走L,Rを施文,脚部平行沈線と列点文,平行沈線部に磨消し,内面丁半ミガキ調整	弥生前葉
図14-11	102	9-948	弥生土器	鉢	B層	-	-	-	波状文様,横文L,R	弥生中期
図14-12	104	10-025	弥生土器	壺	I層	-	-	-	遠近川糸土器,外面ミガキ調整	弥生前葉
図14-13	105A	10-073	弥生土器	鉢	A区,Ⅲ-3層	-	-	-	外面横走沈線,横文L,R,内面へく目調整	弥生
図14-14	105A	10-074	弥生土器	鉢	A区,Ⅲ-3層	-	-	-	外面3条の横走沈線,横文L,R,内面へく目調整	弥生
図14-15	105A	10-076	弥生土器	鉢	A区,Ⅰ層	-	-	-	重変形文	弥生中期後葉
図14-16	105A	10-077	弥生土器	鉢	A区,Ⅰ層	-	-	-	外面へく目調整後,横文L,R,	弥生
図14-17	105D	10-127	弥生土器	甕	D区,Ⅰ-1層	-	-	-	内面屈状付着物	弥生
図14-18	105E	10-133	弥生土器	甕	E区,Ⅰ層	-	-	-	外面口縁部1条の横走沈線,頸部3条の横走沈線と列点文,口縁部から頸部にへく目調整,体部へく目調整後,横文L,R,内面ミガキ調整	弥生中期前葉
図14-19	105E	10-134	弥生土器	壺	E区,Ⅰ層	-	-	-	外面口縁部2条,頸部3条の沈線,頸部沈線に朱付着,頸部ミガキ調整,内面ミガキ調整	弥生中期中葉
図14-20	106A	10-159	弥生土器	鉢	A区,Ⅰ層	-	-	-	波状口縁,口縁部外反,外面変形工字文と列点文,細線化された沈線	弥生中期中葉
図14-21	106B	10-164	弥生土器	鉢	B区,Ⅰ層	-	-	-	口縁部3条の沈線を一単位とした連弧文,へく目調整	弥生中期中葉
図14-22	106B	10-165	弥生土器	鉢	B区,Ⅰ層	-	-	-	口縁部外面3条の横走沈線,横文L,R,内面3条の横走沈線	弥生中期中葉
図14-23	106B	10-166	弥生土器	鉢	B区,Ⅰ層	-	-	-	波状口縁,口縁部内外面に2条の沈線を一単位とした連弧文,外面口縁部横文L,R	弥生中期中葉
図14-24	106B	10-167	弥生土器	鉢	B区,Ⅰ層	-	-	-	横文L,R施文後,変形文を施,変形文の間に刺突文	弥生中期中葉
図14-25	106B	10-168	弥生土器	甕	B区,Ⅰ層	-	-	-	口縁部外面に横文L,R縦方向のへく目調整後,1条の横走沈線	弥生中期中葉
図14-26	106B	10-169	弥生土器	壺	B区,Ⅰ層	-	-	-	頸部外面2条の沈線,ミガキ調整,内面へく目調整後,ミガキ調整	弥生前葉
図14-27	106B	10-170	弥生土器	壺	B区,Ⅰ層	-	-	-	外面変形の区画に充填横文L,R	弥生中期中葉
図14-28	106B	10-171	弥生土器	壺	B区,Ⅰ層	-	-	-	外面2条の沈線,内外面横方向のミガキ調整	弥生前葉~中期
図14-29	106B	10-174	弥生土器	甕	B区,覆瓦	15.0	-	-	外面横走L,R施文後,縦方向のへく目調整,横方向のミガキ調整,3条の横走沈線,内面横方向のへく目調整後,横方向のミガキ調整	弥生中期中葉
図14-30	106B	10-176	弥生土器	鉢	B区,Ⅱ-2層	-	-	-	外面重変形文	弥生中期後葉
図14-31	106B	10-177	弥生土器	鉢	B区,Ⅱ-2層	-	-	6.6	外面横文L,R,内面へく目調整	弥生
図14-32	106B	10-178	弥生土器	壺	B区,Ⅱ-2層	-	-	-	外面2条の沈線,ミガキ調整,内面横方向のへく目調整	弥生中期後葉
図14-33	106D	10-204	弥生土器	壺	D区,Ⅰ層	-	-	-	変形工字文,横文L,R	弥生中期前葉
図14-34	108	10-527	弥生土器	鉢	Ⅳ層	-	-	-	変形工字文	弥生
図14-35	111	10-620	弥生土器	甕	覆瓦	-	-	-	横文L,R	弥生
図14-36	115	10-850	弥生土器	鉢	覆瓦	-	-	4.8	底部本葉部,体部上半に2条の横走沈線と列点文,横文L,R	弥生中期前葉
図14-37	117A	10-969	弥生土器	鉢	A区,Ⅱ層	-	-	-	外面変形工字文	弥生中期
図14-38	117B	10-979	弥生土器	甕	B区,Ⅰ-1層	-	-	-	横走沈線と列点文	弥生中期前葉~中葉
図14-39	117B	10-980	弥生土器	甕	B区,Ⅰ-1層	-	-	-	外面頸部縦方向へく目調整後,横走沈線,口縁部横文L,R,内面ミガキ調整	弥生中期前葉~中葉
図14-40	117B	10-981	弥生土器	壺	B区,Ⅰ-1層	-	-	-	沈線で区画する文様	弥生中期前半
図14-41	117B	10-984	弥生土器	甕	B区,Ⅲ-3層	-	-	-	横文L,R	弥生



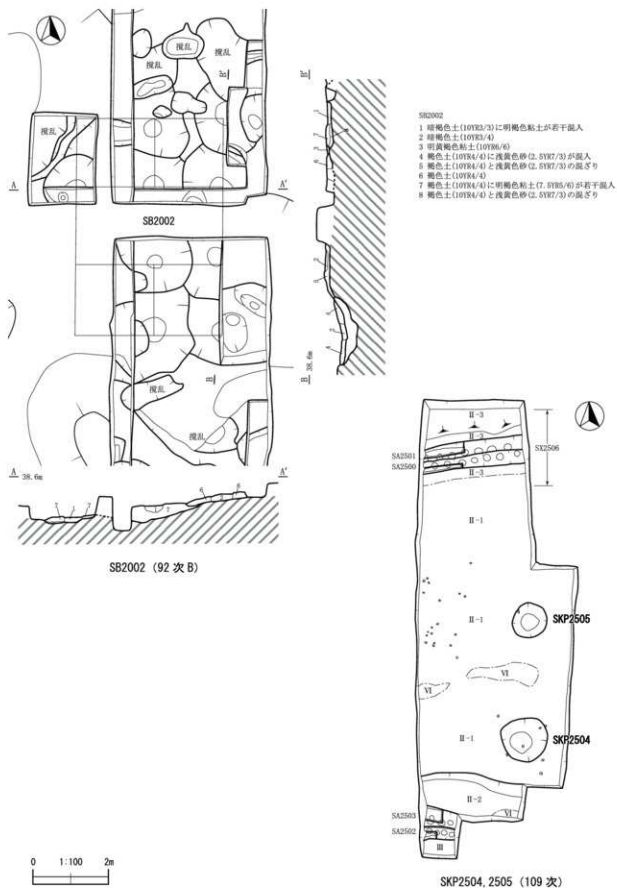
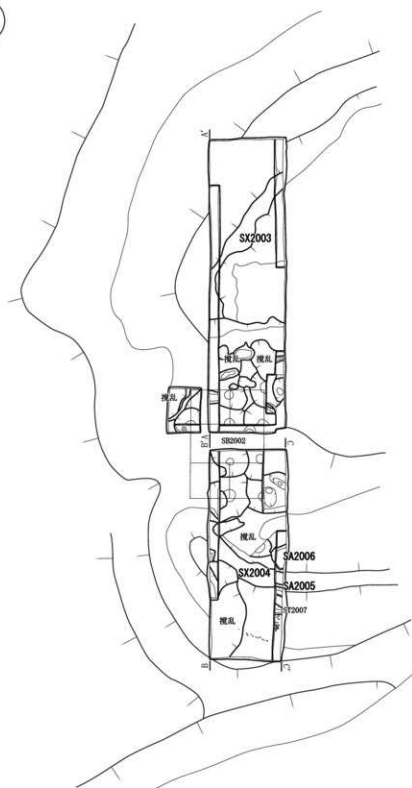


図 146 中世掘立柱建物跡 (SB2002 掘立柱建物跡、SKP2504, 2505 柱掘り方)



SX2003, 2004, SA2005, 2006 (92次B)

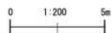
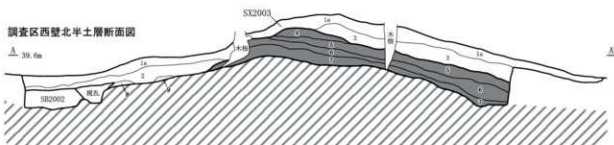


図 147 中世区画施設①(SX2003, 2004 土塁跡、SA2005, 2006 材木堀跡)



## SX2003

- 1a : 1層(表土)暗褐色土(T. 5YR3/4)と褐色土(T. 5YR4/6)の混ざり  
 1b : 1層(表土)褐色土(T. 5YR4/2)に明黄褐色砂(10YR6/8)が混じる  
 2 : 2層(造成土)黄褐色砂質土(10YR5/6)  
 3 : 3層(土盛土)黒褐色土(10YR2/2)

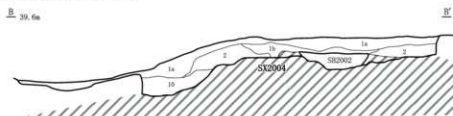
## その他埋積層

- 8 明黄褐色砂(10YR6/6)に褐色土(10YR4/4)が混じる  
 9 明褐色砂(T. 5YR5/8)  
 10 褐色土(T. 5YR4/6)に明黄褐色砂(10YR6/6)が混じる

## SX2003盛土

- 4 にぶい\*褐色土(T. 5YR5/4)と灰褐色土(T. 5YR4/2)の混ざり  
 5 明褐色砂質土(T. 5YR5/8)  
 6 明褐色土(T. 5YR5/8)と黄褐色土(10YR5/6)の混ざり  
 7 明褐色粘土(T. 5YR5/6)

## 調査区西壁南半土層断面図



## 調査区東壁南半土層断面図



## SX2004

- 1 : 1層(表土)暗褐色土(T. 5YR3/4)と褐色土(T. 5YR4/6)の混ざり  
 2a : 2層(造成土)黄褐色砂質土(10YR5/6)  
 2b : 2層(造成土)黄褐色砂(10YR5/8)  
 2c : 2層(造成土)褐色土(T. 5YR4/4)に黄褐色砂(10YR5/8)が混じる

## SA2005

- 1 黄褐色砂質土(10YR5/6)に褐色土(10YR4/4)が混じる  
 SA2006  
 1 黄褐色土(10YR5/6)

## SX2004盛土

- 6 にぶい\*褐色土(T. 5YR5/4)と灰褐色土(T. 5YR4/2)の混ざり  
 6 明褐色土(T. 5YR5/8)と黄褐色土(10YR5/6)の混ざり  
 7 にぶい\*黄褐色土(10YR4/2)に暗褐色土(10YR3/4)が混じる  
 8 暗褐色土(10YR3/4)  
 9 黄褐色砂質土(10YR5/6)

SX2003, 2004, SA2005, 2006 (92次B)

土壁盛土



図 148 中世区画施設②(SX2003, 2004 土壁跡、SA2005, 2006 材木堀跡)

VI その他の時代の検出遺構と出土遺物

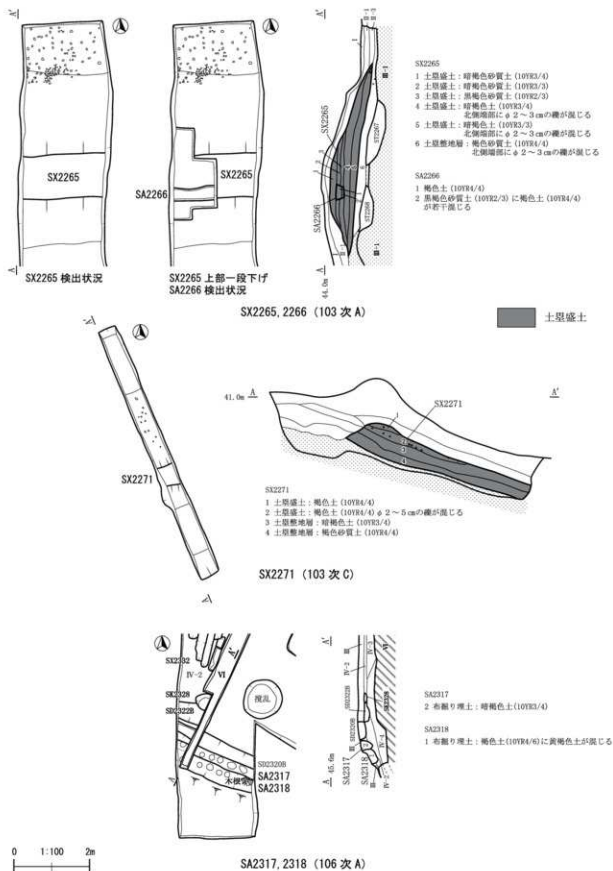
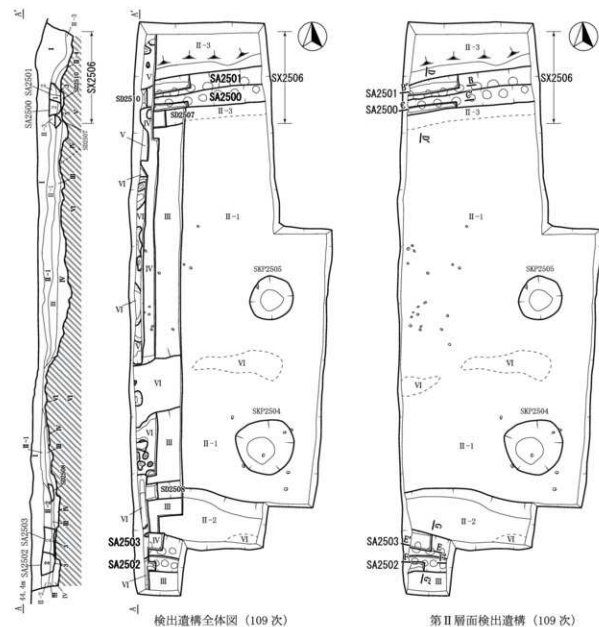


図 149 中世区画施設③(SX2265, 2266, 2271 土塁跡、SA2317, 2318 材木塚跡)





VI その他の時代の検出遺構と出土遺物



SA2500 ~ 2503, SX2506 (109次)

SA2501, 2500

- 1 抜き取り埋土：暗褐色土(10YR3/4)
- 2 布張り埋土：褐色粘質土(10YR4/6)
- 3 布張り埋土：褐色粘質土(10YR4/4)

SA2503

- 1 抜き取り埋土：暗褐色土(10YR3/4)
- 2 布張り埋土：にぶい黄褐色土(10YR4/3)に黄褐色粘土・フロック(10YR3/6)が若干混じる(壁断面のみ)あり
- 3 布張り埋土：褐色粘質土(10YR4/6)

SA2502

- 1 抜き取り埋土：暗褐色土(10YR3/4)
- 2 布張り埋土：にぶい黄褐色土(10YR4/3) (壁断面のみ)あり
- 3 布張り埋土：褐色粘質土(10YR4/6)

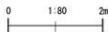


図 151 中世区画施設⑤(SA2500 ~ 2503 材木屏跡、SX2506 土塁跡)



VI その他の時代の検出遺構と出土遺物

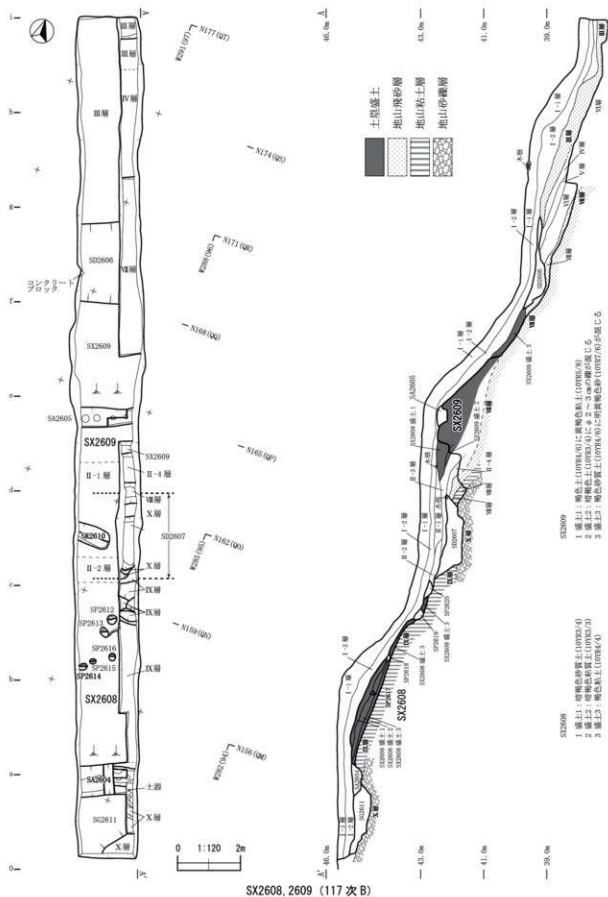
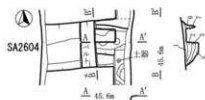


図 153 中世区画施設⑦ (SX2608, 2609 土器跡)



SA2604 (117次B)

SA2604

- 1 埋土：灰黄褐色砂質土(10YR4/2)
- 2 抜き取り埋土：暗褐色粘質土(10YR3/4)に黄褐色粘土(10YR5/8)が混じる
- 3 抜き取り埋土：暗褐色土(10YR3/4)に黄褐色土(10YR5/8)と褐色粘土(10YR4/4)が混じる
- 4 抜き取り埋土：にぶい黄褐色土(10YR4/3)
- 5 柱廻り方埋土：暗褐色土(10YR3/2)
- 6 柱廻り方埋土：黄褐色粘質土(10YR5/6)
- 7 柱廻り方埋土：黄褐色粘質土(10YR5/6)に暗褐色土(10YR3/4)が若干混じる



SA2605 (117次B)

SA2605

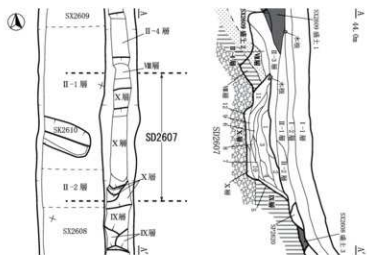
- 1 抜き取り埋土：暗褐色砂質土(10YR3/4)
- 2 掘り方埋土：暗褐色土(10YR3/4)
- 3 掘り方埋土：にぶい黄褐色砂質土(10YR4/3)



SD2606 (117次B)

SD2606

- 1 暗褐色砂質土(10YR3/4)
- 2 暗褐色砂質土(10YR3/4)に褐色砂質土(10YR4/6)が混じる
- 3 褐色砂質土(10YR4/6)に暗褐色砂質土(10YR3/4)が混じる
- 4 褐色砂質土(10YR4/6)
- 5 明黄褐色砂(10YR7/8)に褐色砂質土(10YR4/6)が混じる



SD2607 (117次B)

SD2607

- 1 埋め立て土：黄褐色粘質土(10YR5/8)
- 2 埋め立て土：暗褐色砂質土(10YR3/4)
- 3 埋め立て土：褐色砂質土(10YR4/4)
- 4 埋め立て土：暗褐色粘質土(10YR3/4)
- 5 自然堆積層：黄褐色粘質土(10YR5/8)
- 6 自然堆積層：褐色砂質土(10YR4/4)
- 7 自然堆積層：暗褐色砂質土(10YR3/4)
- 8 自然堆積層：黒褐色砂質土(10YR3/4)
- 9 自然堆積層：暗褐色砂質土(10YR3/4)
- 10 自然堆積層：暗褐色砂質土(10YR4/6)
- 11 築地層：黄褐色粘質土(10YR5/8)にφ1~2cmの礫が混じる
- 12 築地層：褐色砂質土(10YR4/6)にφ1~2cmの礫が混じる

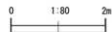


図154 中世区画施設⑧(SA2604, 2605 材木堀跡、SD2606, 2607 溝跡)

VI その他の時代の検出遺構と出土遺物

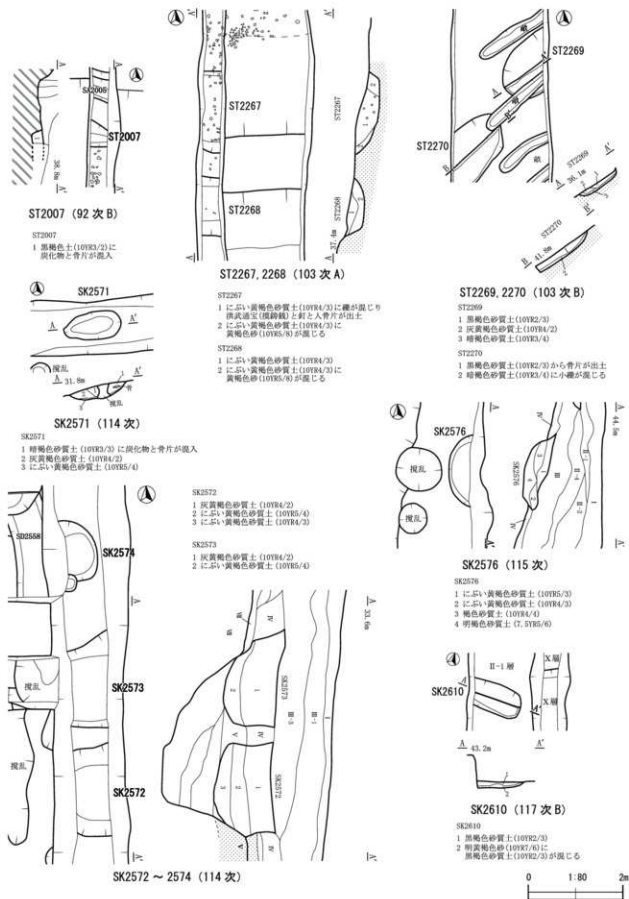


図 155 中世火葬墓・土坑墓 (ST2007, 2267 ~ 2270, SK2571 ~ 2574 火葬墓、SK2576, 2610 土坑)

表73 中世掘立柱建物跡遺構属性一覧

図No.	調査 次数	遺構 番号	種別	位置・ 層位	規模	構造	方位	柱間の方	柱筋跡	重複 関係	備考	検出層位 の年代	出土遺物 の年代	遺構分類 時期
図146	92B	SB2002	掘立柱建物跡 (八脚門)	B区,7層	桁行3間5.7m(東から 北から1.8×2.1×1.8) ×梁間2間(北から 2列目西から 2.1×1.8)	南北棟 掘立柱 建物跡 八脚門	真北	直径1.4 ~2.0mの ゆがんだ 円形,深さ 18~35cm	直径45 ~50cm			16C後半	16C 後半か	中世2期 16世紀半
図146	109	SKP2504	柱廻り方	II-1層	直径90cm,円形						建物かどうか 不明	14C~ 15C代	中世後期	中世1期 14C~ 15C代
図146	109	SKP2505	柱廻り方	II-1層	直径120cm,円形						建物かどうか 不明	14C~ 15C代	中世1期 14C~ 15C代	中世1期 14C~ 15C代

表74 中世区画施設属性一覧(1)

図No.	調査 次数	遺構 番号	種別	位置・ 層位	規模	構造	方位	柱筋跡	重複 関係	備考	検出層位 の年代	出土遺物 の年代	遺構分類 時期	
図147 ・148	92B	SX2003	土塁跡	8層	基底幅1.05m,上 面幅1.0m,比高 差150cm前後	20~30cmの盛 土を積み上げ 構築,盛土に は新旧2時期 あり	SB2002 付近 N10° W, 屈曲後 N52° E			SB2002北 側,台地掘 部,新旧2時 期あり	8C②以前	中世	中世2期 中世	
図147 ・148	92B	SX2004	土塁跡	8層	基底幅4.0m前 後,上面幅1.0m, 比高差120cm前 後	20~30cmの盛 土を積み上げ 構築,盛土に は新旧2時期 あり	SB2002 付近 S42° E, 屈曲後具 東		ST3007→ →SA2005 ・SA2006	SB2002南 側,台地掘 部,新旧2時 期あり	8C②以前	16C 後半か	中世2期 16C後半	
図147 ・148	92B	SA2005	材木 堀跡	SX2004 土塁上	布張り溝下幅40 cm,上面150cm, 深さ110cm以上	溝内に間隔を あけて材木を 立て並べた柱 列跡		直径 21cm	SX2004→	SB2002南 側,台地掘 部	16C 後半か		中世2期 16C後半以 降(16C後半 のSX2004よ り新しい)	
図147 ・148	92B	SA2006	材木 堀跡	SX2004 土塁上	布張り溝150cm, 深さ40cm以上, 断面U字状	溝内に間隔を あけて材木を 立て並べた柱 列跡		直径 22cm	SX2004→	SB2002南 側,台地掘 部,釘出土	16C 後半か	16C 後半か	中世2期 16C後半	
図149	103	SX2265	土塁跡	A区, III-1層	基底幅4.8m,上 面で幅1.5m,土 塁北面平坦部 の比高差1.2m	東西方向,5 ~15cmの盛土 を縦横状に積 んでいる,土塁 南側は旧表土 が露出し,空 堀状となる	E1° S		ST2267・ 2268→	台地掘部, 北側		古代末~ 中世?	中世	中世2期 16C後半以 降(16C後半 のST2267よ り新しい)
図149	103	SA2266	材木 堀跡	A区, SX2265 土塁上	布張り溝,上面 40cm,下面25cm 深さ20cm,断面 U字状	東西方向,布 張りを伴う材 木堀	E1° S	不明	ST2267・ 2268→	台地掘部, 北側		中世	中世2期 16C後半以 降(16C後半 のST2267よ り新しい)	
図149	103	SX2271	土塁跡	C区, III-1層	基底幅3.2m,上 面で幅0.6m北 側平坦部との 比高差1.0m	東西方向,10 ~20cmの盛土 を縦横状に積 んでいる	E16° N			台地掘部, 北側		古代末~ 中世?		中世2期 16C後半以 降(16C後半 のST2267よ り新しい)
図149	106A	SA2317	材木 堀跡	A区, III層	布張り溝幅15 cm,深さ30cm,長 さ2.1m以上,断 面U字状	東西方向,布 張りを伴う材 木堀	W22° 北	直径 10~15 cm	SD2232B→ →SA2318	台地上,南 側,古段跡	8C①~ 9C前半		中世1期 8C③以降	
図149	106A	SA2318	材木 堀跡	A区, III層	布張り溝幅20 cm,深さ30cm,長 さ2.1m以上,断 面U字状	東西方向,布 張りを伴う材 木堀	W22° 北	直径 12cm	SA2317→	台地上,南 側,新段跡	8C①~ 9C前半		中世1期 8C③以降	
図150	106B	SA2335	材木 堀跡	B区, III-1層	布張り溝幅20 cm,深さ10cm,長 さ3.0m以上,断 面U字状	東西方向,布 張りを伴う材 木堀	W20° S	直径 8~12 cm	SX2350→	台地上,北 側		中世?	中世1期 中世?	
図150	106B	SA2336	材木 堀跡	B区, III-1層	布張り溝幅40 cm,深さ10cm,長 さ3.0m以上,断 面U字状	東西方向,布 張りを伴う材 木堀	W19° S	直径 10~12 cm	SX2350→	台地上,北 側		中世?	中世1期 中世?	
図150	106B	SA2337	材木 堀跡	B区, III-2層	布張り溝幅25~ 40cm,深さ10cm, 長さ3.2m以上, 断面U字状	東西方向,布 張りを伴う材 木堀	W26° N	直径 15cm	SA2338・ SX2349→	台地上,南 側,新段跡		中世?	中世1期 中世?	

## VI その他の時代の検出遺構と出土遺物

表75 中世区画施設属性一覧(2)

図No.	調査 次数	遺構 番号	種別	位置・ 層位	規模	構造	方位	柱間隔	重複関係	備考	検出層位 の年代	出土遺物 の年代	遺構分類 時期
図150	1060	SA2338	材木 明跡	B区, IV-1層	布製の溝幅25~ 40cm,深さ15cm, 長さ3.2m以上, 断面U字状	東西方向,布 製の溝を伴う 材木跡	W27° N	直径8 cm	→SX2349→ →SA2337	台地上,南 側,古段階	8C2中?	13C末~ 14C中葉	中世1期 13C末~ 14C中葉
図150	1060	SD2341	溝跡	B区, III-1・IV -2層	幅60~80cm,深 さ35cm,長さ3.0m 以上		W15° S		SD2340・ SD2343・ SX2350→	台地上,北 側	中世?	弥生	中世1期 中世?
図150	1060	SD2342	溝跡	B区, III-2・IV -1層	幅50~200cm,深 さ35cm,長さ3.0m 以上		W6° N			台地上,南 側	中世?	中世	中世1期 中世?
図150	1060	SX2350	土塁跡	B区, V層	基底幅1.6m以 上,厚さ50cm以 上		W15° S		→SA2335・ SA2336・ SD2341	台地上,北 側	8C以前		中世1期
図151	109	SA2500	材木 明跡	II-3層 (SX2505 土塁上)	布製の溝幅30~ 38cm,深さ20cm, 長さ2.6m以上, 断面U字状	東西方向,右 側の溝を伴う 材木跡	W8° S	直径 12~13 cm	SA2501→	台地上,北 側,新段階	14C~ 15C後半		中世1期 14C~15C 後半
図151	109	SA2501	材木 明跡	II-3層 (SX2505 土塁上)	布製の溝幅40 cm,深さ20cm,長 さ2.6m以上,断 面U字状	東西方向,右 側の溝を伴う 材木跡	W9° S	直径 10~13 cm	→SA2500	台地上,北 側,古段階	14C~ 15C後半		中世1期 14C~15C 後半
図151	109	SA2502	材木 明跡	II-2層	布製の溝幅30 cm,深さ15cm,長 さ3.8m以上,断 面U字状	東西方向,右 側の溝を伴う 材木跡	W9° N	直径 12cm	SA2503→	台地上,南 側,新段階	14C~ 15C後半		中世1期 14C~15C 後半
図151	109	SA2503	材木 明跡	II-2層	布製の溝幅40~ 50cm,深さ15cm, 長さ1.6m以上, 断面U字状	東西方向,右 側の溝を伴う 材木跡	W10° N	直径 10cm	→SA2502	台地上,南 側,古段階	14C~ 15C後半		中世1期 14C~15C 後半
図151	109	SX2506	土塁跡	V層	基底幅1.4m以 上,盛土層10~ 20cm		W8° S		→SA2500 ・SA2501 SD2507→	台地上,北 側	8C2以前		中世1期
図152	117A	SA2600	材木 明跡	A区, IV層	布製の溝幅25~ 35cm,深さ30cm, 長さ2m以上,断 面U字状	東西方向,右 側の溝を伴う 材木跡	W4° N	直径 12cm	→SD2601	台地縁辺, 古段階	8C2以前		中世1期
図152	117A	SD2601	溝跡	A区, IV層	幅1.5m,深さ20 cm,長さ2m以上, 断面直状	東西方向	W2° N		SA2600→	台地縁辺, 新段階	8C2以前	13C末~ 14C中葉	中世1期 13C末~ 14C中葉
図152	117A	SX2602	切岸状 遺構	A区, IV層	幅5mに達して 削平し,急斜面 を形成している	東西方向 斜面の角度は 約40°				台地裾部, 南側,117次 A区田圃が 遺構埋土	8C2以前	16C	中世2期 16C
図153 ・154	117B	SA2604	材木 明跡	B区, SX2608 土塁上	布製の溝幅100 cm,深さ35cm,長 さ2m以上	東西方向,右 側の溝を伴う 材木跡	W20° S	直径 15cm	SX2606・ SG2611→	釘出土,台 地上,北側			中世1期
図153 ・154	117B	SA2605	材木 明跡	B区, SX2605 土塁上	布製の溝幅50~ 60cm,深さ15cm, 長さ2m以上	東西方向,右 側の溝を伴う 材木跡	W20° S	直径9 cm	SX2609→	台地裾部, 北側			中世2期
図153 ・154	117B	SD2606	溝跡	B区, III層	幅2.5m,深さ45 cm,長さ2m以上, 断面幅広い半 円形	東西方向	W20° S		SX2609→	台地裾部, 北側	古代末~ 中世?	16C 後半?	中世2期 16C後半?
図153 ・154	117B	SD2607	溝跡	B区,II 4・IX層	幅2.4m,深さ60 cm,断面逆台形 状	東西方向	W20° S			台地縁辺, 北側	14C~ 15C?	弥生	中世1期 14C~15C?
図153	117B	SX2608	土塁跡	B区, IX層	基底幅12.5m, 盛土層40cm以 上	東西方向	W20° S		→SA2604	台地上,北 側	8C2以前		中世1期
図153	117B	SX2609	土塁跡	B区,II 3・VIII層	基底幅12.7m, 盛土層40cm以 上	東西方向	W20° S		→SA2605	台地裾部, 北側	16C後半?		中世2期 16C後半?



表76 中世火葬墓・土坑遺構属性一覧

図No.	調査 次数	遺構 番号	種類	位置・ 層位	規模	方位	重複関係	備考	検出層位 の年代	出土遺物の 年代	遺構分類 時期
図155	92B	ST2007	火葬墓	8層	東西50cm以上、南北60cm以上、深さ30cm以上、平面形状不明		→SX2004	人骨片出土、埋土に焼土・炭化物を含む	8C以前		中世2期
図155	103	ST2267	火葬墓	A区、 Ⅱ-1層	東西不明、南北1.7m、深さ45cm		→SX2265・ SA2266	人骨片・銭貨・釘出土、SX2265土層跡直下で検出、埋土に若干の炭化物	古代末～ 中世?	16C後 半か	中世2期 16C後半か
図155	103	ST2268	火葬墓	A区、 Ⅱ-1層	東西不明、南北1.2m、深さ34cm		→SX2265・ SA2266	SX2265土層跡直下で検出、埋土に若干の炭化物	古代末～ 中世?		中世2期
図155	103	ST2269	火葬墓	B区、 Ⅱ-1層	長軸1.5m以上×短軸1.0m以上、深さ12cm、楕円形	長軸 N54° E		埋土に若干の炭化物	古代末～ 中世?	16C 後半か	中世2期 16C後半か
図155	103	ST2270	火葬墓	B区、 Ⅱ-1層	長軸1.7m以上×短軸1.1m、深さ16cm、楕円形	長軸 N50° E		人骨片出土、埋土に若干の炭化物	古代末～ 中世?		中世2期
図155	114	SK2571	火葬墓	Ⅳ層	長軸1.2m×短軸60cm、深さ30cm、楕円形			人骨片出土	14C～ 16C後半		中世2期 14C～16C 後半
図155	114	SK2572	火葬墓	Ⅳ層	長軸1.9m×短軸1.2m以上、深さ1.2m、楕円形			釘、銭貨、人骨片出土	14C～ 16C後半	16C後半 ～17C初	中世2期 16C後半か ～17C初
図155	114	SK2573	火葬墓	Ⅳ層	長軸1.9m×短軸1.2m以上、深さ1.2m、楕円形			銭貨、木製品(木箱か)、人骨片出土	14C～ 16C後半	16C 後半か	中世2期 16C後半か
図155	114	SK2574	火葬墓	Ⅳ層	長軸1.2m×短軸60cm以上、深さ40cm、楕円形			人骨片出土	14C～ 16C後半	16C 後半か	中世2期 16C後半か
図155	115	SK2576	土坑	Ⅳ層	長軸1.5m×短軸0.4m以上、深さ48cm、楕円形				14C～ 16C後半	14C～ 16C後半	中世2期 16C後半
図155	117B	SK2610	土坑	B区、 Ⅱ-1層	長軸1.0m×短軸60cm、深さ20cm	長軸 N90° E			16C末～ 17C初		中世2期 16C末～ 17C初

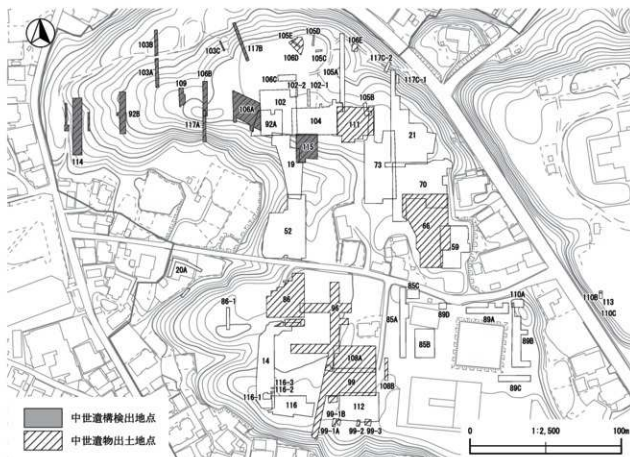


図156 中世遺構検出地点と中世遺物出土地点

VI その他の時代の検出遺構と出土遺物

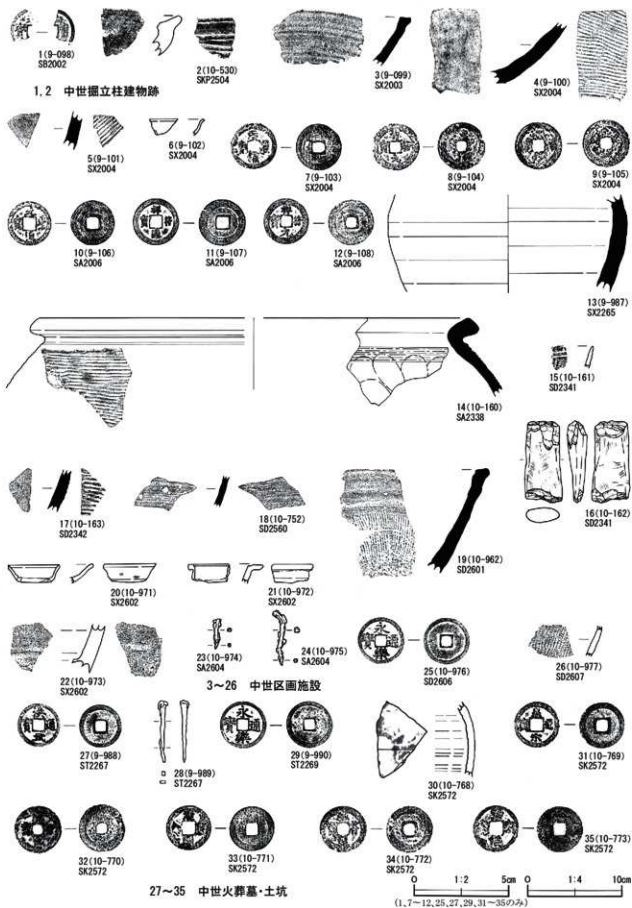


図157 中世遺物(1)

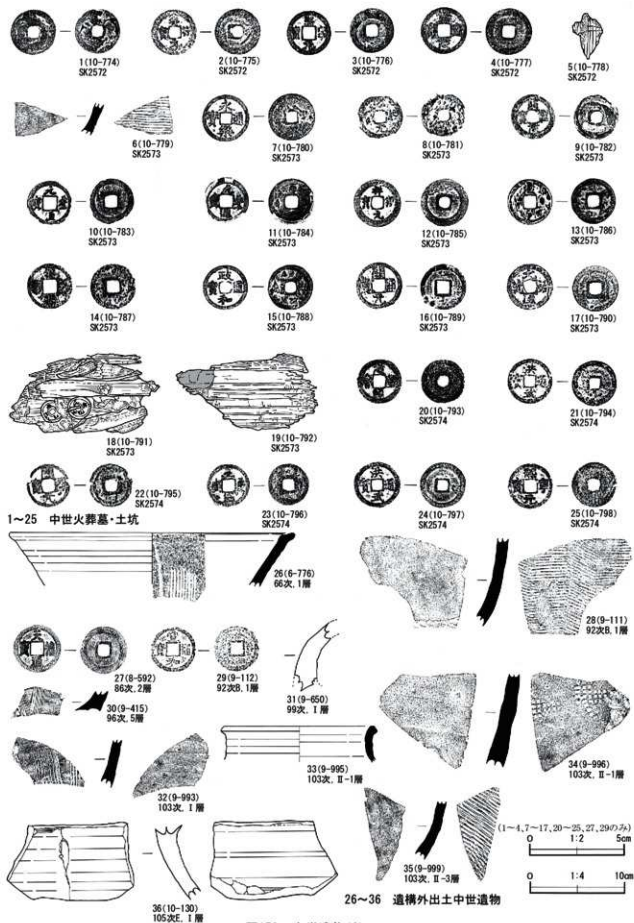
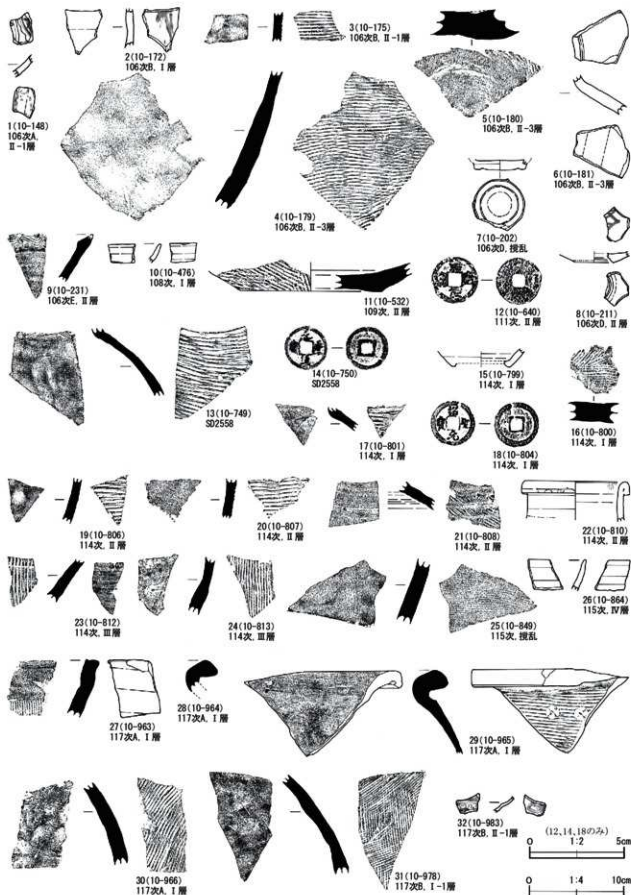


図158 中世遺物(2)

VI その他の時代の検出遺構と出土遺物



1~32 遺構外出土中世遺物

図159 中世遺物(3)

表77 中世遺物一覧(1)  
中世掘立柱建物跡

図版番号	次数	遺物番号	種別	器種	出土地点・層位	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	調整技法等	時期
図157-1	928	9-098	銭貨	永楽通宝	SX2002柱掘り方底部・ぼみ埋土	-	-	-	模範銭。明,初鋳1408年,1/4残存,0.6g	16C後半
図157-2	109	10-530	中世陶器	播鉢	SKP2504掘り方埋土	-	-	-	植前産	中世後期

## 中世区画施設

図版番号	次数	遺物番号	種別	器種	出土地点・層位	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	調整技法等	時期
図157-3	928	9-099	中世陶器	播鉢	SX2003土壇盛土直上	-	-	-	珠洲系,IV期,内面下端部わずかに深く削り目	珠洲IV期,13C末~14C中葉
図157-4	928	9-100	中世陶器	甕	SX2004盛土上層	-	-	-	珠洲系,外面平行印き目,内面無文当て具痕	珠洲IV期,13C末~14C中葉
図157-5	928	9-101	中世陶器	甕	SX2004盛土上層	-	-	-	珠洲系,外面平行印き目,内面無文当て具痕	珠洲IV期,13C末~14C中葉
図157-6	928	9-102	中世陶器	端反皿	SX2004盛土下層	-	-	-	瀬戸・美濃系,灰釉	大室期,16C代
図157-7	928	9-103	銭貨	元豊通宝	SX2004盛土最下層	外径24.6mm	内径6.7mm	厚さ1.4mm	模範銭,北宋,初鋳1078年,2.8g	16C後半
図157-8	928	9-104	銭貨	祥符元宝	SX2004盛土最下層	外径25.5mm	内径5.5mm	厚さ1.4mm	模範銭,北宋,初鋳1009年,3.7g	16C後半
図157-9	928	9-105	銭貨	不明	SX2004盛土最下層	外径25.5mm	内径6.5mm	厚さ1.6mm	模範銭,銭文不明,3.9g	16C後半
図157-10	928	9-106	銭貨	元豊通宝	SA2006布掘り埋土	外径23.8mm	内径6.6mm	厚さ1.4mm	模範銭,北宋,初鋳1078年,2.9g	16C後半
図157-11	928	9-107	銭貨	祥符元宝	SA2006布掘り埋土	外径25.2mm	内径6.2mm	厚さ1.4mm	模範銭,北宋,初鋳1009年,3.6g	16C後半
図157-12	928	9-108	銭貨	祥符元宝	SA2006布掘り埋土	外径24.5mm	内径5.6mm	厚さ1.3mm	模範銭,北宋,初鋳1009年,3.1g	16C後半
図157-13	103	9-967	中世陶器	壺	SX2005盛土	-	-	-	珠洲形,形が種々,体部外面上半に自然輪	珠洲IV期,13C末~14C中葉
図157-14	106B	10-160	中世陶器	大甕	SA2038布掘り埋土	約15	-	-	珠洲系,内面に無文の当て具痕,外面に平行印き目,底部内面にナグ調整	珠洲IV期,13C末~14C中葉
図157-15	106B	10-161	弥生土器	鉢	SD2341埋土	-	-	-	2条の平行比線,編文LR	弥生
図157-16	106B	10-162	石製品	石棒	SD2341埋土	長さ85.4mm	幅39.7mm	厚さ20.7mm	安山岩製,2.3g,両端は破損	弥生
図157-17	106B	10-163	中世陶器	甕	SD2342埋土	-	-	-	珠洲系,内面無文の当て具痕,外面平行印き目	珠洲IV期,13C末~14C中葉
図157-18	114	10-752	中世陶器	壺	SD2560埋土	-	-	-	珠洲系	珠洲IV期,13C末~14C中葉
図157-19	117A	10-902	中世陶器	播鉢	A区,SD2601埋土	-	-	-	珠洲系,内面削り目	珠洲IV期,13C末~14C中葉
図157-20	117A	10-971	中世陶器	丸皿	A区,皿-1層(SX2602埋土)	-	-	-	瀬戸美濃系	大室期,16C
図157-21	117A	10-972	中世陶器	折縁皿	A区,皿-1層(SX2602埋土)	-	-	-	瀬戸美濃系	大室期,16C
図157-22	117A	10-973	中世陶器	壺	A区,皿-1層(SX2602埋土)	-	-	-	珠洲系	珠洲IV期,13C末~14C中葉
図157-23	117B	10-974	鉄製品	釘	BIX,SA2604抜き取り埋土	長さ31.7mm	幅8.2mm	厚さ6.4mm	-	-
図157-24	117B	10-975	鉄製品	釘	BIX,SA2604抜き取り埋土	長さ57.6mm	幅12.3mm	厚さ6.3mm	-	-
図157-25	117B	10-976	銭貨	永楽通宝	BIX,SD2606埋土	外径24.0mm	内径5.5mm	厚さ1.0mm	模範銭,明,初鋳1408年,重量3.1g	16C後半
図157-26	117B	10-977	弥生土器	鉢	BIX,SD2607埋土	-	-	-	体部外面に編文,体部内面にナグ調整	弥生

## 中世火葬墓・土坑①

図版番号	次数	遺物番号	種別	器種	出土地点・層位	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	調整技法等	時期
図157-27	103	9-988	銭貨	洪武通宝	ST2267埋土	外径23.0mm	内径5.8mm	厚さ1.3mm	模範銭,明,初鋳1368年,重量3.0g	16C後半
図157-28	103	9-989	鉄製品	釘	ST2267埋土	-	-	-	先端部折れ	-
図157-29	103	9-990	銭貨	永楽通宝	ST2269埋土	外径23.1mm	内径5.6mm	厚さ1.3mm	本銭,明,初鋳1408年,重量3.5g	16C後半
図157-30	114	10-768	近世陶器	三耳壺	SK2572埋土	-	-	-	肥前系(唐津焼),外面給軸地に黒釉薬塗	肥前1期,16C末~17C初
図157-31	114	10-769	銭貨	皇宋通宝	SK2572埋土	外径24.4mm	内径6.3mm	厚さ1.5mm	模範銭,南宋,初鋳1253年,重量3.5g	16C後半
図157-32	114	10-770	銭貨	祥符元宝	SK2572埋土	外径25.2mm	内径5.5mm	厚さ1.3mm	模範銭,北宋,初鋳1009年,重量3.5g	16C後半
図157-33	114	10-771	銭貨	元豊通宝	SK2572埋土	外径24.1mm	内径6.6mm	厚さ1.6mm	模範銭,北宋,初鋳1078年,重量4.1g	16C後半
図157-34	114	10-772	銭貨	元符通宝	SK2572埋土	外径24.8mm	内径6.2mm	厚さ1.4mm	模範銭,北宋,初鋳1098年,重量3.2g	16C後半

## VI その他の時代の検出遺構と出土遺物

表78 中世遺物一覧(2)  
中世火葬墓・土坑②

図版番号	次数	遺物番号	種別	器種	出土地点・層位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	調整技法等	時期
図157-35	114	10-773	銭貨	熙寧元宝	SK2572埋土	外径 24.3cm 内径 6.9cm 厚さ 1.2mm			模鈔銭,北宋,初鈔1068年,重量3.1g	16C後半a
図158-1	114	10-774	銭貨	不明	SK2572埋土	外径 24.2cm 内径 6.0mm 厚さ 1.1mm			模鈔銭,銭文不明,重量3.4g	16C後半a
図158-2	114	10-775	銭貨	祥符元宝	SK2572埋土	外径 24.5cm 内径 6.0mm 厚さ 1.3mm			模鈔銭,北宋,初鈔1009年,重量3.7g	16C後半a
図158-3	114	10-776	銭貨	熙寧元宝	SK2572埋土	外径 23.7cm 内径 6.4mm 厚さ 1.6mm			模鈔銭,北宋,初鈔1068年,重量3.3g	16C後半a
図158-4	114	10-777	銭貨	熙寧元宝	SK2572埋土	外径 24.9cm 内径 6.6mm 厚さ 1.3mm			模鈔銭,北宋,初鈔1068年,重量3.6g	16C後半a
図158-5	114	10-778	鉄製品	釘	SK2572埋土	-	-	-	木直部付着	
図158-6	114	10-779	中世陶器	甕	SK2573埋土	-	-	-	珠洲系,内面無文の当て具板,外面平行印き板	
図158-7	114	10-780	銭貨	永樂通宝	SK2573埋土	外径 25.2mm 内径 5.7mm 厚さ 1.2mm			模鈔銭,明,初鈔1408年,重量3.1g	16C後半a
図158-8	114	10-781	銭貨	淳熙元宝	SK2573埋土	外径 23.3cm 内径 5.9mm 厚さ 1.2mm			模鈔銭,南宋,初鈔1174年,重量2.4g	16C後半a
図158-9	114	10-782	銭貨	紹聖元宝	SK2573埋土	外径 23.6cm 内径 6.1mm 厚さ 1.4mm			模鈔銭,北宋,初鈔1094年,重量2.1g	16C後半a
図158-10	114	10-783	銭貨	元豊通宝	SK2573埋土	外径 24.0cm 内径 6.7mm 厚さ 1.3mm			模鈔銭,北宋,初鈔1078年,重量2.5g	16C後半a
図158-11	114	10-784	銭貨	元豊通宝	SK2573埋土	外径 23.7mm 内径 6.3mm 厚さ 1.5mm			模鈔銭,北宋,初鈔1078年,重量2.4g	16C後半a
図158-12	114	10-785	銭貨	祥符元宝	SK2573埋土	外径 25.5mm 内径 5.8mm 厚さ 1.0mm			模鈔銭,北宋,初鈔1009年,重量2.7g	16C後半a
図158-13	114	10-786	銭貨	元豊通宝	SK2573埋土	外径 24.2cm 内径 6.6mm 厚さ 1.5mm			模鈔銭,北宋,初鈔1078年,重量3.0g	16C後半a
図158-14	114	10-787	銭貨	紹聖元宝	SK2573埋土	外径 24.3cm 内径 6.9mm 厚さ 1.6mm			模鈔銭,北宋,初鈔1094年,重量2.8g	16C後半a
図158-15	114	10-788	銭貨	政和通宝	SK2573埋土	外径 24.2cm 内径 6.0mm 厚さ 1.4mm			模鈔銭,北宋,初鈔1111年,重量2.2g	16C後半a
図158-16	114	10-789	銭貨	開元通宝	SK2573埋土	外径 24.8cm 内径 6.6mm 厚さ 1.3mm			模鈔銭,唐,初鈔621年,重量2.7g	16C後半a
図158-17	114	10-790	銭貨	元祐通宝	SK2573埋土	外径 25.0cm 内径 6.3mm 厚さ 1.5mm			模鈔銭,北宋,初鈔1086年,重量3.2g	16C後半a
図158-18	114	10-791	木製品	部材	SK2573埋土	-	-	-	木椀の部材a	
図158-19	114	10-792	木製品	部材	SK2573埋土	-	-	-	木椀の部材a	
図158-20	114	10-793	銭貨	元豊通宝	SK2574埋土	外径 23.8cm 内径 6.2mm 厚さ 1.5mm			模鈔銭,北宋,初鈔1078年,重量2.9g	16C後半a
図158-21	114	10-794	銭貨	洪武通宝	SK2574埋土	外径 23.9cm 内径 5.3mm 厚さ 1.9mm			模鈔銭,明,初鈔1368年,重量2.8g	16C後半a
図158-22	114	10-795	銭貨	開元通宝	SK2574埋土	外径 23.0cm 内径 6.5mm 厚さ 1.3mm			模鈔銭,唐,初鈔621年,重量2.2g	16C後半a
図158-23	114	10-796	銭貨	元豊通宝	SK2574埋土	外径 22.4cm 内径 6.4mm 厚さ 1.4mm			模鈔銭,北宋,初鈔1078年,重量2.5g	16C後半a
図158-24	114	10-797	銭貨	洪武通宝	SK2574埋土	外径 24.9cm 内径 5.7mm 厚さ 1.3mm			模鈔銭,明,初鈔1368年,重量2.9g	16C後半a
図158-25	114	10-798	銭貨	熙寧元宝	SK2574埋土	外径 24.4cm 内径 6.4mm 厚さ 1.7mm			模鈔銭,北宋,初鈔1068年,重量3.6g	16C後半a

## 遺構外出土中世遺物①

図版番号	次数	遺物番号	種別	器種	出土地点・層位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	調整技法等	時期
図158-26	66	6-776	中世陶器	播鉢	第1層	29.7	-	-	珠洲系,内面粗い割目	珠洲IV期,13C末~11C中葉
図158-27	86	8-592	銭貨	天禧通宝	第2層	外径 25.6mm 内径 6.5mm 厚さ 1.1mm			模鈔銭,北宋,初鈔1017年,2.6g	16C後半a
図158-28	92b	9-111	中世陶器	甕	B区,1層	-	-	-	珠洲系,外面被杉状の平行印き日,内面無文当て具板	
図158-29	92b	9-112	銭貨	宣和通宝	B区,1層	外径 24.1mm 内径 6.5mm 厚さ 1.3mm			模鈔銭,北宋,初鈔1119年,2.5g	16C後半a
図158-30	96	9-115	中世陶器	播鉢	5層	-	-	-	珠洲系,内面粗い割目	珠洲IV期a
図158-31	99	9-650	中世陶器	甕	1層	-	-	-	磁前産a	
図158-32	103	9-993	中世陶器	播鉢	1層	-	-	-	珠洲系,内面に粗い割目	
図158-33	103	9-995	中世陶器	壺	II-1層	16.0	-	-	珠洲系,蓋R様	
図158-34	103	9-996	中世陶器	甕	II-1層	-	-	-	磁前産,内面十字調整,外面格子目印き板	
図158-35	103	9-999	中世陶器	甕	II-3層	-	-	-	珠洲系,内面無文の当て具板,外面平行印き板	
図158-36	105E	10-130	中世陶器	大甕	B区,1層	-	-	-	炭器系	
図159-1	106A	10-148	中世陶器	甕	A区,II-1層	-	-	-	中国産(漳州窯系),染付皿	16C末~17C初葉

表79 中世遺物一覧(3)  
遺構外出土中世遺物②

図版番号	次数	遺物番号	種別	器種	出土地点・層位	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	調査技法等	時期
図159-2	106B	10-172	中世陶器	瓶子	B区, I層	-	-	-	瀬戸・美濃系, 粘土粒輪組み	古瀬戸前期II～IV期, 13C代
図159-3	106B	10-175	中世陶器	甕	B区, II-1層	-	-	-	珠洲系, 内面無文の当て具瓶, 外面に平行印き瓶	珠洲IV期a
図159-4	106B	10-179	中世陶器	甕	B区, II-3層	-	-	-	珠洲系, 内面無文の当て具瓶, 外面に平行印き瓶	珠洲IV期a
図159-5	106B	10-180	中世陶器	大甕	B区, II-3層	-	-	-	珠洲系, 底面に砂が付着, 体部下端平行印き瓶	珠洲IV～V期, 13C末～15C代
図159-6	106B	10-181	中世陶器	壺	B区, II-3層	-	-	-	国産美濃系	古瀬戸後期III期, 15C前葉
図159-7	106D	10-202	中世陶器	平碗	覆丸	-	-	高台径5.4	瀬戸・美濃系, 高台内の削り込みが浅い輪高台	古瀬戸後期III期, 15C前葉
図159-8	106D	10-211	中世磁器	皿	DK, II層	-	-	4.0	中国産, 蕃笈底, 見込みは「寿」染付a	染付皿C群, 15C後葉～16C前半
図159-9	106E	10-231	中世陶器	播鉢	E区, II層	-	-	-	珠洲系, 口縁部内面に細目状文帯がめぐる	珠洲V期, 14C末～15C中葉
図159-10	108	10-476	中世陶器	皿	I層	-	-	-	美濃系(志野佐a)	珠洲IV～V期, 13C末～15C中葉
図159-11	109	10-532	中世陶器	甕	II層	-	-	-	珠洲系, 底面に砂が付着, 体部下端平行印き瓶	珠洲IV期, 13C末～15C中葉
図159-12	111	10-640	銭貨	熙寧元宝	II層	外径24.4mm	内径6.1mm	厚さ0.9mm	模範銭, 北宋, 初鋳1068年, 重量2.0g	16C後半a
図159-13	114	10-749	中世陶器	甕	SD2558埋土	-	-	-	珠洲系, 外面平行印き瓶, 内面無文の当て具瓶, 近世遺内から出土	16C後半a
図159-14	114	10-750	銭貨	元豊通宝	SD2558埋土	外径23.0mm	内径6.0mm	厚さ1.0mm	模範銭, 北宋, 初鋳1078年, 重量2.3g, 近世遺内から出土	16C後半a
図159-15	114	10-799	中世陶器	皿	I層	-	-	5.6	瀬戸・美濃系, 灰輪小皿, 内外面にオリーブ色の釉施地, 胎略した削り出し高台	珠洲IV期, 13C末～14C中葉
図159-16	114	10-800	中世陶器	播鉢	I層	-	-	-	珠洲系, 内面粗い割目	珠洲IV期, 13C末～14C中葉
図159-17	114	10-801	中世陶器	甕	I層	-	-	-	珠洲系, 内面無文の当て具瓶, 外面平行印き瓶	珠洲IV期, 13C末～14C中葉
図159-18	114	10-804	銭貨	紹聖元宝	I層	外径24.0mm	内径6.3mm	厚さ1.5mm	模範銭, 北宋, 初鋳1094年, 重量3.3g	16C後半a
図159-19	114	10-806	中世陶器	甕	II層	-	-	-	珠洲系, 内面無文の当て具瓶, 外面平行印き瓶	珠洲IV期, 13C末～14C中葉
図159-20	114	10-807	中世陶器	甕	II層	-	-	-	珠洲系, 内面無文の当て具瓶, 外面平行印き瓶	珠洲IV期, 13C末～14C中葉
図159-21	114	10-808	中世陶器	甕	II層	-	-	-	珠洲系, 内面ナデ調整, 外面平行印き瓶	珠洲IV期, 13C末～14C中葉
図159-22	114	10-810	中世陶器	壺	II層	-	-	-	美濃系, 内外面に灰色～緑灰色の自然釉	珠洲IV期, 13C末～14C中葉
図159-23	114	10-812	中世陶器	播鉢	III層	-	-	-	珠洲系, 内面粗い割目	珠洲IV期, 13C末～14C中葉
図159-24	114	10-813	中世陶器	甕	III層	-	-	-	珠洲系, 内面無文の当て具瓶, 外面平行印き瓶	珠洲IV期, 13C末～14C中葉
図159-25	115	10-849	中世陶器	甕	覆丸	-	-	-	珠洲系, 内面無文の当て具瓶, 外面平行印き瓶	珠洲IV期, 13C末～14C中葉
図159-26	115	10-864	中世陶器	平碗	IV層	-	-	-	瀬戸・美濃系, 灰輪	古瀬戸後期IV期, 15C後半
図159-27	117A	10-963	中世陶器	播鉢	A区, I層	-	-	-	珠洲系, 内面粗い割目	珠洲IV期, 13C末～14C中葉
図159-28	117A	10-964	中世陶器	大甕	A区, I層	-	-	-	珠洲系	珠洲IV期, 13C末～14C中葉
図159-29	117A	10-965	中世陶器	大甕	A区, I層	-	-	-	珠洲系, 内面に無文の当て具瓶, 外面に平行印き瓶と割目による加飾	珠洲IV期, 13C末～14C中葉
図159-30	117A	10-966	中世陶器	甕	A区, I層	-	-	-	珠洲系, 体部内面に無文の当て具瓶, 体部外面に平行印き瓶	珠洲IV期, 13C末～14C中葉
図159-31	117B	10-978	中世陶器	甕	B区, I-1層	-	-	-	珠洲系, 体部外面に平行印き瓶, 体部内面に無文の当て具瓶	珠洲IV期, 13C末～14C中葉
図159-32	117B	10-983	中世磁器	皿	B区, II-1層	-	-	-	中国産内外面に染付	染付皿F群, 16C末～17C初

VI その他の時代の検出遺構と出土遺物

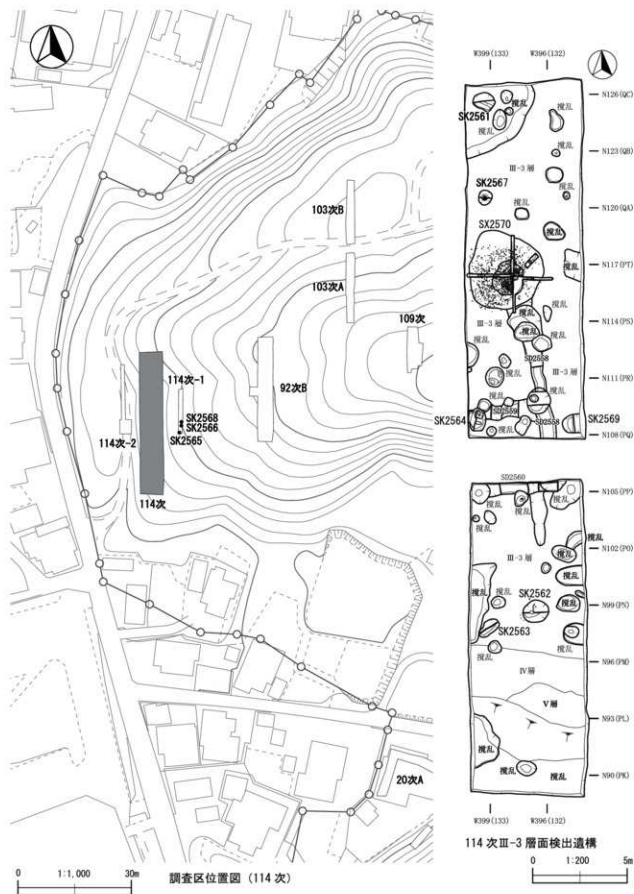


図 160 近世墓検出位置図



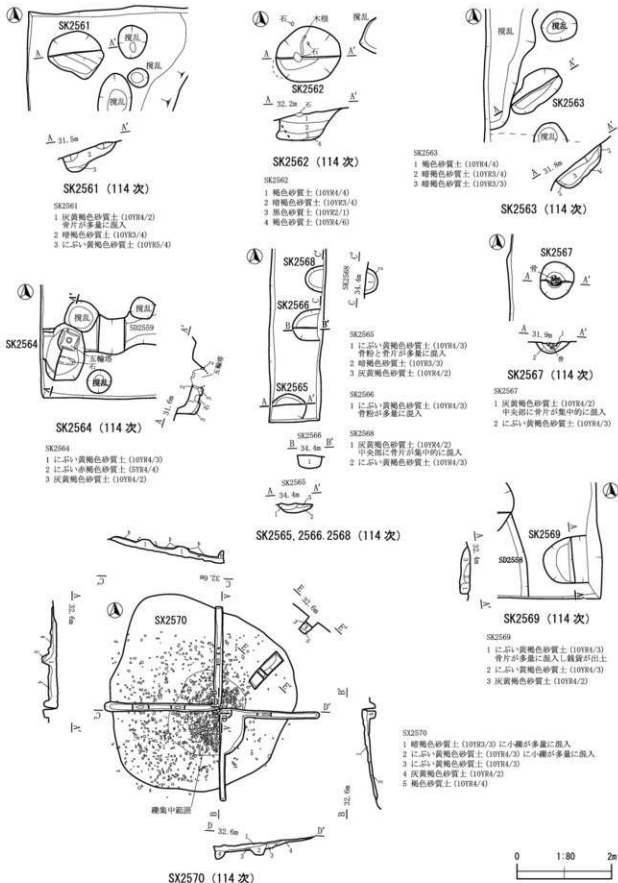


図161 近世墓 (SK2561 ~ 2569) 火葬墓、SK2570 集石遺構

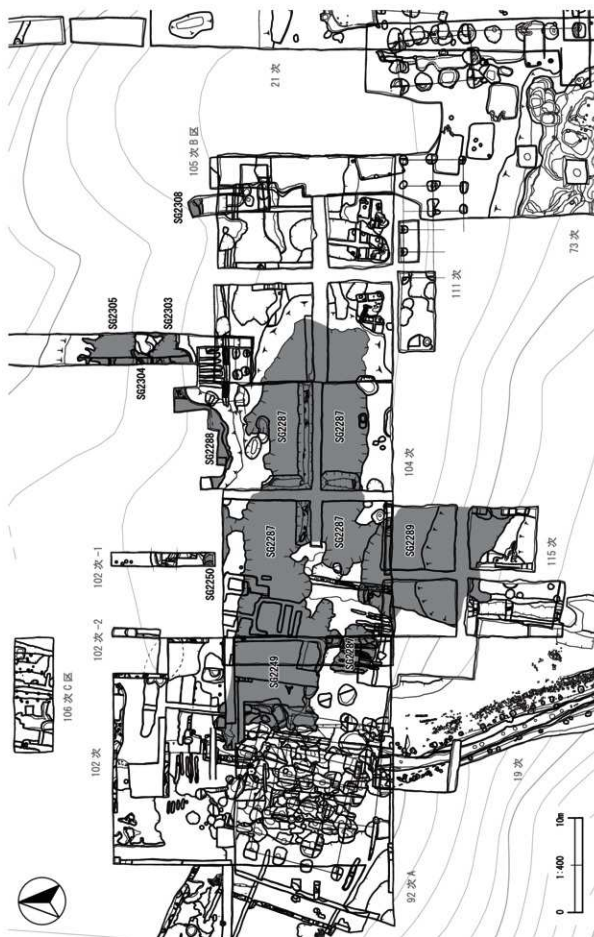


図 162 近世土取り穴①

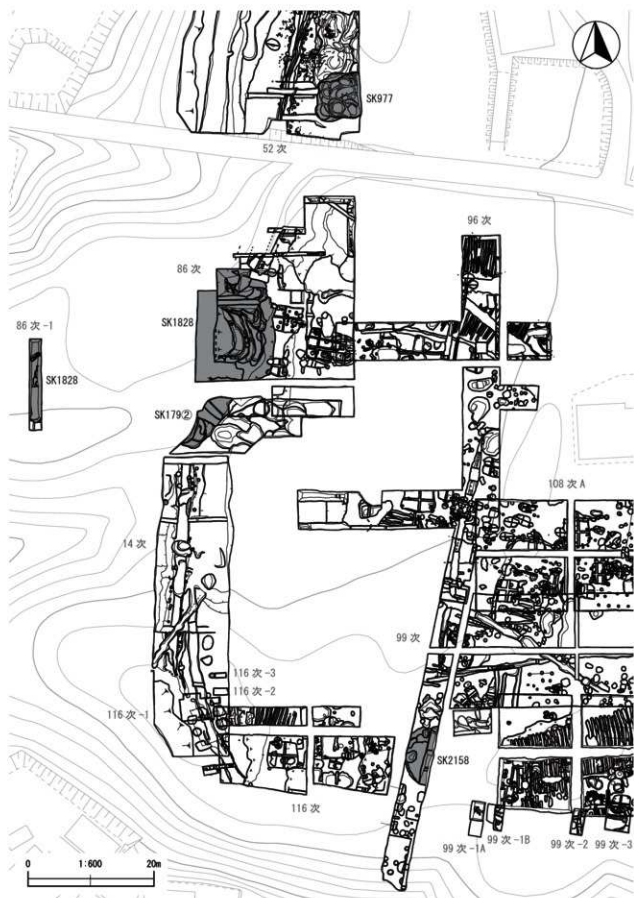


図 163 近世土取り穴②

## VI その他の時代の検出遺構と出土遺物

表80 近世墓遺構属性一覧

図No.	調査 次数	遺構 番号	種別	位置・ 層位	規模	重複関係	備考	検出層位 の年代	出土遺物 の年代	遺構分類 時期
図161	114	SK2561	火葬墓	Ⅲ-3層	長軸1.2m×短軸80cm,深さ36cm,楕円形		人骨片,炭化物出土	16C末~ 17C初	16C後半	16C末~ 17C初
図161	114	SK2562	火葬墓	Ⅲ-3層	長軸1.4m×短軸1.2m,深さ54cm,円形		骨粉,炭化物出土	16C末~ 17C初	15C代	16C末~ 17C初
図161	114	SK2563	火葬墓	Ⅲ-3層	長軸1.2m×短軸60cm,深さ36cm,楕円形		多量の炭化物出土	16C末~ 17C初		16C末~ 17C初
図161	114	SK2564	火葬墓	Ⅲ-3層	長軸1.2m×短軸80cm,深さ36cm,楕円形	→SD2559	上層から人骨片,火葬 から五輪塔の火輪埋 納	16C末~ 17C初	16C後半	16C末~ 17C初
図161	114	SK2565	火葬墓	Ⅲ-3層	長軸72cm×短軸54cm,深さ24cm,楕円形		人骨片出土	16C末~ 17C初	16C後半	16C末~ 17C初
図161	114	SK2566	火葬墓	Ⅲ-3層	長軸65cm以上×短軸52cm以上,深さ 27cm,楕円形		人骨片出土	16C末~ 17C初	16C後半	16C末~ 17C初
図161	114	SK2567	火葬墓	Ⅲ-3層	直径70cm,深さ20cm,円形		人骨片出土	16C末~ 17C初		16C末~ 17C初
図161	114	SK2568	火葬墓	Ⅲ-3層	東西36cm以上×南北36cm以上,深さ 27cm,楕円形		人骨片出土	16C末~ 17C初		16C末~ 17C初
図161	114	SK2569	火葬墓	Ⅲ-3層	長軸1.0m以上×短軸90cm,深さ18cm,楕 円形		人骨片出土	16C末~ 17C初	16C後半	16C末~ 17C初
図161	114	SX2570	集石遺構	Ⅲ-3層	直径1m,深さ6~24cm,円形,円形の範囲 内に直径5~12cmの礫が集中している,埋 土に大量の礫が混入,中央部1.0mの範囲 には深く、礫の埋込層が厚く、集中部中央 部に掘り込みのくぼみがある	SD2558→	一字一石塚が出土,仏 教関係遺構	16C末~ 17C初	17C以降	17C以降

表81 近世土取り穴遺構属性一覧

図No.	調査 次数	遺構 番号	種別	位置・ 層位	規模	重複関係	備考	検出層位 の年代	出土遺物 の年代	遺構分類 時期
図163	14	SK179②	土取り穴	2層			グループA,表土除去 段階で検出,S49概要 で遺構番号なし,本報 告で付与	8C③以降	近世	近世
図163	52	SK977	土取り穴	4層	直径1.5~2.5mの円形,楕円形の土取り穴 が連続している。		近世陶磁片出土	8C④以降	近世	近世
図163	86	SK1828	土取り穴	6・11層	東西38.0m以上×南北18.0m以上,深さ 2.5m,不整形			9C⑤~ 10C③	近代	近代
図163	99	SK2158	土取り穴	3層	東西4.4m以上×南北9.5m以上,深さ3.3m 以上			近世・近 代	18C代	近世以降
図162	102	SG2249	土取り穴	Ⅱ-2層	東西9.5m以上×南北10.5m,深さ1.0m以 上,不整形	SB1989・ SB1988・ SB1991・ SF2238・ SF2239→		近現代	18C代	近代
図162	102	SG2250	土取り穴	Ⅴ層	東西1.5m以上×南北1.0m以上,深さ50cm 以上		SG2249(102次)と埋土 が類似	8C②以前		近代
図162	104	SG2287	土取り穴	Ⅱ-3・Ⅲ -2・Ⅳ層	東西30m以上×南北16m以上,深さ1.6m 以上,不整形	SD2280・ SK2290・ SX2627→ →SB2273 ・SD2286・ SK2293		近現代	18C代	近代
図162	104	SG2288	土取り穴	Ⅳ層	東西10m以上×南北6m以上,深さ60cm以 上			8C②以前	近世	近世
図162	104	SG2289	土取り穴	Ⅲ-2① 層	東西12m以上×南北13m,深さ1.0m以上	SD2284・ SX2627→ →SD2286 ・SK2294・ SK2295	115次で再検出,延長 部分確認	9C③~④	近世	近世
図162	105A	SG2303	土取り穴	A区,Ⅳ- 1-③・ Ⅴ層	東西3.0m以上×南北4.0m以上,深さ0.3 ~0.8m,不整形	SG2304→	SG2288(104次)の延長	8C④~9C ①	18C代	近世
図162	105A	SG2304	土取り穴	A区, Ⅴ層	東西2.4m以上×南北1.6m以上,深さ 0.8m,不整形	SG2305→ →SG2303		8C②以前		近世
図162	105A	SG2305	土取り穴	A区,Ⅴ- 2・Ⅴ層	東西3.0m以上×南北6.0m以上,深さ0.3 ~0.5m,不整形	→SG2304		8C②以前	近世	近世
図162	105B	SG2308	土取り穴	B区, Ⅴ層	東西2.0m以上×南北1.0m以上		SG2288(104次), SG2303~2305(105次) の延長	8C②以前		近世

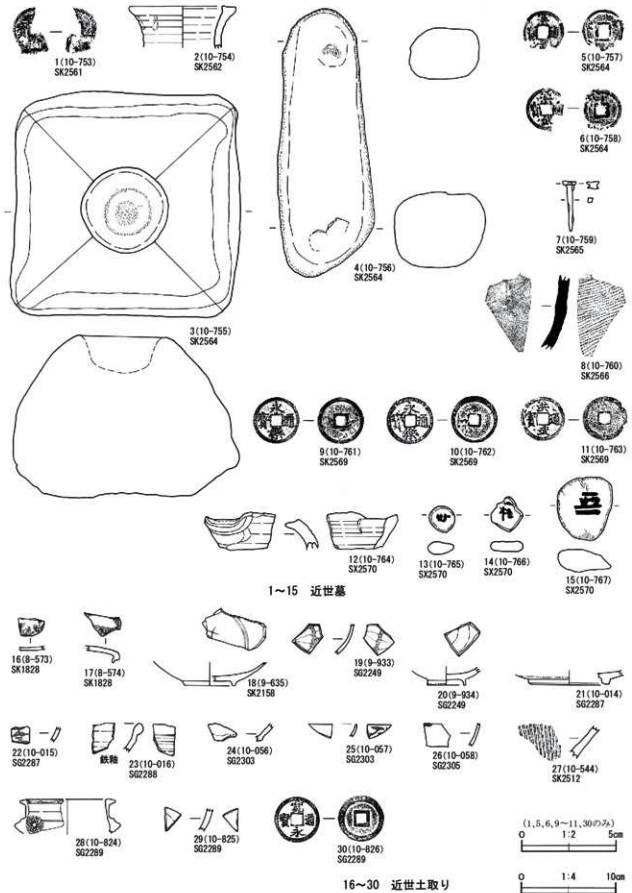


図164 近世遺物

## VI その他の時代の検出遺構と出土遺物

表82 近世遺物一覧

近世墓							調整技法等		時期	
図版番号	次数	遺物番号	種別	器種	出土地点・層位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)		時期
図164-1	114	10-753	銭貨	大藏通宝	SK2561埋土	-	-	-	模範銭か、漢、初鋳1360年、1/4残存、重量1.4g	16C後半か 古瀬戸域期か、15C代
図164-2	114	10-754	中世陶器	香炉か	SK2562埋土	10.8	-	-	瀬戸美濃系か	
図164-3	114	10-755	石製品	五輪	SK2564埋土	-	-	-	五輪塔の火輪、砂岩製	
図164-4	114	10-756	石製品	不明	SK2564埋土	-	-	-	花崗岩製、棒状、加熱している	
図164-5	114	10-757	銭貨	洪武通宝	SK2564埋土	外径 22.3mm	内径 5.5mm	厚さ 1.4mm	模範銭、明、初鋳1368年、重量1.5g	16C後半か
図164-6	114	10-758	銭貨	洪武通宝	SK2564埋土	外径 23.3mm	内径 6.2mm	厚さ 2.1mm	模範銭、明、初鋳1368年、重量2.3g	16C後半か
図164-7	114	10-759	鉄製品	釘	SK2565埋土	長さ 54.6mm	幅 14.9mm	厚さ 4.1mm	下部欠損	
図164-8	114	10-760	中世陶器	甕	SK2566埋土	-	-	-	珠洲系、外面平行引き板、内面無文の当て片板	
図164-9	114	10-761	銭貨	永楽通宝	SK2569埋土	外径 24.8mm	内径 5.6mm	厚さ 1.5mm	明、初鋳1408年、重量3.1g	16C後半か
図164-10	114	10-762	銭貨	永楽通宝	SK2569埋土	外径 25.0mm	内径 5.5mm	厚さ 1.9mm	明、初鋳1408年、重量3.2g	16C後半か
図164-11	114	10-763	銭貨	洪武通宝	SK2569埋土	外径 24.5mm	内径 5.6mm	厚さ 1.5mm	明、初鋳1368年、重量3.3g	16C後半か
図164-12	114	10-764	中世陶器	片口鉢	SX2570埋土	-	-	-	珠洲系、片口部分破片	IV期か、13C末 ~14C中葉か
図164-13	114	10-765	石製品	碁石	SX2570埋土	-	-	-	「世」の墨書、一字一石碁	17C以降
図164-14	114	10-766	石製品	碁石	SX2570埋土	-	-	-	「普」の墨書、一字一石碁	17C以降
図164-15	114	10-767	石製品	碁石	SX2570埋土	-	-	-	「無」の墨書、一字一石碁	17C以降

## 近世土取り穴

図版番号	次数	遺物番号	種別	器種	出土地点・層位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	調整技法等	時期
図164-16	86	8-573	磁器	皿	SK1828埋土 墓下層	-	-	-	金彩色の色絵	近世
図164-17	86	8-574	磁器	蓋	SK1828埋土 墓下層	-	-	-	銅板転写のコバルト染付	近代
図164-18	99	9-635	磁器	皿	SK2158埋土	-	-	5.4	肥前系、染付、内面外側に二重圈線、見込みに不明文様を染付	肥前IV期、 18C代
図164-19	102	9-933	磁器	碗	SG2249埋土	-	-	-	肥前系、染付、内外面に菊と水波文を染付	肥前IV期、 18C代
図164-20	102	9-934	磁器	碗	SG2249埋土	-	-	高台径 4.0	肥前系、蛇ノ目輪割ぎ	肥前IV期、 18C代
図164-21	104	10-014	陶器	皿	SG2287	-	-	8.0	肥前系、灰釉皿、内外面無軸、高台無軸	肥前IV期、 18C代
図164-22	104	10-015	磁器	碗	SG2287	-	-	-	染付	近世
図164-23	104	10-016	陶器	鉢	SG2288	-	-	-	内外面鉄軸	近世
図164-24	105A	10-056	陶器	皿	SG2303埋土	-	-	-	銅鉢軸、高台無軸	肥前IV期、 18C代
図164-25	105A	10-057	磁器	坪	SG2303埋土	-	-	-	瀬戸美濃系、外面に草花を染付	18C代か
図164-26	105A	10-058	磁器	碗	SG2305埋土	-	-	-	肥前系、染付	近世
図164-27	111	10-544	近世陶器	蒲鉢	SK2512埋土	-	-	-	内外面鉄軸、内面割し目	近世
図164-28	115	10-824	陶器	瓶	SG2289埋土	8.2	-	-	素焼き	近世
図164-29	115	10-825	陶器	碗	SG2289埋土	-	-	-	外面鉄軸の地に海鼠軸、内面一部に鉄軸	近世
図164-30	115	10-826	銭貨	寛永通宝	SG2289埋土	外径 24.5mm	内径 5.4mm	厚さ 1.4mm	古寛永、初鋳1636年、重量3.3g	近世